

ノ條項ヲ莫受クタク旨希望セルニ付全然非公式ニ且極秘トシテ之ヲ手交シタルニ「グレー」大臣ハ「尙右ニ付研究ヲ加ヘ置クヘシ」ト述ヘ「本件商議ニ付テハ北京ニ於テ「ジョルダン」ヘ日本側ヨリ何等内報ヲ與ヘラルヘキヤ支那ニ關係アル他ノ列強ヘモ同様ノ通知アルヘキヤ」ヲ尋ネタルニ付井上大使ハ「本件ハ全ク日英兩國特殊關係ニ鑑ミテ英國外務大臣ノ最モ内密ノ含迄ニ内報セラルル次第ニシテ貴大臣以外ニハ何レノ方面ヘモ通報ナカルヘキヲ疑ハス」ト答ヘタルニ「グレー」外相ハ之ヲ諒シ「然ラハ自分ニ於テモ他ノ列強ヘハ本件ニ付一切口外セサルコトトスヘシ」ト述ヘタリ尙青島處分問題ニ付テハ「グレー」外相及井上大使共ニ何等言及セザリキ其ノ後帝國政府カ極メテ内密ニ重大ナル要求ヲ支那ニ提出セル旨追々情報ニ接セル趣ヲ以テ諸國政府ヨリモ問合セノ次第等アリタルヲ以テ二月五日以降引續キ米佛露三國政府ニ對シテモ前記對英通告同様ノ通告ヲ行ヒ同時ニ右趣ヲ英國外務大臣ノ承知ニ入レシメタリ

二月十七日加藤大臣ハ在英井上大使ニ對シ「帝國政府ハ第一號乃至第四號ノ要求ヲ支那政府ニ提出スルト同時ニ大要左記(甲)號各項ノ實行ヲ勸告セル處(右(甲)號中(三)必要ノ地方トハ主トシテ南滿洲及東部內蒙古ヲ指ス)右勸告各條項ニ對スル同政府其後ノ態度ニ願ミ左記(乙)號ノ通修正スルコトニ決定シ二月十六日其旨在支公使ヘ電訓セル(尤右修正ハ最終限度ニシテ直ニ此點迄

讓歩スルヤ否ヤハ全然在支公使ノ裁量ニ一任セリ」旨並ニ「該勸告各條項ハ主トシテ從來日支兩國間ニ懸案ト成リ居ルモノニ係リ支那政府ニ對シ其實行ヲ勸告スルモノニシテ要求各條件トハ性質ヲ異ニシ自ラ輕重ノ別アル次第ナルヲ以テ前段何レノ政府ヘモ之ヲ通告セサル次第ナルカ貴官極内密ノ御含迄申進シ置ク」旨電報セリ

(甲) 號

- (一) 中央政府ニ政治財政及軍事顧問トシテ有力ナル日本人ヲ僱聘スルコト
- (二) 内地ニ於ケル日本ノ病院寺院及學校ニ對シ其土地所有權ヲ認ムルコト
- (三) 必要ノ地方ニ於ケル警察ヲ日支合同トシ右地方ニ於ケル支那警察官數ニ多數ノ日本人ヲ僱聘スルコト
- (四) 日本ヨリ一定ノ數量以上ノ兵器ノ供給ヲ仰キ又ハ支那ニ日支合辦ノ兵器廠ヲ設立シ日本ヨリ技師及材料ノ供給ヲ仰クコト
- (五) 武昌ト九江南昌總トヲ聯絡スル鐵道及南昌杭州蘭州間ノ鐵道敷設權ヲ日本ニ許與スルコト
- (六) 福建省ニ於ケル鐵道嶺山港灣ノ設備(造船所ヲ含ム)ニ關シ外國資本ヲ要スル場合ニハ先ツ日本ニ協議スヘキコト
- (七) 支那ニ於ケル日本人ノ布教權ヲ認ムルコト

(乙) 號

- (一) 顧問僱聘實行ヲ日本政府ニ於テ切ニ勸告スル旨支那政府ニ聲明スルニ止ムルモ差支ナシ
- (二) 及(七)他日支那側ニテ好意的考量ヲ加フヘキ旨ノ約束ヲ取付ケ置クニ止ムルコト
- (三) 差向撤回スルコト
- (四) 單ニ支那内地ニ日支合辦ノ兵器製造所ヲ設ケルコトト改ムルモ差支ナク不得已ニ於テハ兵器ノ件ハ追テ我軍憲トノ間ニ協定スヘキ旨主觀上ノ取極ヲ爲シ置クニ止ムルモ差支ナシ
- (五) 日本ニ於テ借款ヲ供給スル權利ヲ得ルコトニ改メ右借入金ニ依リ支那自ラ敷設スルニトスルモ苦シカラス
- (六) 支那政府ノ都合ニヨリテハ全額密約ト爲シ置クモ差支ナシ

帝國政府ハ第五號諸項ハ希望條項ニ過キサル故ヲ以テ英國政府ヲ始メ各國政府ニ之ヲ通告セス其ノ存在ニモ言及スルコト無カリシニ大正四年（一九一五年）一月末北京及天津ノ諸新聞カ交渉條項ニ關スル報道ヲ掲ケ右ハ二十一ヶ條ヨリ成ル旨掲載セルヲ始メトシ華盛頓紐育等ノ諸新聞モ亦北京電報トシテ類似ノ記事ヲ掲ケ倫敦ノ二三新聞モ亦大體同様ノ報道ヲ爲シタルカ二月末ニ至リテハ華盛頓及紐育等ノ諸新聞ニハ北京電報トシテ「各國政府ニ内告セラレサリシ事項ナリ」トシテ第五號各項ヲ多少變改セルモノヲ掲ケ同月十九日ノ「シカゴ、ヘラルド」ノ如キハ交渉條項全部ヲ曝露スルニ至リ右ハ支那政府ノ内報ニ依ルコト略推察ニ難カラス或ハ支那政府ニ於テ既ニ英佛露米等ニ於ケル自國公使ヲシテ我カ交渉條項全部ヲ各任國政府ニ通告シタルヤモ計リ難シト思料セラレタルヲ以テ旁々以テ一面支那政府ニ對シ嚴重ニ其ノ陰險手段ヲ詰責スルト同時ニ他面二月二十日ヨリ二十七日ニ亘リ英米佛露四國政府ニ對シ希望條項全部ヲ内告シ其ノ各項カ何レモ不當ノ要求ニ非サル所以ヲ説明セリ

則チ二月十九日加藤外務大臣ハ在英井上大使ニ對シ左ノ如ク電報スル處アリタリ

去ル十日在本邦英國大使來訪今回ノ對支要求條項ハ本大臣ヨリ内告ヲ受ケタルモノノ外尙數項アル由聞及ヒタリトテ不滿ノ意ヲ漏シタルニ付本大臣ハ支那ニ對スル要求ハ先日内告シタルモ

ノノミナルモ從來ノ懸案等ニ付キ支那ニ對シ實行ヲ希望スル條項ヲ申出テタル事ハ有之ヘキモ右ハ希望ニシテ要求ニ非ス英國ニ於テモ從來支那ニ對シ交渉スルニ當リ一々我方ニ通告スル次第ニアラサルニ付今回ノ對支交渉ニ關シテモ英國ニ於テ内告ヲ受ケル權利アルカ如ク思考スルハ解シ難シト述ヘ置キタル事アリ當時本大臣ハ同大使ニ對シテハ希望條項ノ内容ハ語ラサリシモ更ニ之ヲ承知シタキ旨ノ本國政府ノ希望ニテモ申來リタラハ内告シ置カンカト考ヘ居リシ次第ナリ就テハ右希望條項ハ貴官ニ於テ進ンテ英國外務大臣ニ内告セララル事然ルヘシト思考セララルニ於テハ右様内告セラレ差支ナク又先方ヨリ同合アルヲ待チ内告スル方適當ナリトセララルニ於テハ左様取計ハラルモ苦シカラス右内告ニ際シテハ以下述フル所御合アリタシ即我希望條項ハ數ネ多年ノ懸案タルモノニシテ此際其解決實行ヲ支那政府ニ希望セントスルモノニシテ要求トハ其性質ヲ異ニスルモノナルカ故ニ最初要求條項ヲ英國政府ニ内告スルニ當リ併セテ内告スルヲ必要ト思考セサリシ次第ニ別ニ隱秘セントスルカ如キ義ニアラス其第一ハ單ニ顧問ヲ備ハシメントスル迄ニテ新聞紙上傳フル如キ支那政府ヲ監督セントスルモノニアラス第二ニ第七八年來ノ懸案ニシテ第三ハ主トシテ滿洲ニ於テ日本ノ警察官ヲ備ハシメ一面支那警察機關ノ刷新ヲ計ルト同時ニ日支人間ニ警察事故ノ發生ヲ豫防セントスルニ外ナラス第四ハ從來屢々

議ニ上リ居リ又幾分實行セラレタル事柄ニシテ第六ハ福建省不割讓ノ當然ノ結果ナリ獨リ第五ノミハ或ハ英國人ニ於テ多少其勢域ヲ侵スモノトシテ不快ヲ感スルモノアルヘシト雖モ其線路中大部ハ年來ノ懸案タルノミナラス日本ハ已ニ閣下モ御承知ノ如ク英國ノタメニ寧湘線ニ對スル主張ヲ斷念シタル次第ナリ或ル新聞紙ハ此外尙日本ハ揚子江流域ニ於テ鑛山探掘權ヲ要求シ居ルカ如ク傳ヘ居レリト雖モ右ハ全ク無根ナリ或ハ要求第三號漢冶萍公司ヲ日支合辦トナスニ關聯シ同公司所屬鑛山附近ニ於ケル鑛山ニ付テハ同公司ノ承諾ナクシテ其探掘ヲ同公司以外ノモノニ許可セサル可キ事ヲ要求シ居レルニ付或ハ之ヲ誤リ傳ヘタルモノナルヘキカ右ハ同公司所屬鑛山ニ接近セル二三ノ鑛山ヲ指スモノニシテ全ク公司ノ利益ヲ防衛スルノ手段ニ外ナラス又北京「タイムス」通信員ハ日本ハ支那ノ領土保全擁護ハ日本ノミ之ヲ擔當スヘシトノ要求ヲ固執シ居レル事ヲ報道シ居レリトノ趣ナルカ右ノ如キハ全然跡方モナキ義ニシテ之ヲ以テモ該通信員ノ報道ノ極メテ不正確ナル事ヲ見ルニ足ルヘシ以上ノ次第ハ「タイムス」主筆ニ對シテモ貴官ノ裁量ニヨリ我希望條件內告ト共ニ説述セラレ差支ナシ內告濟ノ上ハ電報アリタシ依テ在英井上大使ハ對支希望條項ヲ遲滯無ク「グレイ」大臣ニ內告スル事ヲ機宜ニ適スト認メ二月二十日午後本多參事官ヲ外務省ニ遣ハシ「アルストン」ニ面會加藤大臣ノ「オラソリゼーシ

ン」ニ基ク「グレイ」大臣ヘノ內告トシテ大臣二月十七日訓電ノ趣旨ニ則リ問題ノ性質其ノ他ニ關シ程良ク説明ノ上右訓電中附屬(甲)號各點ヲ內示シ「グレイ」大臣ニ傳達方依頼セシメタル所「アルストン」ハ右內告ハ早速「グレイ」大臣ニ傳達スヘシト述ヘ殊ニ本件各問題ハ何レモ從來ノ懸案ニシテ今回提出ノ要求トハ全ク別問題ニ屬シ從ツテ特ニ英國政府ニ通報ニ及ハナリシ所以ノ事情ニ關シテハ「アルストン」ハ之ヲ諒トスル旨ヲ述ヘタリ

二月二十二日在本邦英國大使ハ加藤大臣ヲ來訪日本ノ對支要求カ英國ノ權益ヲ侵害スル場合ニハ英國政府ト協議セムコトヲ期待シ且日本政府カ支那ノ領土保全主權尊重ノ原則ヲ規定スル日英同盟條約ニ違反スルカ如キ要求ヲ爲サランコトヲ希望スル旨ノ「グレイ」外務大臣來電(註二)ヲ提出シ十日加藤大臣ヨリ內話ノ次第本國政府ニ電報ノ際「貴大臣カ今回ノ希望條項中ニ揚子江流域ニ於ケル英國ノ權利利益ト衝突スルコトアルトモ英國政府ニ內告スルノ限ニ在ラスト述ヘタル」旨申送リタル趣申述ヘタルニ付加藤大臣ハ「十日內話ノ際右様ノコトヲ述ヘタルコト斷シテナク只本大臣ハ帝國政府ニ於テ支那ニ對スル交渉ノ內容ヲ一々英國政府ニ內告スヘキ義務アルカ如ク云ハルルハ解シ難シト述ヘタルニ止リ英國ノ權利利益ト衝突スルコトアルトモ英國政府ヘ內告スルノ限リニ在ラスト述ヘタル次第ニ非ス」ト告ケ尙語ヲ繼キ先日ハ希望條項ヲ內告セストテ

不滿ヲ漏サレタルカトテ二月二十日本多參事官ヨリ「アルストン」へ内話ノ次第ヲ語リ「希望條
 項ノ内容ハ英國外務大臣ニ於テモ最早承知シ居ラルル次第ナルカ尙閣下へモ御内話ニ及フヘシ」
 トテ二月十七日大臣往電在英大使宛附屬(甲)號要領ヲ語リ各項ニ就キ其ノ執レモ支那ノ獨立領土
 保全又ハ他國ノ權利利益ニ影響ヲ及ホスモノニ非サルコトヲ説明シタル上「假令英國側ニ故障ア
 ルトモ一旦支那ニ提出シタル條項ヲ撤回又ハ變改スルコトハ斷シテ爲シ難キニ付英國政府ニ於テ
 右條承知アランコトヲ望ム從ツテ日支交渉進行中ハ英國政府ヨリ何等意見ノ申出等ナカランコト
 ヲ期望スルモノニシテ何等申出ラレタキコトアラハ交渉完了後ニセラレンコトヲ欲スト雖モ是非
 其間ニ申出ヲ要スルコトアリトセハ止ムヲ得サルニ付其申出ヲ受クヘキモ交渉一件ニ關シ支那ニ
 對シ申入ヲセラルルコトタケハ斷シテ見合サレンコトヲ希望スルニ付其旨特ニ「グレー」氏ニ申送
 ラレタキ」旨ヲ述ヘ「前記「グレー」外相來電中(一)ハ鐵道ニ關スル我希望條項ヲ意味スル次第
 ナランカ」ト尋ネタルニ大使ハ「自分モ左様思考ス」ト述ヘタルニ加藤大臣ハ本問題力決シテ今
 日ニ初マレンルニ非ス九江武昌線ニ關シ支那政府ト交渉中ナル事ハ昨年中英國政府ニ内告シタル通
 リニシテ何等新シキ問題ニ非サルコトヲ説明シ「萬一是等諸線中何等英國側ニ故障アル場合ニハ
 日本カ右敷設權ヲ得タル上ニテモ結局何等カノ形式ニ於テ日英共同經營トスルカ或ハ其資金ノ大

部分ヲ英國ニ仰ク事ヲ要スヘキニ付英國側トノ折合モ斯クシテツケ得ヘク又支那ハ敷設權ヲ與フ
 ルコトハ之ヲ承諾セサルヤモ知レス從テ日本ニ於テ該諸線ニ對スル借款權ヲ得ルニ止ル事トナル
 ヤモ計リ難ク其場合ニ於テモ日本市場ニ於テ右借款ヲ募ルコトハ望ナキニ付結局歐洲殊ニ英國市
 場ニ於テセサルヘカラサルコトトナルヘク何レニセヨ是等具體的問題ニ付テハ支那トノ交渉終結
 後英國側ノ利害ニ適應スル様如何様ニモ話合ヲ付ケ得ヘシト思考スルニ付此際右ニ對シ何等故障
 カマシキ事ヲ申出ラレサル様希望ス」ト述ヘ加藤大臣ハ更ニ「グリーン」大使ニ對シ「大使自身
 ノ意見ニテハ右鐵道ノ問題以外ニハ英國政府ニ於テ別段異論モナカルヘシト思考セラルルヤ」ト
 尋ネタルニ大使ハ「然リ」ト答ヘタリ

(註11) 「グリーン」外相來電

- 1 I am confident that if any of the demands of the wishes which the Japanese Government have presented to China should be found to conflict with the commercial interests of the Great Britain such as concessions which British subjects already hold or which have been promised to them, the Japanese Government will be ready to discuss them with His Majesty's Government as freely as we discussed with them concessions in Manchuria, which had been granted to British subjects and which the Japanese Government held to be in conflict with their interests, as for instance, the South Manchurian Railway.
- 2 I am very anxious that the Japanese Government should refrain from advancing any demands which could reasonably be considered to impair the integrity or independence of China, as I should find

myself in a difficult position if I were to be asked to explain how it was possible to reconcile such demands with the terms of the Alliance between England and Japan.

二月二十七日英國大使來省希望條項ニ關シ加藤大臣ヲ訪問シ「過日御内話ノ對支希望條項ノ件英國外務大臣へ電報シ置キタル處同大臣ニ於テ凡テ書類ヲ檢シ井上大使ヨリ内話ノ次第等ヲモ綜合スルニ本官ノ報告ト相違セル點アリタリトテ右ノ點閣下ニ確カムル様同大臣ヨリ電訓ニ接セリ即チ該希望條項中警察合同ノ件ニ關シ本使ヨリハ閣下御談話ノ一節トシテ右制度ヲ採用スヘキ地方ハ滿洲北京漢口及南京等ヲ指ス趣旨ナル旨電報シタル次第ナリ」ト述ヘタルニ付大臣ハ「夫レハ大ニ相違セリ本大臣ハ左様ノコトヲ申シタル意ナク左様ノコトハ片時モ思ヒタルコトナキ故斯カルコトヲ口ニシタル等モナク又實際左様ノコトハ云ハサリシナリ北京ノコトハ義和團事變後ニ於ケル同地ニ於ケル警察制度改善ノコトヲ例トシテ御話シタルコトハアリタレトモ其以外ニハ北京ノコトヲ申シタルコトナク其他ノ漢口南京等ニ付テハ其地名ヲ云ヒタルコトモナシ」ト答ヘタルニ大使ハ「然ラハ右警察合同ノコトハ主トシテ滿洲ニ關スル次第ト解シ宜シキヤ」ト念ヲ押シタルニ付大臣ハ「然リ其通ナリ」ト答ヘタルニ大使ハ「左様ナラハ其旨早速英國外務大臣へ電報スヘシ先日前述ノ諸地方ト云フコトニ伺ヒタル様存シタリ」ト述ヘタリ

第三節 日支關係緊張ニ對スル英國政府ノ憂慮

三月八日午後在英本多參事官ニ對シ「グレー」外務大臣ハ左ノ如ク談話セリ

實ハ日本ノ對支要求問題ニ付大體自分ノ所感ヲ談シタク來訪ヲ煩ハシタルカ日本要求中直接英國ノ利害ニ關係アルハ鐵道ノミニテ在日本英國大使ニ對シ英國ニ關聯アル鐵道 *concession* ヲ詳細ニ明示ノ上日本政府ニ申入レシムル次第アリ其電訓ノ寫ハ何レ井上氏ニ内送スヘシ乍去右鐵道問題ノ如キハ云ハハ小事ニ過キス (minor point of the question) 自分ノ大ニ懸念スル所ハ日支問題ヨリ起生スヘキ *political development* ニアリ獨逸國カ支那ニ於テ盛ニ陰謀ヲ逞フシツツアルハ勿論事實ニシテ之ハ支那ヲ使嚇シテ日本ノ要求ニ反抗セシムヘク百方使嚇シツツアルヘキノミナラス之ニ依リ日支兩國間ノ衝突ヲ見ル如キコトアレハ其最モ本懐トスル所ナルヘシ自分ハ曩ニ既ニ加藤男ニモ申入レタル如ク今回ノ問題ニ付テハ第三國側ヨリ何等質問ニ接スル如キ場合ニハ出來得ル限り日本國ノ要求ヲ支持シ以テ同盟ノ誼ヲ全フシタキ精神ナルカ實ハ御承知ノ通議會ニ於テモ既ニ數回質問アリ今日迄ハ概シテ簡單無雜作ノ答辯ヲ以テ之ヲ片付ケ來リタルカ引續キ尙質問ノ通告ニ接シ居レリ右様ノ次第ニ付例ヘハ日本國在野某名士談トシテ最近

得タル報道ノ如キ事態カ出現セララルル如キコトアランカ自分ノ立場ハ随分困難ナルヘシ右某名士ノ談トハ支那ノ態度ニ鑑ミ日本國ハ宜敷此際北京ヲ占領シ支那ヲ日本ノ監督保護ノ下ニ置クヘシト云フニアルカ今後萬一曰支間ノ破裂トナリ幾分右様類似ノ事態ニテモ生スルコトアランニハ所謂日英同盟ノ目的ニ伴ル事態トシテ内外ヨリ質問續發自分モ非常ニ困難ヲ感スヘシ支那モマナカ日本國ノ要求ヲ一モ二モナク排斥スルカ如キ亂暴ニハ出テサルヘク又支那トシテハ此際何等カ讓歩ヲナスヘキモノト自分ハ思考スル次第ナルカ要スルニ日本國ハ支那ニ對シテハ忍耐アル説得 (Patient Persuasion) ニ依リテ其主張ヲ計ルコトトシ談判破裂ト云フカ如キコトナキ極切望スル所ナリ右自分ノ所感ハ加藤男ニ申入ル積ナリ元來 *increase of Japan's share of development of China* ハ自分ノ夙ニ當然ト認メ居ル所ナリ日本ハ既ニ米國ニモ加奈陀ニモ移民ニ重キヲ置キヲラス何レニカ國民ノ發展地ヲ求メタルヘカラス此事情ニ鑑ミルモ支那ニ於テ將來日本カ商工業上其他將來益々發展スヘキハ自然ノ數ニシテ殊ニ滿洲ニ於ケル日本ノ地位伸張ハ自分ノ夙ニ同情スル所ニシテ加藤男ニモ毎々御話シ致シタル通ナリ云々

三月十二日在英井上大使ハ「グレー」外務大臣ヲ往訪シタル所同外務大臣ハ其ノ談話中三月八日本多參事官ニ語レルト同様ノ所見ヲ述ヘ「日本國ノ要求又ハ希望條件ニシテ萬一支那ノ主權又ハ領土保全ニ影響ヲ及ホスカ如キコトアル場合ニハ他ノ諸外國ヨリ右ハ日英同盟ノ精神ニ反スルモノニアラサルヤトノ質問ヲ起シ我方ハ之カ答辯ニ困難ヲ感スヘク又曰支兩國ノ交渉ニシテ萬一破裂シ爲ニ曰支兩國ノ衝突ヲ來スカ如キコトアル場合ニハ支那ノ事態ニ容易ナラサル紛糾ヲ生スヘキヲ以テ此點ニ付自分ハ深ク憂慮ヲ抱キ居ル所ニシテ兩國交渉ノ圓滿ナル妥結ヲ見ルニ至ルコトヲ切望スル次第ナルカ頃日若シ支那ニシテ日本國ノ要求ヲ悉ク應諾セサル場合ニハ日本國ハ非常手段ヲ施スニ至ルヘキヤノ報道モ傳ハリ現ニ過日本多參事官ニモ語リタルカ如キ日本國ノ某政治家ノ談論ノ如キハ自然甲ヨリ乙ニ傳ヘ一般世間ノ耳ヲ傾クル所トナリ既ニ議會ニ於テモ本件要求問題ニ付政府ニ質問ヲ試ムル者連續絶ヘサル有様ナリ」ト述ヘタルニ付井上大使ハ一己ノ意見トシテ「我方ニ於テハ支那ノ主權又ハ領土保全ヲ侵害スルカ如キ意思無キハ既ニ内示ニ及ヒタル要求等ニ依リ明ナルヘク又非常手段云々ノ如キモ全ク一種ノ捏造說ニ過キサルヘキヲ以テ貴下ノ杞憂セララルルカ如キ事態ノ發生スルコトハ萬々之レナカルヘシト確信ス且日本國某政治家ノ談ノ如キハ之ヲ事實トスルモ此種ノ *chauvinists* ハ何レノ國ニモ其例アルコトニシテ殊ニ日本國ハ目下總理ヲ控ヘ居ルコトトテ是等政治家ノ談論ハ何レモ何等カ爲ニスル所アリテノコトナルヘク深ク重キヲ措クニ足ラスト思考ス」ト答ヘ置キタリ

三月二十七日在本邦英國大使來訪英國外務大臣ヨリノ訓令トシテ「英國政府ハ度々支那政府ヨリ
 今回日本軍隊ノ出動ニ付何等日本政府ヨリ協議ヲ受ケタルヤトノ質問ニ接シタルモ右出動ノ件ハ
 英國外務大臣限リ極内密ノ含迄ニ日本政府ヨリ通報ヲ受ケタルモノ故已ムヲ得ス誠默ヲ守リ居ル
 モ何分同盟國ノ間ニテ消息ヲ知ラサル旨言ヒ張リ得サル筋合ニモアリ頗ル困却シ居レルニ付右軍
 隊ノ出動ハ更代ノ爲ナル旨ノ通報ニ接シ居レル趣答フルコトト致度」旨申述ヘタルニ付加藤大臣
 ハ「實ハ支那政府ヨリモ過般我軍隊出動ノ目的問合セアリタルニヨリ右ハ更替ノ爲ナルモ支那側
 ニ於テ迅速ニ目下ノ交渉ヲ纏メサルト取繕不行届トノ爲山東地方上海方面其他ニ排日的暴行ヲ見
 居ル處此ノ如キ風潮已マサルニ於テハ或ハ我軍隊ノ交替モ豫期ノ如ク速ニ完了シ得サルニ至ル
 ナキヲ保セサル趣答ヘ置キタリ若シ此上支那側ヨリ英國政府ニ問合アラハ英國外務大臣ヨリハ
 I understand that it is for the purpose of reliefノ意味ニテ漠然答ヘ置カレ度」旨述ヘ置キタリ
 其ノ節同大使ハ「此際「ジョルダン」公使ヲシテ日支交渉促進方支那政府ヘ申入レシメテハ如何」
 トノ旨單ニ同大使限リノ思付トシテ申述ヘタルニ付加藤大臣ハ「將來或ハ左様願フ如キコト生ス
 ルヤモ圖ラレサルモ差當リ別ニ其必要ヲ見サル」趣ヲ答ヘ輕ク斷ハリ置キタリ

第四節 南支鐵道問題ニ關スル英國政府ノ抗議

在本邦英國大使ハ三月十日南支鐵道問題ニ關スル覺書ヲ加藤大臣ニ提出セリ右覺書ハ相應長文ノ
 モノナルカ要スルニ日本側對支要求中第五號ニハ(一)武昌ト九江南昌トヲ連絡スル鐵道(二)南昌
 杭州鐵道(三)南昌潮州鐵道ニ關スル條件ヲ含ミタルカ右ハ何レモ英支間寧湘鐵道借款契約滬杭甬
 鐵道借款契約大正三年八月二十四日支那交通總長在支英國公使間ノ協定ニ基ク英國ノ既得權ニ抵
 觸スルコトヲ一々具體的ニ説明シ帝國政府ノ注意ヲ促セルモノナリ

四月十四日在英井上大使ト會談ノ際「グレー」外務大臣ハ對支交涉問題ニ言及シ最近ノ成行ニ付
 消息ノ有無ニ付尋ネタルニ付井上大使ハ「久シク何等電報ニ接セサルモ右ハ事態格別變調ナキ爲
 ナルヘク談判ハ遲緩ナカラ順調ニ進行シ居ルコトナランカト存シ居ル」旨ヲ答ヘタル處同外務大
 臣ハ「自分モ數週間來在北京英國公使ヨリモ又在東京英國大使ヨリモ何等報道ニ接セス本件ニ付
 テハ曩ニモ御話シタルカ如ク貴我利益ノ衝突ヲ避クル爲鐵道問題ニ關スル英國ノ地位ヲ詳細在日
 本英國大使ヲシテ加藤男ニ通牒セシメ置キタル次第ナルカ爾來大分時日モ經過シタルコトニモ有
 之旁以テ一兩日前同大使ニ對シ本件ニ付加藤男ト會見右通牒ノ趣旨ニ好意的考量ヲ加ヘラル様

要請スヘキ旨電訓ニ及ヒタル次第ナリト語リタリ

四月十五日英國大使來省南支鐵道問題ニ關シ加藤大臣ニ對シ「貴國對支問題交渉中鐵道問題ニ關シ曩ニ本使ヨリ提出シタル覺書ニ對シ其内何等御回答ヲ得ヘキヤ伺ヒ出ツヘキ旨英國外務大臣ヨリ訓令ニ接シタリ」ト述ヘタルニ付加藤大臣ハ同大使ニ對シ「右ノ次第ハ同大臣ヨリ井上大使ヘ談話アリタル趣同大使ヨリモ電報アリタルカ本件覺書ニ對シ帝國政府ヨリ近日回答ヲ爲ス積ユテ其案文モ既ニ略々成リ居ル位ニテ只尙少シク手ヲ入ルヘキ點等アリテ今日迄ハ其運ヒニ至ラサル權ノ次第ナリ其内容ハ貴國政府ノ所說ニ同意スルニ在リトハ申シ難キモ貴國政府ニ於テ正當ニ獲得シ居ル利權ヲ無視シテ突進スルカ如キハ帝國政府ノ斷シテ爲ササル所ナルニ付其段ハ貴國政府ニ於テ毫モ意ヲ留メラルルコトナキ様希望ス支那トノ關係ニ於テハ該鐵道ニ關スル問題ハ最近二回ノ會議ニ於テ論議セラレタルカ日置公使ハ(一)我要求線路中他國ニ與ヘサル何等關係ナキ部分ニ付テハ商議ノ餘地アルヘキニ非スヤ(二)他國トノ鐵道借款契約條項ニ對スル解釋上我要求線路ヲ支持スヘキ十分ノ理由ヲ提出セハ是亦商議ノ餘地アルヘキニ非スヤ(三)他國ノ取極ト低價スル點ハ日本カ直接其他國ト協議ヲ整ヘタル場合ニハ支那ハ何等反對スヘキ理由ナキニ非スヤトノ三回ヲ提出シタルカ陸外交總長ハ言ヲ左右ニ託シテ明晰ナル回答ヲ與フルヲ避ケ漠然之カ承諾ヲ肯

セナリシ趣ナリ尙此先モ討議ニ上ルコトナランカ要スルニ貴國ト協議ヲ纏ムルコトトセハ支那側ニ於テ之ヲ拒ムヘキ理由ハナカルヘシト答ヘタリ

在英井上大使四月十七日發電報ニヨレハ在本邦英國大使發英國外務大臣宛電報中「三月十七日日本大使ト會見ノ節加藤大臣ヨリ鐵道問題ニ付英國ノ既得權ノ爲ニ支那政府ニ於テ交渉ニ應セサル場合ニハ本問題ニ付テハ支那トノ談判ヲ進ムル前ニ英國政府ト或協定ヲ爲スコトトスヘキ旨談話シタル」趣記載シアル處右ニ關シ加藤外務大臣ハ四月二十日在英井上大使宛左ノ如ク電報スル處アリ

本大臣談話ノ趣旨ハ若シ支那國政府ニ於テ英國側ノ故障ヲ顧慮スルニ於テハ英國側トノ打合ハ日本ニ於テ引受ケルコトトシ曩ニ角英國側ニ於テ故障ナキ限リ同意スル旨ヲ約束スル様支那政府ニ對シ交渉ヲ進メ詳細ハ今回ノ對支交渉ト引離シ協定スルノ外ナシト思考スル旨申述ヘタル次第ニシテ換言セハ支那政府ニ對シ同政府ニ於テ英國側ノ故障ノ爲交渉ニ應シ難シトノコトナラハ日本ニ於テ先以テ英國側ト協議シ其上ニテナラハ更ニ交渉ニ應スルヤチ尋ネ若シ支那政府ニ於テ右ニテ邊支ナシトノコトナラハ其場合ニ英國側ト開談スル考ナル旨申述タル次第ニシテ右ノ如ク支那側ノ意向ヲ確カムルコトモモスシテ支那政府トノ交渉ヲ差置キ英國側ト協定セントスル考ナル如ク語リタル儀ニハ非ス尙在本邦英國大使ハ四月十五日來省英國覺書ニ對スル回答ヲ催促シタルモ該電訓寫ハ持參セス前段三月十七日會談ニ關スル部分ニ言及セス其際右催促ニ對シテハ近々回答ヲ爲ス積ニテ案文モ既ニ略々成リ居ル旨ヲ答ヘ本件ニ關スル支那トノ交渉ノ模樣大要内話シ置キタル次第ナリ

前記加藤大臣ノ電報ニ對シ在英井上大使ヨリ四月二十六日電報ヲ以テ左ノ如ク質疑アリタリ

南支鐵道ノ件ニ付テハ帝國政府ノ考ハ畢竟先ツ英國領ト話合ヲ達ケタル上其結果ニヨリ改メテ支那ニ交渉セラルルニアル
義ト了解セラルル所果シテ然ラハ此際右ノ御意通明白ニ御聲明相成一旦本件ヲ今同ノ交渉ヨリ引離スコトトセラルルコ
ト事宜ニ違セラルヤ蓋シ本問題ニ關スル英國領ノ見地ハ既ニ三月十日「グレイ」大臣通牒ニ依リ詳細明瞭ニ之レアリ貴電ノ
如キ案文ニテハ英國領ニ對シテモ餘リニ白ヤシキ據アリ帝國政府折角ノ御意モ爲ニ徹底ヲ缺クノ憾ミヲ免レサルノミナ
ラス却テ支那領ニモ Disposition ノ餘地ヲ與フル虞アリト思考ス目下ノ事態ニ鑑ミテ何本御再考相願ヒタシ

右質疑ニ對シ同二十六日加藤大臣ヨリ在英井上大使宛電報左ノ如シ

南支鐵道ノ件ニ關スル我修正案ハ英國領ノ意圖ヲ斟酌シタル結果タルハ勿論ナルモ御來示ノ如ク此際先ツ英國領トノ話合
ヲ達ケ其ノ結果ニヨリ更メテ支那ニ交渉セントスル趣旨ニアラスシテ英國領ニ故障ナキコト明ニナリタル場合ニハ支那ニ
於テ我要求ニ合意スヘシトノ事ヲ記録ニ止ムルカ又ハ英國領トノ話合ニ我要求スル鐵路ヲ廢ルヘカラストノ
旨ヲ記録ニ止ムルカ二者其一ヲ實行セントスル義ニシテ御承知ノ通り本件ニ關スル交渉ノ成行ニ鑑ミ支那領ト何等カノ了
解ヲラケ置カスシテ漫然本問題ヲ今同ノ交渉ヨリ分離シ難キハ申ス迄モナキ義ナリ故ニ修正案ノ趣旨ハ蓋當リ日支兩國間
ニ他日英國領ニ故障ナキ事明ニナリタル場合又ハ英國領トノ話合ニ關シタル場合ニハ支那ニ於テ我要求ニ同意スヘシトノ
主眼上ノ了解ヲツケ置カントスルモノニシテ實際ニ於テハ本件ヲ今同ノ交渉ヨリ引離スト同種ノ結果トナルヘキモ形式上
前述ノ場合ニ於テハ支那領カ同意スヘキコトヲ今日記録セシメントスルモノナリ又我要求各鐵路ハ英國領ノ獲得シタル路
路ト競争トナルヘシト認メラルモノハアルヘキモ全然同一ノ鐵路ハ之ナキ義ニ付其邊御含ノ上内告方取計ハレタク日置
公使ハ已ニ今二十六日左ノ趣旨ニテ支那領ニ交渉シタル答ナリ何レ日置ヨリ電報アリ次第改メテ申進スヘシ

英國領覺書ニ對スル帝國政府回答督促方ニ關シ四月二十八日在英井上大使ヨリ加藤外務大臣宛左ノ如ク來電アリ

英國領トノ行態ニ至リテハ「グレイ」氏ニ於テハ三月十日覺書ニ對シ曩ニ在日本英國大使ヲシテ我回答ヲ促シ居リ而シテ右
ハ我鐵道要求ヲ以テ英國領ノ利益ニ輕觸スルトノ見地ノ下ニ彼我ノ間ニ衝突ヲ避ケル希望ニ出ツルモノ故此ノ際速カニ我
國答ヲ與フル必要アルヘク自然「グレイ」氏トノ會見ノ際ハ其ノ點ニ付質問アルヘク豫想セラルル所其ノ場合何等承知スル
所ナシト官フカ知キハ本使ノ立場トシテ如何ニモ「チークワード」ナルノミナラス或ハ帝國政府ノ眞意ニ付テモ誤解ヲ惹起
シ本件ニ關スル今後ノ交渉ニモ累ヲ及スニ至ランコトヲ恐ル殊ニ本件提案ニシテ支那政府ニ提出日ナラス支那駐劄英國公
使其他新聞記者ニモ漏泄セストモ限ラス就テハ英國政府ニ對シテ丈ケハ日英將來ノ親善ニ鑑ミ此場合本件ニ關スル我方ノ
所存決定次第内報シ置ク方可然ト思考セラルルニ付切メテハ前述「グレイ」氏覺書ニ對スル我大體ノ方針ナリトモ本使ニ
於テ同氏ノ間ニ應シ得ル様何分ノ御垂示相願ヒタク切望ニ堪ヘス右ハ獨リ本使ノ立場ノタメニノミ申上ケル次第ニハアラ
ス其ノ邊御高察ノ上御同調ヲ仰ケ

四月二十八日加藤大臣ハ在本邦英國大使ニ對シ前記同大使ノ三月十日附覺書ニ對スル回答覺書ヲ
送付セリ而シテ右覺書ニ於テハ一々英國政府ノ主張ノ不當ナルコトヲ辯明セル上帝國政府ノ修正
案ノ要旨ヲ掲ケ「英國政府カ十分帝國政府ノ地位ヲ諒解シ右修正案ニ付何等異議ヲ挾ムカ如キコ
トナカラムコトヲ切望スル」旨記載セリ尙本件南支鐵道問題ニ關スル日英交渉經過ニ付テハ本卷
第十二章第五節第五項大正四年ニ於ケル南支鐵道問題中ニ詳細説明セリ

同日加藤大臣ハ在英井上大使ニ對シ右回答疊書ヲ電報シ適當ノ機會ニ於テ右要旨ヲ「グレー」外務大臣ニ申出ツヘキ旨訓令セリ

日支交渉未決事項ニ付テハ我方最終讓歩案ヲ作製シ支那側回答ヲ求メ萬一應諾セサル場合ニハ威カヲ用ヒテ強壓スルノ措置ニ出ツル事ニ廟議決定シ右ニ關シ英國政府ニ對シ説明ヲ與ヘ置ク可キ旨四月二十五日加藤外務大臣ヨリ在英井上大使宛左ノ如ク電報セリ

日支交渉未決事項ニ付テハ更ニ支那側ノ主張ヲモ參酌シ慎重審議ノ結果別電甲號ノ通リ我最終讓歩ノ程度ヲ決定シ別電乙號及丙號ノ通リ在支公使ニ電報シタリ

就テハ日置公使ヨリ支那側ヘ申入テ爲シタル節ハ直チニ其旨貴官ニ電報スヘキニ付其上ニテ貴官ハ英國外務大臣ニ會見セラレ同大臣限リ極メテ内密ノ含迄トシテ日本ハ飽ク迄平和的解決ヲ切望シ最善ヲ盡スノ意圖ヲ以テ前記ノ通リ在支公使ニ電報セル旨可然數語既述セラレ又各條項ニ付テハ左ノ通リ說明ヲ加ヘ我最終讓歩案ノ何レノ點ヨリ見ルモ何等無理ナル所ナキモノタルコト十分英國外務大臣ノ廳裡ニ印象セシメタル上(尤モ任國ニ内告シアラサル點則ヘハ漢治萍ニ關スル第二條滿蒙問題前文ノ件ノ如キニハ言及ニ及ハサルハ申ス迄モナシ)切メテ別電甲號ノ事項次ヲ貫徹セサルニ於テハ今同交渉ノ眼目失ハレ延テ支那ニ於ケル日本ノ「policy」ヲ失望シ結局東洋永遠ノ平和ヲ確立スルニ必要ナル日本ノ地位ヲ弱ムヘシ之レ國家トシテ感フヘカラサルコトタルノミナラス爲ニ日英同盟ノ目的ヲ遂行スルコトモ困難ナルニ至ルヘク將又日本國民ニ於テモ今同ノ對支交渉ヲ國家將來ノ運命ヲ左右スルモノトシテ極メテ重大視シ居レル關係モアリ旁々別電甲號最後ノ讓歩程度ノコトハ日本國ハ如何ナル困難ヲ冒シテモ之ヲ貫徹セサルヘカラサルモノナルコトヲ詳細陳陳セラルヘシ

一、龍口又ハ芝罘ヨリ膠濟鐵道ニ連絡スル鐵道ノ件ハ支那側對策通リ

- 二、滿蒙ニ於ケル日本ノ特殊地位ハ同地方ノ現勢ト從來ノ歴史トニ關シ内外ノ公認スル所ニシテ是非共我原案通リ承認方支那ニ要求スルコトヲ必要トスル次第ナルモ支那ノ内情ヲモ諒察シ其注文ヲ容レ任ケテ今同ノ如キ讓歩ヲ爲スコトセ
- 一、特ニ遼寧内蒙古ノ如キハ僅ニ差向キ絕對必要ト認ムル事項次ニ止ムルコトトシタリ
- 三、漢治萍ノ件ハ屢次ノ會見ニヨリ支那當局方此程度ノコトヲハ約束シ得ヘキ旨聲明セル事項次ニ止メシモノナリ
- 四、支那船岸ノ修費及島嶼不割讓ノ件ハ支那側希望通リ宣言ノミニ止ムルコトトセリ
- 五、其他希望條項ニ付テハ殆ト全部屢次ノ意見ニヨリ知り得タル支那側内意通リノコトヲ後日ノ爲書面ニ止メ置カントスルニ止マルモノニシテ之ヲ詳説スレハ
 - (1) 顧問ノ件ハ支那當局カ口頭ニテ聲明セシ通リ
 - (2) 學校病院土地所有權ノ件モ大體支那意向通リ又寺院土地所有權ノコトハ全然除外スルコトトセリ
 - (3) 警察合同ノ件ハ撤回セリ
 - (4) 兵器ノ件ハ支那内意通リ
 - (5) 南支鐵道ノコトハ全然英國側ノ意向ヲ重セシ結果ナリ
 - (6) 福建省ノ地位ニ關スル問題ハ日支兩國ノ意見相一致シタル程度ノ事項ニ止ムルコトト爲シタルモノニシテ又米國政府ノ本件ニ對スル精神トモ相一致シ居レルハ在米大使ヨリ屢次ノ轉電ニテ御承知ノ通リ
 - (7) 布敷權ノコトハ全然他日ノ交渉ニ關リ從來ノ行掛ヲ失ハヌ丈ノコトニ止メタリ

別電甲號

已ニ協定済ノモノハ其條採用スルコトトシ未決條項ニ對スル我最終讓歩案左ノ通リ

(一) 山東省ニ於ケル鐵道敷設權ノ件ハ支那政府自ラ芝罘(煙臺)又ハ龍口ヨリ膠濟鐵道ニ接続スル鐵道敷設スルニ當リ

若シ編造ニシテ烟鐵道借款ヲ放棄スルニ於テハ日本資本家ニ對シ借款ヲ商議スヘキコトヲ約スレト改ム

(二) 滿蒙ニ關スル件 原案前文ヲ左ノ通り改ム

日本支那兩政府ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル彼我ノ經濟關係ヲ發展セシムル目的ノ爲ニ左ノ條款ヲ議定セリ

(三) 南滿洲ニ於ケル土地所有權及居住營業權ニ關スル我議案左ノ通り

第二條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ各種商工業上ノ產物ヲ建設スル爲又ハ農業經營ノ爲必要ナル土地ヲ賃借又ハ購買(賃租又ハ永租トスルモ差支ナク成ルヘキ永キ期限付ニテ且無條件ニテ更新シ得ヘキ租借ヲ含ムコトノ明カナル了解ノ下ニ商租ノ語ヲ用ユルモ可ナリ)スルコトヲ得

(本條ニ關聯シ若シ支那側ニ於テ租地章程ヲ作ル場合ニハ必ス日本國ト協議スルコトヲ爲シ置クコト)

第三條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ居住往來シ各種ノ商工業及其他ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第四條 前二條ニ關シ日本國臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル義務地方官ニ提出シ登錄ヲ受ケ且日本國領事官ニ於テ承認シタル警察法令ニ服從シ同シク其承認シタル課税ニ服スヘシ但シ警察法令及課税ニ關スル點ハ支那側ノ希望ニヨリテ密約トスルモ差支ナシ 民刑訴訟ハ日本人被告タル場合ニハ日本國領事官ニ於テ又支那人被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ聽席傍聽スルコトヲ得但シ土地ニ關スル日本人支那人間ノ民事訴訟ハ支那國ノ法律及地方慣習ニ依リ日本國領事官及支那國官吏ニ於テ共同審判スヘシ但シ將來同地方ノ司法制度完全ニ改良セラレルトキハ日本國臣民ニ關スル一切ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法廷ニ於テ審理スヘシ

(四) 東部內蒙古ニ付テハ

一、日支兩國臣民ノ合辦ニ依リ農業及附隨工業ノ經營ヲ爲サントスルトキハ之ヲ承認スルコト

二、租稅擔保借款及鐵道借款ハ先ツ日本ニ協議スルコト

三、山東省ノ例ニ倣ヒ若干ノ商埠地ヲ增設スルコト

ノ三項ノ要求ニ止ム尤モ東部內蒙古ニ關スル項ハ都合ニ依リテハ南滿洲ニ關スル分ト引離シ別個ノ約束トスルモ可ナリ

(五) 漢冶萍公司ノ件ハ同公司ト日本國トノ關係極メテ密接ナルニ付他日同公司關係者ト日本國資本家トノ間ニ合辦ノ議成リタルトキハ支那政府ニ於テ之ヲ承認スヘク又支那政府ハ同公司ヲ沒收セサルヘク又日本資本家ノ同意ナクシテ同公司ヲ國有トナスコトナカルヘク且又日本國以外ヨリ外資ヲ公司ニ入レシムルコトナカルヘキ旨ヲ約束セシムルニ止ムルコト

(六) 支那沿岸不割讓ノ件ハ支那政府自身ノ宣言ニテ足り之ヲ日本國政府ニ通告スルニ及ハサルコト
希望條項ハ左ノ通り修正ス

一、顧問ノ件ハ支那政府ニ於テ將來ニ於テモ必要ノ場合ニハ日本人ヲ僱用スヘキ旨會議條項ニ認メ双方記名シ置クコト

二、日本人支那内地ニ於テ學校病院ヲ設立スル爲土地ヲ租借購買セントスルトキハ支那中央政府ハ之ヲ允許スヘキ旨會議條項ニ認メ双方記名シ置クコト

三、兵器ノ件ハ他日適當ノ機會ニ於テ支那ヨリ陸軍武官ヲ日本ニ派シ日本軍事當局者ト直接兵器購入若ハ合辦兵器廠設立ノコトヲ協議スヘキ旨會議條項ニ認メ双方記名シ置クカ又ハ文案ニ認メ交換シ置クコト

四、南支鐵道ニ付テハ他外國ニ於テ故障ナキコト明カナルニ至リタル場合ニハ必ス日本國ニ許與スヘキコト又ハ本件ハ全然今同ノ交渉ヨリ引離シ別ニ日本國ニ於テ直接ニ支那側ノ所謂本件關係他外國トノ間ニ話ヲ離ムヘキニ付右欄マシ迄ハ本件鐵道ハ何レノ國ヘモ許與セサルヘキ旨會議條項ニ認メ双方記名シ置クカ又ハ文案ニ認メ交換シ置クコト

五、支那政府ハ福建省沿岸ニ於テ造船所、軍用貯炭所又ハ海軍根據地ヲ設ケ若クハ其他軍事上ノ施設ヲ爲スコトナ何レノ、國ニモ許ササルコト及支那政府ニ於テ外國ノ資金ニヨリ該省沿岸ニ同様ノ施設ヲ爲ササル旨何等カノ形式ニテ約束セ

六、有款備ノ件ハ述テ更メテ我方ヨリ交渉ヲ開始スヘキ旨會議録ニ記メ双方記名シ置ケト

四月二十六日午後三時在支日置公使ハ外交部ニ赴キ我方最後修正案ヲ支那側ニ提出セリ
 四月二十八日加藤大臣ハ英國大使ニ對シ曩ニ一月二十五日同大使ニ手交セル對支要求條項及二月
 二十二日同大使ヘ内話セル對支希望條項ニ關聯シ一々説明ヲ加ヘ殊ニ支那側ニ於テ承諾ヲ難シト
 スルハ南滿洲ニ於ケル土地所有權及居住權ノ問題ナルカ同問題ハ全部決定セサル次第ニハ非ス未
 決ノ點ノ主タルモノハ(イ)日本人ハ支那ノ警察法令及課税ニ服スヘキモ右法令及課税ハ日本領事
 官ノ承認スルモノタルヘシト(ロ)日本人ハ支那ノ提案(ロ)次ニ土地問題ニ關聯シ從來支那側ニ於テハ租地章
 程ナルモノヲ制定センコトヲ主張シ居ル點(今同モ先方ヨリ同様申出ヲ爲スヤモ計リ難ク其ノ場
 合ニハ右章程ハ日本ト協議スルヲ要スルコトトスヘシト提議シ居レリ)及(ハ)日支官憲會審ノ點以
 上三件ニシテ其内會審ノ件ハ嘗テ陸外交總長カ支那政府ノ確定的意見ニ非サルモ私見ニテハ可ナ
 リト述ヘタル所ニ保ル旨ヲ特ニ附言シ修正案提出ノ動機カ平和解決ノ希望ニ在ルコト及該案カ毫
 モ無理ナル所ナキ旨ヲ述ヘ日本ハ之カ貫徹ノ爲如何ナル困難ヲモ辭セサルノ趣旨ヲ詳細説示ノ上
 單ニ口頭説明備忘ノ爲ニ作成シタル要領書ニ過キササル旨ヲ斷リテ修正案要領(英文)ヲ手交シ「必

要ナラハ持歸ラルルモ差支ナク尤井上大使ヨリモ委細英國外務大臣ヘ内告シタル筈ナリ」ト述ヘ
 タルニ大使ハ右大臣ノ通告ニ對シ謝意ヲ表シ「要領書ハ之ヲ持歸ルヘシ」ト述ヘ「然シ本國政府
 ヘハ別ニ本使ヨリ詳細報告ノ必要ナルヘキカ」ト云ヘルニ付加藤大臣ハ「夫レハ御隨意ナリ」
 ト答ヘタリ「グリーン」大使ハ尙支那政府ノ回答期ヲ尋ネタルニ付加藤大臣ハ「二十六日會見ノ
 際ニハ多分來二十九日回答シ得ヘシトノコトナリシモ未タ何等確定シ居ル次第ニハ非ス」ト答ヘ
 タリ

第五節 日支國交破裂ニ對スル英國政府ノ憂慮

在英井上大使ハ四月二十八日英國外務大臣ト會見先ツ帝國政府ハ大局ヲ顧慮シ一日モ違カニ日支
 間ノ時局圓滿解決ヲ期センカ爲支那ノ終始交讓ノ誠意ヲ缺ク憾アルニ不拘支那ノ立場ト其ノ要望
 ヲ斟酌シ非常ノ讓歩ヲ以テ我カ原提案ニ修正ヲ加ヘ在支那公使ヲシテ新タニ支那政府ノ考量ヲ
 求メシムルニ至リタル始末ヲ稟述シ「就テハ右ニ關シ帝國政府ノ特別訓令ニ依リ閣下内密ノ御含
 迄茲ニ通告スヘキ義アリ」ト述ヘ曩ニ加藤大臣來示ノ交渉經過要領ヲ初メトシ修正案各條及其ノ
 説明其ノ他情報全體ヲ適宜英譯シテ作成シ置ケル覺書ヲ讀上ケタル所外務大臣ハ終始之ヲ傾聽シ

タル後先ツ今回ノ通牒ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表シタル上「只今拜聴シタル所ニテハ日本ノ新提案ハ大體ニ於テ妥當ナルカ如シ尤モ其内ニハ随分複雑ナル問題モ多キコト故篤ト研究ヲ加ヘタル上ナラテハ内容ニ關シ何等意見ヲ開陳スルコトヲ得ス我方ニ於テハ談判不成立ニヨリ日支兩國間ノ破裂ヲ見ルカ如キコト之レナキヲ切望スル次第ナリ」ト述ヘタルニ付井上大使ハ「斯ノ如キハ日本國モ素ヨリ十分ニ之ヲ避ケンコトヲ欲スル所ナルヲ以テ非常ノ決心ヲ以テ枉ケテ極度ノ讓歩ヲ行ヒ且膠州灣遼東モ約諾セントスル次第ナル」旨重ネテ説明シ「自分ノ私見ニテハ此以上ハ時局ノ發展如何ハ一ニ支那ノ決心次第ニ有之ト思考ス」ト附言シタルニ「グレー」外相ハ「萬一不幸ニシテ rupture ヲ見ルカ如キコトアリトスルモ其原因ハ日英同盟ノ目的ト衝突スル如キコト之ナカラシテ切望ス (We shall find ourselves in a very unpleasant position if the cause of rupture was found to be in conflict with objects of the alliance)」ト述ヘタリ同大臣ハ又「篤ト研究ノ爲貴使ノ讀上ケタル覺書ヲ貰受ケタシ」ト希望セルニ付大使ハ非公式トシテ之ヲ交付シタリ尙前記「グレー」大臣ト會談中「日英同盟ノ目的ヲ遂行スルコトモ困難トナルヘシ」云々ノ一節ニ關シ同外相ニ於テ「其意味合十分了解シ兼ヌル點アリ」トテ説明ヲ求メラレタルニ付井上大使ハ「修正案中顧問ニ關スル件スラ成立セサルカ如キコトアレハ日本國ニ於テ國論ノ沸騰ヲ見ルヘキ

ノミナラス日本國ハ世界環視ノ内ニ支那ノ手ニ依リ外交上ノ失敗ヲ被リタルコトトナリ其結果東洋ニ於ケル平和維持上極要ノ要素タル日本國ノ prestige and influence ハ全然失墜スルニ至ルヘシ從テ我方ハ百難ヲ排シテモ其目的ヲ達スルノ餘儀ナキ地位ニ在リト思考ス」ト述ヘタルニ「グレー」大臣ハ此ノ説明ヲ諒トセリ

四月三十日加藤外務大臣ヨリ在英井上大使宛左ノ如ク電報スル處アリ

四月二十八日井上大使ニ對スル英國外務大臣所言中「萬一 rupture ヲ見ルカ如キコトアリトスルモ其原因ハ日英同盟ノ目的ト衝突スル如キコト之ナカラシテ切望ス」云々ノ意義ニ付キテハ判斷ニ苦ム次第ナル處英國外務大臣ハ如何ナル意味合ニテ如上ノコトヲ述ヘラレタルモノト思考セラレ居ルヤ貴官ノ印象及解釋至急電報アリ度シ申ス迄モナク帝國政府ニ於テハ出來得ル限リ rupture ヲ避ケンコトニ苦心努力シ居ルモ萬一支那ノ態度誠意ヲ缺クノ結果遂ニ不幸 rupture ヲ見ルニ至ルモイテ支那ノ獨立及領土保全等ヲ使スノ結果トナルカ如キ事アリトスルモ之レ已ムテ得サル所ナルハ申ス迄モナシ英國外務大臣ノ意思ヲ付度スレハ萬一日支開戦スルモ英國力日支戰爭ニ引入レラレルカ如キコトヲ避ケ度爲速速シニ前記ノ如キ所言ヲ爲サレタルモノカトモ想像セラレルモ爲念實見同合ニ及フ次第ナリ

右質疑ニ對シ在英井上大使ヨリ加藤外務大臣宛五月一日左ノ通り回電アリ

英國外務大臣所言ノ意味ハ「若シモ我要求中支那ノ獨立及領土保全並ニ機會均等主義ニ輕觸スル如キ事由リ此等事由ノ爲論議不成立ノ結果日支間ノ rupture ヲ見ルカ如キ事アランニハ英國政府ハ日英同盟條約明文ノ手前特ニ又最近議會ニ於ケル同大臣聲明ニモ儘ミテ甚々明白カラサル地位ニ立ツヘシ」ト云フニ外ナラサル處ト本使ハ了解シタリ同大臣カ我提案ノ内容

ニ關シテハ其ノ研究ヲ進ケタル上ナラスハ何等意見ヲ開陳シ得スト斷ハリ大テ辯ナリ云々ニ轉シ右種ノ言ヲ爲サレ
 タル所ヲ見テモ其意ノアル所蓋シ右ノ邊ト思フス尙モ電報シタル如ク對支問題ニ關スル當國輿論ノ我ニ對スル反感モ主
 トシテ我要求方前記三大主義ニ從ハシ且英國既得利益ヲモ侵害ストノ誤解ニ出ラレニ外ナラス此誤解ハ支那國ノ機關機關
 ニ依リ益甚シキヲ加ヘ議會ニ於ケル果次ノ質問向迫トモ相成居ル次第ニ付キ勞以テ我要求及態度カ日英同盟主義ニ何等抵
 觸セサルモノナル事ヲ一般ニ了解セシムル爲與論啓蒙ノ爲迅速便宜ノ措置ヲ執ルノ要アルヲ痛切ニ感スル次第ナリ諒クト
 ム Orléans ノ手段ニテナリトモ我提議ノ具相ト帝國政府方支那ノ保全及機會均等故ニ第三國ノ利益ヲ尊重スルハ勿論支那
 政府ノ内情ヲモ顧慮シ態度ノ謙歩ニヨリ時局妥結ニ苦心シ居ル次第ノ一斑ナリトモ此際尙上ニ周知セシムル手段ヲ取ルコ
 ト目下ノ急務ト思フス右序ヲ以テ申述ス

五月一日我方ヨリ提出ノ最後修正案ニ對スル回答トシテ陸外交總長ハ一ノ對案ヲ日置公使ニ手交
 スルト同時ニ秘書ヲシテ大體左ノ意味ノ口上ヲ朗讀セシメタリ

第一日本國政府ノ提出シタル要求五號アリ第一號ハ山東問題第二號ハ南滿洲問題第三號ハ漢冶萍公司問題第四號ハ支那沿
 岸不測線ノ伸縮五號ハ顧問傳譯外六箇條ニシテ其内第一號及第二號ハ條約ヲ以テテ第三號及第四號ハ公文交換ヲ以テテ之ヲ
 取極メ第五號ハ勸告條件ナル旨當時日本國公使ヨリ委曲言明アリ
 爾來支那政府ハ慎重審議ヲ盡シ誠意ヲ披瀝シテ交渉ニ應ジタリ即チ山東問題ニ付テハ概要同意ヲ表シ第二號ニ付テハ日本
 國ノ南滿ニ於ケル特殊ノ地位ニ儘ミ該大租借期限ヲ延長シテ九十九年トナシ南滿洲鐵道三十六年ノ期限ヲ延長シテ九十九
 年トナシ安奉鐵道モ亦其期限ヲ九十九年ニ延長セリ之レ實ニ支那政府力忍ヒ難キ苦痛ヲ忍ビ以テ日本國ニ對シ絕對善隣友
 好ノ故ヲ表明シタルモノト云ハサルヘカラス此外第二號中ノ各項ハ讓步スヘキハ殆ト讓步シタリ只漢居問題ニ付テハ支那

ト日本支那ト外國トノ間ニ存スル條約上ノ低價ヲ避ケントシ最初ハ完全ニ裁判權ヲ支那ニ取メシコトヲ求メタルモ日本國
 ノ同意ヲ得ス爾後五六回ノ修正ヲ加ヘ遂ニ滿洲内地ニ於ケル雜居ノ日本人ニ保ル民刑訴訟ハ依然トシテ現行條約ノ規定ヲ
 適用スルコトトシ只土地租契ニ關スル訴訟ニ付テノミ支那ノ法權ヲ維持シ以テ領土主權ノ表示トセリ是亦支那政府力極度
 ノ讓步ヲ示シタル誠意ヲ見ルヘシ東部内蒙古ハ風規尙未タ開ケス元ト南滿洲ト同一視スヘカラス故ニ先ツ南滿ヲ開キ以テ
 外人實業ノ利ヲ圖ルニ止ムルノ外ナシ次ニ第三號漢冶萍公司ノ件ハ純然タル商事ナリ政府ノ漫ニ干涉スヘキ性質ノモノニ
 アラス故ニ該件本件ニ關シ聲明シタル範圍内ニ於テ約束ヲ爲スコトハ之ヲ妨ケサルモ其以外ノ事ニ至テハ殆ト不可能事ニ
 屬ス將又第四號ハ我主權ニ妨害アリ從テ最初ハ斷然商議ニ應セサル方針ナリシモ日本代表者ノ切實ナル請求ニ依リ更ニ考
 慮ヲ加ヘ主權ノ範圍内ニ於テ自ラ實質スルコトトセリ之ヲ要スルニ以上ノ諸項ハ皆我主權、領地及機會均等主義ニ干涉スル
 モノナルモ支那政府ハ最慎重ニ考慮シ務メテ日本國ノ希望ニ副ヒ以テ多大ノ讓步ヲ示シタリ
 之レ實ニ支那政府苦心ノ存スル所ニシテ日本國政府ニ於テモ亦之ヲ諒トスル所ナルヘシ若シ夫レ第五號ニ至リテハ當初要
 求條件提出ノ際日本國ハ之ヲ勸告條件ト聲明シタルカ故ニ支那政府ハ終始文字上ノ取極ハ之ヲ爲スタ得スト主張シタリ特
 ニ第五號各項ハ多ク主權領地及機會均等主義併ニ外國トノ約束等ニ從關スルモノアルヲ以テ到底支那政府ニ於テ之ニ同意
 スルヲ得ス只懸案問題ノミ特ニ日本國ノ意志ヲ尊重シ公文ヲ以テ取極ヲ爲ス事ニ決定シタリ是亦日本國ニ於テ支那ノ誠意
 ヲ諒トセラルル處ナルヘシ云々

五月四日在本邦英國大使ハ加藤外務大臣ニ對シ左記五月三日倫敦發在本邦英國大使宛「グレー」
 外務大臣來電ヲ送リ越シタリ

「サー、エドワルド、グレー」ノ信スル所ニ依レハ日本要求條項中今尙未決ニ屬スルモノハ唯タ

第五號ニ關スルモノノミナリ若シ果シテ然リトセハ氏ハ之カ爲ニ日支ノ國交破裂スルカ如キコトナカラムヲ最モ切望スルモノナリ右第五號ニ關スルモノハ當初英國政府ニ内告セラレタルモノノ中ニハ包含スラセラレサリシモノニシテ右ハ單ニ希望條項ナリト稱セラレタルモノナリ此等要求(希望條項ヲ指ス)ノ正確ナル意義ニ就テハ世間多少ノ疑惑ヲ有スルカ如シ即チ日本人ノ顧問備聘ニ關スル要求ハ日本政府ノ英國政府ニ内告スルニ當リテ用ヒタル字句ニ依レハ妥當ナルカ如キモ北京ニテハ新ニ備聘スル全外國顧問ノ過半數ハ日本人タル可シ換言スレハ日本ハ他ノ諸外國ノ總テヲ合セタルモノヨリモ多數ノ顧問ヲ支那ニ備聘セシメントストノ意義ニ解セラレタリト云フ果シテ此ノ如クンハ是レ支那ニ對シ保護權ヲ設定スルト相距ル遠カラス武器供給ニ關スル要求ニ對スル解釋モ亦將來武器供給ノ權利ヲ日本ノ一手ニ專占セントスルモノナリト爲スモノノ如シ

若シ日支國交ノ破裂ヲ以テ支那カ前記ノ如ク解釋セラル可キ要求ヲ拒ミタルカ爲メニ生シタリト目セラル可キ何等ノ根據ニシテ存ストセンカ此ノ如クシテ誘致セラレタル事態ヲ英國輿論ノ前ニ於テ日英同盟ノ諸條項ト調和セシメムコトハ不可能ナル可シ故ニ「サー、エドワルド、グレー」ハ日本カ此等ノ諸點ニ就テ要求ヲ強フルコトヲ思ヒ止マルカ

又ハ日本ノ要求ニ對シ左ル邊ニ於テ與ヘラレツツアル解釋ノ誤レルコトヲ明白ニスルカ二者其ノ一ニ出テラレンコトヲ希望ス

鐵道問題ハ一般政策ヨリハ寧ロ特殊ナル日英兩國ノ商業上ノ利益調整ノ問題ナリ而シテ予(「サー、エドワルド、グレー」)ハ本問題ニ關シ別ニ電報スル所アル可シ

五月五日加藤外務大臣ハ在英井上大使ニ對シ五月三日附「グレー」大臣來電(我カ希望條項ニ關スル疑惑ノ件)ヲ轉電スルト同時ニ左記ノ如ク調電スル處アリタリ

英國外務大臣來電中 *future* 云々ノ點ハサテ措キ事實ニ關スル點ハ誤謬ノ甚シキモノニシテ貴官ヨリ屢次詳細ナル説明ヲ爲シタルニ拘ラス英國政府カ尙此ノ如キ疑問ヲ懷ク所以ヲ解スルニ苦ム次第ナルカ右ニ付テハ貴官ハ至急左記(別電)ノ趣旨ヲ英國外務大臣ニ説明相成リ度シ尤モ右別電中顧問ノ件ニ付テハ在支公使館ニ於ケル何等カノ誤謬ニヨリ我最後修正案中ニ「多數ノ日本人」云々ナル文字アリシコトヲ發見シタルニ付已ニ早速訂正方電調シ置キタルカ別電英國政府覺書中ノ本件ニ關スル *allegation* ハ或ハ此事實ニ基キ支那側ノ曲解流布セル所ニ係ルモノニ非スヤトモ思考セラル御合迄申添ユ尙ホ貴地新聞社會ニモ別電英國覺書所載ノ如キ誤報傳ハリ居レルコトト察セラルルニ付必要ノ場合ニ之亦貴官ニ於テ同様可然説明ヲ與ヘ誤解ヲ一掃

シ置カレ度シ

別電

我要求條件中尙未決ニ屬スルモノハ獨リ第五號ノ各項ニ止マラス南滿洲ニ關シテハ支那側ハ日本人ノ未開放地ニ於ケル居住營業及土地賃借權ヲ認メタレトモ永租權ヲ許與スルコトヲ拒ミ且支那ノ警察法規ニ服從シ支那人ト同様ニ各種課稅ヲ納メ土地ニ關スル學識ニ付キテハ日支人同ハ勿論日本人相互間ノ訴訟ト雖モ支那官吏ノ審判ニ歸スヘシ等ノ條件ヲ要求シタリ又東部內蒙古ニ付テハ支那側ハ同地方ノ範圍ヲ局限シ且我要求ノ限目タル日支合辦ノ農業及附屬工業ノ經營ヲ承認スルコトヲ拒ミタリ以上ハ第五號以外ノ未決條件中ノ重要ナルモノナルカ支那政府ハ右拒絶ト同時ニ帝國政府ニ對シ(一)無條件ニテ膠州灣租借地ノ還附ヲ要求シ(二)將來ニ於ケル日獨協和會議ニ於ケル支那政府參加ノ承認及(三)日獨戰爭ニ依リ生シタル損害全部ヲ日本政府ニ於テ負擔スヘキコトヲ求め且(四)日獨戰爭ニ於テハ日本軍ノ諸般軍事的施設ノ即時撤廢及占領地守備兵ノ至急撤退ヲ要求セリ又第五號各條項ハ全部從來ノ會議ニ於テ支那側委員ノ官明シタル所ヲ其儘採用シタルモノ若ハ其意見ヲ參酌シテ作成セルモノナリ即チ顧問ノ件ハ支那側ニ於テ支那政府ハ現ニ有力ナル日本人顧問ヲ僱聘シツツアリ尙將來ニ於テモ必要ノ場合ニハ必ス日本人ヲ僱聘スル意志アルコトヲ官明シタルニ付其儘之ヲ記録ニ留ムルコトヲ求め且ニ過キス從テ修正案ハ勿論當初提議ノ原案中ニモ其真意ニ付何等支那側ニ申入レタルコトナシ過中數云々ノ如キハ甚シキ誤解ナルコト首々快ダス又兵器ノ件ハ支那側委員官明通リ將來適當ノ機會ニ支那政府ヨリ陸軍武官ヲ本邦ニ派シ我軍事實局者ト直接兵器購入又ハ支那ニ於ケル日支合辦兵器廠設立ノコトヲ協議スヘキ旨記録ニ留ムルコトヲ求めタルモノニシテ供給スヘキ兵器ノ數量其他兵器廠ノ規模設立ノ場所等ハ右協議ノ結果ヲ俟ツテ初メテ決定スル次第ナレハ獨占的供給云々ノ如キハ全然根據ナキ風説ナリ

五月五日在本邦英國大使ハ同日「グレー」大臣ヨリ受領セル左記趣旨ノ來電ヲ加藤大臣宛送附越セリ

貴官ハ本大臣ノ五月三日發電報ニ對シ回答ヲ得ラレタリシヤ

貴官ハ加藤大臣ニ對シ英國ニ於テハ日支國交破裂ノ形勢ニ關シ憂慮シツツアル旨尙此ノ憂慮ハ本件ニ關シ吾人カ何等公表ヲ爲シ能ハサル事實ニ依リ一層深メラレツツアル旨ヲ述ヘラレタ

更ニ貴官ハ加藤男爵ニ對シ日支間重大危機ニ際シ保爭ノ諸點ヲ公表シ日本ハ日英條約ニ抵觸スルカ如キ要求ヲ支那ニ對シ爲シ居ラサルコトヲ明白ニスル必要アルコトヲ切言セラレタシ

右英國外務大臣ノ來意ニ關シ英國大使ヘノ回答ハ五月六日附書面ヲ以テ爲サレタルカ右書面中ニハ交渉不調ニ關スル點ニハ言及セス態ト之ヲ避ケ大體五日在英井上大使宛調電ノ趣旨ヲ記載セ

五月六日午後在英井上大使ハ英國外務大臣ニ面談シタルニ同大臣ハ「數日來日支間ノ形勢大ニ切迫ノ模樣ニ連レ英國政府ニ於テモ段々憂慮ニ堪ヘサルニ付今六日午前之カ爲特ニ閣議ヲ開キ其結果此際時局解決方ニ付英國政府ノ所見ヲ日本國政府ニ申込ムニ決シ今朝在日本英國大使ニ電調シタリ」トテ右寫(註三)ヲ井上大使ノ含ノ爲トシテ手交セルカ右電調ハ英國政府カ日支開戰ノ形勢ニ付多大ノ憂慮ヲ禁スル能ハサルコト日支開戰カ日英同盟ノ目的タル支那ノ獨立及領土保全ヲ危

殆ナラシムルコト及日本カ英國ニ路ル事無クシテ強壓手段ヲ加ヘサルヘキコト英國ニ調停ノ機會ヲ與ヘラレ度キコトヲ希望スル等ノ事ヲ要旨ト爲スモノナリ

英國外務大臣ハ更ニ語ヲ繼テ「日支兩國間現下ノ争點ノ「メリット」ニハ姑ク論及スルコトナク大體ノ見地ヨリ云ヘハ今回ノ交渉問題ノ爲兩者ノ間ニ開戦ヲ見ルカ如キハ最痛心スヘキコトナリ (it is a thing to be most deplored) 何トナレハ戦争ノ結果ハ初ヨリ明ナル所ニシテ (anybody can foresee what the result will be to China) 其ノ結果支那ノ分割ヲ誘致スルニ至ルヘキヲ以テナリ (it would had to break up of China and not be reconcilable with the object of the alliance)」ト述ヘタルニ付大使ハ「斯ノ如キハ日本國政府モ素ヨリ同感ナルヲ以テ戦争ノ不幸ヲ避ケンカ爲我方ニ於テ威嚴ト兩立スル限リ難キヲ忍ビテ極度ノ讓歩ヲ行ヒ支那ノ再考ヲ求メタル次第ニシテ平和妥結ニ努メ又餘蘊ナキ我方ノ苦心前同ノ會見ニ本使ノ續述セル通ニテ右以上ハ時局ハ一ニ支那ノ決心如何ニ在リト本使ハ思考シ居レリ」ト述ヘタルニ外務大臣ハ「右日本ノ精神ハ本大臣モ之ヲ諒ス」ト述ヘタル後「實ハ昨日「ジョルダン」公使ヨリ來電アリ同公使一己ノ計ヒニテ支那側ノ態度ヲ探リタル處ニテハ支那ハ conciliatory mood ノ如クナルヤニ見受ケラルルニ付自分ハ尙國難解決ノ餘地ナキニアラスト思考ス就テハ We should be prepared to instruct Jordan to

give any advice to China if necessary」ト述ヘタルニ付大使ハ「實ハ當方ヨリモ訓令ニ依リ閣下ニ通牒スヘキコトアル處右支那側ノ態度ハ恰モ帝國政府ヨリ電報シ來レル支那側ノ回答ヲ見ルニ決シテ讓歩的ニアラス却テ從來ニ比シ一層頑強ニシテ日本國ニ inimical ナリ」トノコト膠州灣還附ノ件其ノ他支那側ノ不都合ナル主張ヲ指摘シ右ニ關スル加藤大臣電報英譯ヲ讀聞カセタルニ同大臣ハ「支那側回答ノ内容ハ始メテ承知スル所ナルカ支那側カ既ニ協定濟ノ點迄モ前言ヲ翻スハ不當ナリ」ト述ヘタルニ付大使ハ尙希望條項タル顧問及軍器ノ二點ニ關シ大使ノ從前ノ説明ニ對シ同大臣ノ注意ヲ喚起シ在日本英國大使宛同大臣電報中ノ記述ヲ正誤シタル處同大臣ハ「北京ヨリノ報道ハ右「グリーン」大使ヘノ電報ニアル通ニテ大臣ヨリ與ヘラレタル通報ト一致セザリシカ故斯ク同合セタル次第ナルカ今御説明ニ依リ能ク了解セリ」ト答ヘ次テ「過日來議會ニ於テ質問連發ニ會ヒ昨日モ亦多數ノ質問書ヲ受ケタルカ日本國政府ヨリ内告ノ性質ニ鑑ミ自分ニ於テ何等説明出來ス若シ此際自分ヲシテ交渉ノ經過及日本國提案ノ内容ニ關シ議會ニ説明ヲ爲シ得ルノ地位ニ立タシメラレタランニハ議會ノ攻撃ニ對スルノミナラス且一般ノ疑惑ヲ解クノ效モ尠カラサルヘシト思考スル次第ナリ」ト述ヘタリ

(註三)

His Majesty's Government are very much concerned at the prospect of war between China and Japan. They feel this may imperil independence and integrity of China which are one of main objects of the Anglo-Japanese Alliance. In view of Article I of the Alliance, we trust that the Japanese Government will not finally shut the door upon the possibility of agreement with China without consulting with us and giving us an opportunity of promoting friendly settlement.

第六節 對支最後通牒ニ關スル我方ノ對英通告

五月六日帝國政府ハ「曩ニ即チ四月二十六日支那政府ニ致シタル修正案ニ更ニ幾分ノ變更ヲ加ヘタルモノニ就キ支那政府ノ再考ヲ促シ右ニ對シ五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答ヲ得サルニ於テハ帝國政府ハ其必要ト認ムル手段ヲ執ルノ止ムヲ得サルニ至ルヘキ旨支那政府ニ對シ聲明スヘキ」旨竝ニ「其際ニハ即時歸朝ノ途ニ就クヘキ」旨在支公使ヘ電訓シタリ尙公使引上決定ノ節ハ其ノ旨在支公使ヨリ在英帝國大使ヘ電報方訓令アリタリ
同六日加藤大臣ハ英國大使ノ來省ヲ求メ支那政府ニ對シ最後通牒ヲ送ル事ニ決定シ在支公使ニ訓令セル件ニ關シ會談セルカ要領左ノ如シ

大臣 對支交渉問題從來ノ經過ハ果大御内閣ニ及ヒタル運ナルカ支那政府不誠實ノ結果今ヤ頗重大ナル事態ニ達セリ我

最後修正案ノ内容ハ客月二十八日御内閣致シタル通ニシテ我軍歩程度ノ決シテ尠少ナラサルハ當時御說明ニ及ヒタル次第ナルカ五月一日ニ至リ支那政府ヨリ受領シタル回答ハ極メテ意外且不足ナルモノニシテ支那ハ我大義歩ニ對シ獨リ全部ニ互ツテ之ヲ容認セサルノミナラス却テ一ト度會議ノ席上ニ於テ兩國代表者同ニ決定シタルコトヲモ諷シテ我レニ不利ナル條項ヲ設ケントシタル點アリ斯クノ如キハ即チ責任アル各代表者ノ陳述ヲシテ一片ノ空言ニ止ラシメタルモノト官ハサルヘカラス或ハ一方ニ於テ許シ乍ラ他方ニ於テ棄セントセルカ如キ點アリ支那當局者ノ誠意ハ全然之ヲ認ムルコトヲ得ヌ又所謂希望條項ニ關スル帝國政府ノ修正案ハ關係外國ノ同意ヲ條件トシタルカ若クハ支那代表者ノ已ニ官明シタル所ヲ記錄ニ留メントスルニ外ナラサルニ不拘支那政府ハ右希望ニ應スルコトヲモ拒メリ加之支那政府ハ膠州灣ノ無條件還付ヲ條約中ニ加ヘント主張シ尙山東省ニ於テ日獨戰爭ノ結果生シタル各種損害ノ賠償ノ責ニ任スヘシ、カ支那ノ他日歐洲ニ於テ開カレヘキ議和會議ニ參加スルコトヲ認ムヘシトカ申出テ居レルカ如キハ誠ニ官語斷斷ト云フヘシ右等ハ日本ニ於テ到底容認スル能ハサルコト明白ナル所ノモノヲ求メントスルニ外ナラス而シテ支那當局者ハ右要求ヲ含メル對案ヲ以テ其最後ノ決答ナリト明白セリ而シテ是等ハ我ニ於テ容認スルコト不能ナル以上他ノ諸項ニ關シ如何ニ妥協商定スル所アルトモ是等ハ皆途ニ何等ノ意味ヲモ有セサルコトトナルヘク結局支那政府今同ノ回答ハ其全體ニ於テ全ク空言無意義ノモノトナルニ至ルヘシ

大使 眞ニ然リ

大臣 支那ノ態度斯クノ如クナル以上本交渉ハ殆ト繼續ノ餘地ナク實ハ萬事之ヲ以テ打切ト爲スノ外ナキナリ然レトモ帝國政府ハ平和ニ寄々タルノ餘リ兩三日來非常ノ苦心ヲ以テ種々考慮ヲ練ラシタル末途ニ幾多ノ困難ヲ忍ビ第五號ハ屬意問題ヲ除キ之ヲ本交渉ト引離シ將來更メテ協商スルコトニ決定シ他ノ點ハ凡テ四月二十六日提出シタル修正案通トシ右全部ニ對シ速ニ應諾センコトヲ支那政府ヘ勸告シ支那政府ヨリ右勸告ニ對シ五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答ヲ受領

セザルトキハ迷ニ自ラ必要ト認ムル手段ヲ執ルヘキコトヲ併セ聲明スヘキ旨モ電報セリ日使公使ハ多分明日右ノ措置ヲ執ルコトト思考セラル最後通牒中へ讓歩ヲ含マシムルハ異例ナレトモ帝國政府ハ前述ノ如ク和平解決ヲ熱望スルノ餘ニ此舉ニ出テタル次第ナリ矣ヤモ支那ニ對シ新ル最後通牒ヲ發スルニ至リタルハ遺憾千萬ナレトモ支那ノ態度ニ鑑ミ洵ニ不得已次第ニ付貴國政府ニ於テモ之ヲ諒トセラレンコト希望ニ堪ヘス井上大使ヨリモ委細貴國外務大臣へ申入ルル答ナルカ閣下ヨリモ右可然御報告アリタシ

大使 詳細ノ御説明ヲ謝ス先刺松井次官ヨリ送付相成タル去三日付英國外務大臣ヨリノ來電ニ對スル回答ハ只今出前ニ受取タル許リニテ未タ熟讀セサルカ兎ニ角支那ノ態度ハ誠ニ了解シ難シ只今御話ノ次第ハ逐一本國政府へ電報スヘシ序ナカラ在支英國公使ハ日支兩國ノ間ニ不幸ナル衝突ヲ見ルニ至ラサル權支那政府へ對シ注意シ居リ或時ハ袁大總統ニ直接申入タルコトモアル趣ナリ此上共尙自分共ノ關スル限リ出來得ル丈平和了了ヲ見ル權支那政府ニ對シ盡力ヲ慮ラサルヘシ尙餘談ナルカ陸外交總長ハ「サー、ジョン、ジョルダン」ニ對シ會議ニ於テ自分ノ述ヘタルコトヲ記錄ニ留メントノ日本提議ハ甚タ迷惑ナリ (very much annoyed) ト語リタル趣ナリ

大臣 會議ニ於テ先方責任ヲ以テ述ヘタルコトヲ會議ニ留ムルコトニ何ノ迷惑之有ラン會議録ハ今度ハ一々ハ作リ居ラサル様子ナレトモ初メヨリ作り居ラハ右ノ如キハ當然記錄セラルヘカヨシコトナリ

大使 本使ノ申シタルコトハ陸總長ノ述ヘタルコトヲ何共批評スル譯ニハ非ス「サー、ジョン、ジョルダン」ノ聞キタル趣ノ儘ヲ傳致シタル迄ノ事ナリ

大臣 又五月三日貴國外務大臣ヨリノ來電即チ去四日御送付ノモノニ依レハ同大臣ニ於テ頻リニ日支間ノ衝突ヲ憂慮シ日本ノ態度ハ日英同盟ノ條項ニ抵觸スルノ慮ナキヲ希望セラル云々トノコトナルカ右電信ノ意味ハ主トシテ所謂第五號殊ニ顧問及兵器ノ件ヲ以テ支那ニ迫ルコトニ付テ言ハレタルモノナランカト思ハルルカ何分ニモ十分其真意ヲ了解シ難シ

要スルニ何方誤解シ居ラレルニ非スヤト思ハル

大使 本使モ左様思ヒ居タリ誤解ノ原因ハ了解シ難シ

大臣 勿論此第五號ハ無意者ノ問題ノ外撤回セラレタルコトナレハ何レニセモ最早「サー、エドワード、グレイ」ノ心配ハ自熱消滅スヘキモノト考フ

大使 本使モ御同意ナリ

大臣 且此事ハ曩ニ委細井上大使ヨリモ「サー、エドワード、グレイ」ニ説明シ本大臣ヨリ閣下へ御話モ致シタリ

大使 本使ハ善ク了解シ居レリ

大臣 兎ニ角何方誤解シ居ラレルナラン又先刺御送付ヲ受ケタル「サー、エドワード、グレイ」來電(倫敦五日發電)ニ依レハ同大臣ハ何方公表スル所ナカルヘカラスト思考セラルトノコトナルカ夫レハ何人カ公表スヘシトノ意ナランカ

大使 日本ニ於テ公表セラレテハ如何トノ提議ニハ非スヤト思ハル

大臣 日本ニテナラハ明日ノ新聞紙ニ交渉ノ經過及最後通牒提出ニ至リタル願末ヲ公表スル答ナルカ貴國側ニテハ夫レ迄待タル次第ナランカ然シ兎ニ角貴國ニ於テ要求條項及交渉願末ニ付沈黙ヲ守ラレ度シトノ豫テノ御依頼ハ此際之ヲ解除スヘキニ付貴國政府ノ御都合ニテ何時公表セラルモ御隨意ナリ必要ノ材料ハ隨時井上大使ヨリ同大臣ニ又本大臣ヨリ閣下ニ御通告ニ及ヒタルコトニテ十分ナルヘシ

大使 其公表中ニハ必要アラハ「加藤男爵曰ク」ト云フ様ノコトヲ加フルモ差支ナカルヘキカ

大臣 強テ反對ハ致サス必要アラハ右様取計ハレ差支ナシ然シ實ハ強テ其必要餘リナカルヘキカ

大使 夫レハ何レニテモ宜シ

五月六日加藤外相ヨリ在英井上大使ニ對シ「帝國政府ハ在支公使宛別電甲號ノ如ク最後通牒提出

方訓令ノ次第アリタルヲ以テ前記別電甲號ノ趣旨ヲモ參酌ノ上別電乙號ノ通英國外務大臣ニ內告
説明シ且覺奮トシテ之ヲ先方ニ交付シ同政府ヲシテ充分我立場ヲ諒解シ我ニ對シ好意的態度ヲ執
ラシムル様盡力スヘキ旨訓電スル處アリタリ

別電甲號

抑帝國政府カ支那政府ニ對シ今同ノ交渉ヲ開始シタルハ一日獨戰事ニ因リ發生シタル時局ノ善後ヲ圖ルトハ一日支那
國ノ親交ヲ阻害スル原因タルヘキ情勢ノ問題ヲ解決シ兩國友好關係ノ基礎ヲ固クシ以テ東亞永遠ノ平和ヲ確保セントスル
ニ在ルモノニシテ本年一月我提案ヲ支那政府ニ申入レテヨリ以來今日ニ至ル迄調停ヲ披ラキ支那政府ト會議スルコト實ニ
二十五回ヲ重キタリ此間帝國政府ニ於テハ終始妥協ノ精神ヲ以テ我提案ノ要旨ヲ解說シ同時ニ支那政府ノ主張ニ至テハ細
大勢メテ之レニ應キ圓滿和平ノ同ニ解決ヲ見ントテ努力メタルニ於テ實ニ餘蘊ナキヲ信ス交渉全部ノ討論ハ第二十四回會
議即客月十七日ニ於テ略終了シタルヲ以テ帝國政府ハ交渉全部ヲ通シテ支那政府ノ論議シタル處ヲ參照シ最期調停シタル
原提案ニ對シ多大ノ修正議步ヲ加ヘ四月二十六日ヲ以テ修正案ヲ支那政府ニ提出シ其同意ヲ求ムルト同時ニ若シ支那政府
ニシテ該案ニ對シ同意ヲ表スルニ於テハ日本カ多大ノ犠牲ヲ以テ獲得シタル膠州灣一帶ノ地ヲ公正至當ナル條件ノ下ニ通
常ノ機會ニ於テ支那ニ還付スヘキコトヲ聲明セリ

帝國政府ノ修正案ニ對シ五月一日ヲ以テ支那政府ノ與ヘタル回答ハ實ニ全然帝國政府ノ豫期ニ反スルモノニシテ實ニ支那
政府カ該案ニ對シ誠意アル研究ヲ加ヘタルノ痕ヲ示ササルノミナラス膠州灣還付ニ關スル帝國政府ノ苦衷ト好意トニ對シ
テハ殆ント一顧ノ勞ヲモ與ヘサルモノナリ元來膠州灣ノ地タル商業上軍事上實ニ東亞ニ於ケル一要地タリ之ヲ獲得スルカ
爲ニ日本帝國ノ要シタル血ト財トノ渺少ナラサルコトハ言テ俟タス而シテ一タヒ之ヲ我手ニ取メタル以上之ヲ支那ニ還付

スルノ義務ハ毫モ之ナキナリ然レテ敢テ之ヲ還付セントスルハ誠ニ將來ニ於ケル兩國ノ交ノ親善ヲ思ハハナリ然レニ支那
政府ニ於テ之ヲ察セス帝國政府ノ苦心ヲ諒トセサルハ實ニ帝國政府ノ遺憾ヲ能ハサル處ナリ支那政府ハ昔ニ膠州灣
還付ニ關スル帝國政府ノ情誼ヲ顧ミサルノミナラス帝國政府ノ修正案ニ對スル其ノ回答ニ於テ同地ノ無條件還付ヲ求メ日
獨戰事ニ際シ日本カ膠州灣ニ於テ用兵ノ結果生シタル遺クヘカラサル各種損害ノ賠償ノ責ニ任センコトヲ求メ其他同地方
ニ關係シ數項ノ要求ヲ提出スルト同時ニ更ニ今後日獨戰和ノ會議ニ參加スルノ權アルコトヲモ聲明セリ殊ニ膠州灣無條件
還付若クハ日獨戰事ノ爲メニ生シタル遺クヘカラサル損害ノ賠償ヲ日本ニ於テ負擔スヘシトノ要求ノ如キハ日本ニ對シ到
底其承認スル能ハサルコト明白ナル所ノモノヲ求メントスルニ外ナラス而モ支那政府ハ右要求ヲ含メル今同ノ對案ヲ以テ
其最後ノ決答ナリト明言セリ從テ日本ニ於テ此等ノ要求ヲ容認セサル限リ他ノ諸項ニ關シ如何ニ妥協商定スル所アルトモ
是等ハ皆途ニ何等ノ意味ヲモ有セサルコトトナルヘク空漠無意義ノモノトナルニ至ルヘシ

加之爾帝國政府ノ修正案中他ノ條項ニ對スル支那政府ノ回答ニ就テ考フルモ元ト南滿洲及東部內蒙古ノ地タル地理上政
治上將々商業ノ利害上帝國ノ特殊關係ヲ有スル地域タルハ中外ノ觀ムル處ニシテ此關係ハ實ニ帝國力前後二回ノ戰役ヲ
經タルニヨリテ特ニ深キヲ致シタルモノトス然レニ支那政府ハ此事實ヲ因却シ帝國ノ該地方ニ於ケル地位ヲ尊重セス即チ
支那政府ノ代表者カ會議ノ席上言明シタル處ニ基キテ帝國政府カ互讓ノ精神ヲ以テ案出シタル條項ニ付テモ支那政府ノ回
答ハ蓋シニ之ヲ改削シテ代表者ノ陳述ヲシテ一片ノ空言ニ止ラシメタルモノアリ或ハ一方ニ於テ之ヲ許シナカラ他方ニ於
テ之ヲ禁セントスルカ如キモノアリ支那當局者ノ情義ト誠意トハ全然之ヲ認ムルヲ得ス
將又爾帝國スル條件學校病院用地ニ關スル條件兵器若クハ兵器廠ニ關スル條件南支鐵道ニ關スル條件等ニ關シテハ帝國政府ノ修
正案ハ關係外國ノ同意ヲ條件トシタルカ若クハ支那政府代表者ノ已ニ言明シタル處ヲ記錄シ置カントスルカ否止リ何種支
那ノ主權又ハ條約ニ抵觸スルモノニアラス然レニ支那政府ノ回答ハ單ニ主權又ハ條約等ニ關係アリトシテ帝國政府ノ希望

ニ應スルコトヲ拒絕セリ
 帝國政府ハ支那政府ノ此ノ如キ態度ニ鑑ミ此上協商ヲ繼續スルノ餘地殆ト之ナキヲ遺憾トスルモノナリト雖モ極東平和ノ維持ニ寄ルタル帝國ハ努メテ本交渉ヲ圓滿ニ結了シ時局ノ紛糾ヲ避ケンコトヲ冀ヒ難キヲ私ヒテ更ニ隣邦政府ノ情慮ヲ酌ミ曩ニ帝國政府ノ提出シタル修正案中第五號ノ各項ニ就キ已ニ兩國政府代表者間ニ協定ヲ經タル福建省ニ關スル公文交換ノ一事ヲ除ク外五項ハ本交渉ト引離シ後日改メテ協商スルコトヲ承諾スヘキニヨリ支那政府ニ於テモ亦帝國政府ノ此ヲ諒トシ他ノ各項即第一號第二號第三號第四號ノ各條項及第五號中福建省ニ關スル公文交換ノ件ニ付テハ去ル四月二十六日ヲ以テ提出シタル修正案記載ノ通り之ニ對シ何等改訂ヲ加フルコトヲ速ニ應諾センコトヲ茲ニ重テ勸告シ帝國政府ハ此勸告ニ對シ支那政府ヨリ來ル五月九日午後六時迄ニ満足ナル回答ニ接センコトヲ期待ス右期限迄ニ満足ナル回答ヲ受領セザレハ帝國政府ハ其必要ト認ムル手段ヲ執ルヘキコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

別電乙號

帝國政府方今同支那政府ニ提出シタル修正案ニ對シ五月一日同政府ノ爲シタル回答ハ其内容頗ル不満足且極メテ意外ナルモノニシテ中ニハ前ニ一ト度決定シタルコトヲ翻シテ更ニ我ニ不利ナル條項ヲ設ケントセル點サヘモアリ要スルニ帝國政府方極メテ寛裕ナル態度ヲ以テ提出シタル修正案ハ其結果ニ於テ却テ事態ノ逆轉ヲ見ルニ至レリ
 面シテ今若シ我ニ於テ全然支那政府今同ノ主張ヲ應諾スルコトヲラシカ我對支交渉當初ノ目的ハ遂ニ之ヲ達スルニ由ナカラントス而モ支那當局者ハ今同ノ對案ヲ以テ其最後ノ決答ニシテ何等修正ノ餘地ナキモノナリト明確ニ表明シタリ其後五月五日支那政府ハ中公式ニ一當局者ヲ我公使ノ許ニ遣シ右最後ノ回答ヲ取消シ我最後修正案ニ付支那側ニ於テ更ニ考慮ヲ加フルノ了解ノ下ニ會議ヲ繼續シ度旨申出タルモ其際右支那當局者ノ逃ヘタル所ハ依然其内容曖昧空漠タルモノニシテ徒ニ時日ヲ遲延セント試ムルニ止マリ益々彼ニ誠意ナキコトヲ表白セリ事態斯クノ如クナルヲ以テ帝國政府ハ此上支那政

府ト協商ヲ繼續スルノ餘地殆ト之ナシトハ認ムルモ尙能ク限リ問題ヲ圓滿ニ結了シ時局ノ紛糾ヲ避ケンコトヲ冀ヒ茲ニ更ニ前記別電甲號ノ通り支那政府ニ通牒シ其再考ヲ求ムルコトニ決定セリ而シテ支那ニ於テ幸ニ十分東洋ノ平和ヲ願念シ大局ノ赴ク所ヲ了解シ期限内ニ反省シテ全部右最後修正案ヲ承諾スルニ至ラントハ切ニ帝國政府ノ希望スル所ナリト雖若シ不幸ニシテ右期限内ニ支那政府ヨリ満足ナル回答ニ接セサル場合ニハ帝國政府ハ東洋ニ於ケル日本ノ地位ヲ維持防衛スルカ爲メ不得已其自ラ必要ト認ムル手段ヲ執ルノ外ナキニ至ルヘシ帝國政府ハ責任國政府ニ於テモ十分以上ノ事情ヲ諒トセラレンコトヲ希望シテ已マサルナリ
 尙貴官ハ英國外務大臣ニ說明セラレルニ當リ帝國政府ハ今同ノ交渉ニ際シ首ニ自ラ努メテ圓滿和平ノ解決ヲ切望シタルノミナラス英國外務大臣ノ表明シタル Patient Persuasion ニ關スル希望ニ對シテモ極メテ重キヲ措キ隱忍事ニ當リタル次第ヲ十分敷衍説明シ置カレル機致度シ

五月七日午後三時在支日置公使ハ小幡高尾兩書記官ヲ隨ヘ陸總長ヲ往訪ノ上最後通牒ヲ手交セ

在英井上大使ハ五月七日英國外務大臣ト會見「帝國政府今回ノ處決ハ尙此場合能フヘキ限リ問題ヲ圓滿ニ解決シ時局ノ紛糾ヲ免レントスル苦心ニ出ツルモノニシテ難キヲ忍ヒテ尙讓歩ヲ行ヒ更ニ支那ノ反省ヲ求ムル次第ナル所右ニモ拘ラス豫定ノ期限内ニ支那ノ應諾ヲ得ル能ハストセハ之ニ依リ生スル事態ハ實ニ我ニ取り萬已ムヲ得サル事情ナル」コトヲ篤ト説明シ尙爲念持參セル我カ最後案要點英譯文ヲ手交シタルニ同大臣ハ始終傾聽後左ノ如ク語レリ

昨夜在日本英國大使ニ於テ本件ニ付加藤高明男ヨリ内談ノ次第電報アリ日本國カ最後提案ニ於テ福建問題以外ノ第五號各項ニ付讓歩スルコトトセル旨承知セルカ支那カ頑強ニ反抗セルハ主トシテ第五號各項ニアリシ様承知シタルニ日本カ此際之ヲ本交渉ヨリ引放シ後日ノ相談ニ讓ラントノ申出ヲナスハ日本側ニ於テ大ナル讓歩ヲナシタルモノト云フヘシ即チ讓歩附最後通牒トモ稱スヘキモノナルヲ以テ支那ハ宜シク此際之ヲ應諾シテ時局ヲ安結スル事利益ナルヘシト (it will be advantageous to China) 自分ハ思考シ居リタル所ヘ恰モ今朝支那公使ヨリ會見ノ求アリ(調令ニ依リシヤ否ヤ明カナラス)之ヲ引見シタルニ同公使ハ先ツ自分ニ對シ Are you party to the Japanese demands ト質問シタルニ付自分ハ然ラス日本國ノ要求ハ純然タル日支兩國間ノ問題ナリ我方ハ其ノ行儀ノ委ナルニ付テモ亦之ニ關シ日本國ノ執ラントスル措置ニ付テモ何等相談ヲ受ケタル事ナク又受クヘキ筋合ノモノニアラス只交渉ノ經過ニ付同盟國トシテノ關係上日本國政府ヨリ内報ヲ受ケタル次第ナリト答ヘ次テ前述在日本英國大使ヨリ來電ノ趣旨ヲ利用シ日本國ノ該最後提案ハ大ナル讓歩ト認ムル所ニ付支那ハ宜シク速ニ之ヲ受諾シ以テ時局ノ安結ヲ計ルコトトスルコト得策トスル旨自分ノ勸告トシ申聞ケ置ケリ蓋シ右第五號ハ本交渉ノ重ナル難關ナルニ付今日日本國ニ於テ斯クノ如ク支那ニ對シ折合ヲ示シタル以上支那政

府ニ於テモ反省スヘキ義ト存スルニ付右勸告ヲ試ミタル次第ナリ惟フニ時局ハ尙圓滿解決ノ餘地アリト存ス之ヲ要スルニ我方ノ最モ懸念スル所ハ日支兩國間ノ開戦ニシテ其ノ所以ハ昨日御話シタルカ如ク事態日英同盟ニ影響スルヲ以テナリ支那獨立領土保全ハ同盟ノ主要目的ニ屬ス而モ開戦ノ曉ニハ勢ヒ日本國ニ於テ右領土保全ヲ侵害スルノ行爲ハ之ヲ免レス又根底未タ薄弱ナル現支那政府ハ戰亂ヲ機會トセル革命分子ノ蜂起或ハ甚シキハ更ニ第二ノ革命勃起ニヨリ轉覆スルニ至ルカ如キ事モ出來スヘク何ノ途支那現狀態ノ擾亂ハ免レサル數ナルヘク即チ同盟條約ノ目的ニ鑑ミテ我方カ是非共戰爭ノ開始ヲ見ルヲ避ケント欲スル所以ナリ

之ニ對シ井上大使ハ「右様ノ事態ハ帝國政府モ勉メテ之ヲ避クル事ヲ衷心切望スル所ニシテ曩ニ支那ノ要望ヲモ斟酌シ國家ノ威嚴ノ許ス限リ極度ノ讓歩ヲナシタルニモ拘ハラズ今又 *eleventh hour* 更ニ閣下ノ所謂讓歩付最後通牒ヲナスニ至レル事實ハ如何ニ日本國カ終始平和ノ維持ニ努力シ居ルカラ證スルモノニシテ此點ハ御諒察ヲ仰カサルヲ得サル所ナリ」ト切言シタルニ外務大臣ハ右日本國ノ苦心ハ之ヲ諒トスル旨ヲ述ヘ尙同大臣ノ所見トシテ「日本國ニ對スル世上ノ不滿ハ日本國ノ *case* 外部ニ好ク知ラレ居ラサルニ職由スルモノニ付若シ自分又ハ他ノ *authoritative source* ヲシテ日本國ノ *case* ト其真意ノアル所ヲ一般ニ開示セシメタランニハ物論

ノ發生ヲ見ルニ至ラサリシナラント思考ス」ト附言セリ

五月六日米國國務卿ハ在米珍田大使ト面會ノ節「米國政府ハ倫敦巴里及露都駐在米國大使ニ宛テ日支談判ノ圓滿ナル解決ノ爲友誼的勸告ヲ爲スヘシトノ意味ノ電訓ヲ發送中ナル」旨ヲ語レリ駐英米國大使宛電訓ハ左ノ如シ

貴官ハ外務大臣ヲ訪問シテ日本及支那ヨリ來ル所ノ報道ハ吾人ノ驚愕シ且痛歎スルモノナルコトヲ英國政府ニ通告シ併テ英國政府ハ目下ノ日支談判カ満足ナル解決ヲ見ルニ至ル迄忍耐及友誼ノ精神ヲ以テ現在ノ交渉ヲ繼續スヘキ様日支兩國ニ對シ友誼的ニシテ併カモ熱心ナル勸告 (Suggestion) ヲ爲ス爲米國政府ト協同スルコトヲ欲スルヤチ尋ヌヘシ日支兩國間ニ干戈相交ハルニ至ルコトアラハ之レ言語ニ現ハシ難キ程不幸ナルコトナルヘシ日支兩國ノ友邦タル米國政府ハ斯ル災厄ヲ防ク爲ニ日支兩國ノ友邦タル他ノ諸國ノ協同ヲ求ムルヲ以テ其ノ義務ナリト感ス

前記米國國務卿ノ調停提議ニ關スル談話ハ八日在米珍田大使ヨリ在英井上大使ニ轉電アリタルヲ以テ同日加藤大臣ハ在英井上大使ニ對シ帝國政府ハ日支交渉ニ關シ斷乎トシテ第三國ノ周旋ヲ排斥スル旨左記ノ如ク電報スル處アリタリ

目下ノ日支交渉ヲ満足ニ解決センカ爲ニ帝國政府カ爲シ得ル限リノ努力ヲ盡シタルコトハ屢次ノ電報ヲ以テ申進シタル運ニシテ最後ノ努力トシテ帝國政府ハ其已ニ提出シタル最終修正案ニ對シ更ニ一層ノ讓歩ヲ決シ之ニ基キテ支那政府最後ノ回答ヲ求メ居ル次第ハ御承知ノ通ナル處最近入手セル種々ノ情報ニヨリ又在支公使ノ見込ニヨルモ支那政府ハ我最後ノ提

案ヲ應諾スヘキモノナルカ如ク察セラルルニ付テハ此際第三國ノ容喙ニヨリ同政府ニ外國援助ノ希望ヲ生セシムルコトナケレハ遠ニ和平ノ解決ヲ見ルコトヲ得ヘシト信セラルル從テ日支ノ國交ノ斷絶ヲ防止スヘキ唯一ノ手段ハ交渉ノ解決ヲ單ニ兩國間ニ一任シ置クニ在リ反之第三國ニシテ容喙ヲ試ムルカ如キコトアリトスレハ支那政府ハ折角示サントスルニ至リタル應諾ノ意ヲ翻スニ至ルヘク一方帝國政府ニ於テハ已ニ最後通牒ヲ送りタル今日最早其方針ヲ變更スルニ由ナリ或ハ却テ遂ニ決裂ノ機ヲ促進スルニ至ルナキヤ成ルルニ付責任國政府ニ於テ出來得ルナレハ米國政府ニ對シ其マサニ執ラントスル措置ニツキ再考ヲ加ヘシムル爲此際至急相當ノ手段ヲ執ルカ又ハ責任國政府カ米國政府ノ申出ニ對シ同意ヲ與ヘサルコトニ致シタキニ付貴官ハ至急其趣旨ヲ責任國政府ニ申入レラレ結果電報アリタシ

五月八日在英井上大使ハ「ラングレー」ニ面會第三國ノ調停排斥ニ關スル帝國ノ方針ヲ述ヘタル處同官ハ「米國政府ニ對シテ五月七日外務大臣ヨリ英國政府ノ所見ニテハ時局ハ平和ニ落着ノ見込アルニ付此際何等手段ヲ執ルノ必要ナシト認ムル旨回答シタリ又支那政府ハ貴國ノ最後通牒全部ニ對シ承諾ノコトニ決定ノ上土曜日午後八時頃迄ニ日置公使ニ回答スル筈ナル旨只今「ジョルダン」ヨリ來電アリタリ」ト語レリ

五月九日午前一時外交總長陸徵祥ハ曹次長及施祕書ヲ伴ヒ在支日置公使ヲ來訪シ五月七日日本側提出ノ最後通牒ニ對スル回答書(日附ハ民國四年五月八日)ヲ手交シ公使ハ之カ妥當ナルヲ認メ受領セリ

在英井上大使ハ五月九日朝我カ最後通牒ヲ支那側ニテ受諾ノ次第ヲ「グレー」外相ニ通報シ置キタルカ尙五月十日此ノ場合不取敢大使一己ノ挨拶ヲ申述ヘ旁同大臣ヲ訪問シ日支交渉顧末書寫ヲ差出シタルニ同大臣ハ「今日ノ平和的落着ニ對シ自分モ衷心ヨリ祝意ヲ表スル所ナリ日本國ノ最後讓歩ニ依リ時局圓滿ニ終局ニ歸シタルコトハ當國公衆ニ於テモ蓋シ満足スル所ナラン實ハ五月六日閣下ノ讓ニ依リ支那カ日本國ノ修正案ニ對シ却テ膠州灣ノ無條件還付等勝手ノ要求ヲ提出シタル上ニ既ニ協議済ノ事項ニ付テスラ前言ヲ翻シ居ル旨ヲ承知シ之ニテハ支那ノ態度ハ全然主客轉倒ト云フヘク不穩當ナル沙汰ト考ヘ居リタル次第ニ付五月七日朝支那ニ對シ曩ニ御話致シタル通説示シタル後「ジョルダン」公使ヘモ發電シ日本國最後ノ提案ハ頗ル寛大ナルモノ故直ニ之ヲ承諾シ時局ノ妥結ヲ計ル方支那ノ利益ナルヘキ旨支那共和國政府ニ對シ非公式ニ強硬ナル勸告(strong advice)ヲ與フヘキ旨訓令シタル次第ナリ」ト述ヘ夫レヨリ米國政府ノ提議ニ言及シ前記「ラングレー」ノ所言ヲ敷衍シ尙「實ハ自分ハ駐英米國大使ニ對シ英國政府ハ閣議決定ニ基キ同盟國トシテ既ニ日本國政府ニ對シ所見開陳ノ手續ニ出タル事ヲ告ケ右様ノ次第ニ付英國政府ニ於テ此際更ニ手段ヲ執ルノ要ヲ認メサル事ヲ同大使ニ申聞ケタル次第ナリ」ト述ヘ更ニ語ヲ轉シ「或ハ日本今回ノ讓歩ヲ以テ West 評スルモノアラン而カモ斯ノ如キハ誤レル批評ナリ自分ノ所

見ニテハ今回ノ最後提案ハ日本國ノ寛大ト moderation ヲ一般ニ印象シ日本國ノ Prestige ヲ高メタリ」ト附言シタリ

五月十一日在本邦英國大使來省「本國政府ヨリノ訓令ニ基キ日支交渉圓滿ニ解決スルコトナリタルニ付英國政府ニ於テ極メテ満足スル旨ヲ日本國政府ニ傳致シ兼テ「サー、エドワード、グレー」自身ノ満足ノ意ヲ加藤大臣ニ傳フヘキ旨申出アリタルニ付加藤大臣ハ取敢ヘス同大使ニ對シ「帝國政府及本大臣ニ於テ英國政府ノ好意ヲ深く感謝スル」旨申述ヘ置キタルカ尙十二日在英井上大使ニ對シテモ「英國外務大臣ニ面會ノ上今回ノ日支交渉カ幸ニシテ圓滿ニ解決セララルルニ至リタルニ付テハ英國政府ノ友好ナル態度ニ負フ處少ナカラス帝國政府ニ於テ厚ク之ヲ感謝スル旨併ニ加藤大臣ニ於テ親シク「サー、エドワード、グレー」ノ好意ヲ深く德トスル旨申入レラレタキ」旨電訓スル處アリ

五月十三日在英井上大使ハ加藤大臣ノ訓令ニ基キ外務大臣ニ面會帝國政府及加藤大臣ノ謝辭申述方訓示ノ趣申入レタルニ同大臣ハ「日本國政府ノ表彰セラレタル友情ハ英國政府特ニ自分ニ於テ深ク「レシブロケート」スル所ナリ」ト挨拶シタリ次テ同大臣ハ「本日本議院ニ於テ支那問題ノ討議アリ(一)英國政府ハ支那ニ對シ支那ノ獨立及領土保全ノ確保(「アシユアランス」)ヲ與ヘラ

レタリヤ(二)英國政府ハ目下ノ對支要求ヲ以テ日英同盟條約違反ト認メサルヤ否ヤトノコトニ付
 質問アリタルヲ以テ自分ハ第一問ニ付テハ右様確保ヲ與ヘタルコトナク又支那政府ヨリ求メラレ
 タルコトナシト答ヘ第二問ニ對シテハ英國政府ハ日本國ノ要求ヲ以テ同盟條約違反ト認メタルコ
 トアラス又要求ノ性質如何ニ付テハ英國政府ハ之ヲ發表スヘキ地位ニアラス當事國政府ノ問題ナ
 リト答ヘ置ケリト述ヘタルニ付井上大使ハ「五月十日寫ヲ差出シ置キタル日支交渉顛末書ハ在
 英日本大使館ヨリ一般ニ公表シタルモノニシテ「タイムス」及「モーニング、ポスト」ニ掲載
 シ居レリ」ト注意シタルニ「グレー」大臣ハ「右顛末書ノコトハ前日答辯ノ際ハ失念シ居タリ今
 後重ネテ此種ノ質問アリタルトキハ該書記載事項ハ「オフィシャル」ノモノトシテ援用差支ナキ
 ヤ」ト云ヒタルニ付同大使ハ素ヨリ差支ナキ旨答ヘタリ

第十五章 袁帝制問題

第一節 概 說

明治四十五年(大正元年、一九一二年)三月十日袁世凱ハ第一革命成功後ノ假大總統孫文ヨリ推薦
 セラレテ臨時大總統ニ就任シタルカ大正二年(一九一三年)五月第二革命ノ勃發ニ當リ能ク江西
 省湖口ノ李烈鈞、南京ノ黃興、岑春煊等ノ討袁軍ヲ一蹴セル後新大總統選舉法ニ依リ十月六日正
 式大總統ニ選舉セララルニ至レリ

大正四年(一九一五年)四月二十日袁ハ約法ヲ修正シ大總統ノ權限ヲ著シク擴大セルモ尙之ヲ以
 テ不充分ナリト爲シ更ニ君主國體ト爲シ自ラ皇帝タラント畫策シ輩下ノ政治家御用學者等ヲシテ
 籌安會ヲ組織セシメ帝制ヲ建議セシメタリ

十月五日在英井上大使ハ訓令ニ依リ「グレー」外相ノ本件ニ關スル所見ヲ叩キタル所同外相ハ
 「在支公使「ジョルダン」ヨリ未タ何等報告無ク事態不明ナルヲ以テ意見ヲ述フル能ハス」ト答ヘ
 タルカ十月八日帝政運動ハ更ニ紛亂ヲ加フヘキニ依リ之ニ不贊成ナル旨覺書ヲ以テ申越セリ

十月十八日井上大使ハ更ニ支那國體變更計畫一時中止方ヲ日英佛露米諸國共同シテ勸告スヘシトノ件ニ付英國政府ニ對シ申入レタリ其ノ際井上大使ハ「グレー」外相ノ意向ハ「ジョルダン」公使ノ意見ヲ採用シ非干涉主義ニ傾キ居ルモノト看取セルカ「グレー」外相ハ二十一日ニ至リ我カ提議ニ同意ヲ表シ來レリ

十月二十四日井上大使ハ「ラングレー」次官ニ會見「米露佛三國ノ回答ヲ俟タス不取敢日英ヨリ至急支那政府ニ帝制中止ヲ勸告シタシ」ト提議セル處英國側ヨリハ二十五日附覺書ヲ以テ贊成シ來レリ茲ニ於テ十月二十八日在支小幡代理公使ハ英露兩國公使同伴外交總長ニ對シ帝制實現中止ヲ勸告セリ十一月三日在支佛國公使ハ右措置ニ參加セルモ米國公使ハ參加セス

十月二十八日「グレー」外相ハ井上大使ニ對シ「日英兩國ノミノ勸告ハ實效ナカルヘク且支那カ勸告ヲ容レヌ無事帝制實現ヲ遂ケタル場合ニハ專口承認ヲ爲ス方可ナラン」トノ意見ヲ述ヘタルヲ以テ石井大臣ハ十月二十八日在本邦英國大使ニ對シ「右ノ如キ場合ニハ出來得ル限り速ニ承認ヲ爲スハ可然モ即位直後ニ承認ヲ爲スコトハ不得策ナリ」ト答ヘタリ

十一月四日外交總長陸徵祥ハ小幡代理公使ニ對シ「今日帝制運動ノ進行ハ到底中止シ得ザレトモ慎重ナル手續ヲ要スルヲ以テ其ノ實行ハ長期ヲ要スヘシ」ト述ヘタリ

十一月十一日陸外交總長ハ日英露佛四國代表者ニ對シ期限ヲ附セス單ニ延期スルコトトナレル旨及支那政府ハ治安維持ノ責任ニ堪フル旨述ヘタリ

十一月十九日在英井上大使ハ「ニコルソン」次官ニ面會「支那側回答ノ實施ヲハ注視スルコト並支那カ突然政體ヲ變更スル場合ニハ動亂ノ兆ナキ見据付ク迄新國體ノ承認ヲ控フルコト」ヲ申入レタルニ前者ニ對シテハ贊成ナリシカ後者ニ付テハ獨逸ノ拔驅的承認ヲ懸念シ我方提議ニハ不滿ノ意ヲ洩ラセリ

十一月三十日「グレー」外相ハ我カ井上大使ニ對シ「承認問題ニ付テハ主義上同意ナルモ同時ニ萬一支那ニ於テ急ニ帝制實行ヲ行フカ如キ事アラハ其場合ニ於ケル措置ハ更ニ關係國政府間ニ於テ改メテ協議スルコトトシ度キ希望ナリ」ト述ヘタリ

十二月十三日袁ハ文武大官ヲ集メテ中央特別選舉國民代表ノ皇帝推戴受諾ノ件ヲ宣言シ夫々籌備ヲ命シタリ

十二月十四日在本邦支那公使陸宗輿ハ石井大臣ニ對シ「何時頃迄帝制實行延期セハ可ナルヤ」申出アリ大臣ハ「大體來年三四月頃可ナランカ」ト答ヘ同時ニ關係各國ノ意嚮ヲモ問合セタリ十二月十五日日英佛露代表者ハ相携ヘテ陸外交總長ト會見「支那政府ヨリ帝制ヲ即刻實施スルコト

無ク又治安モ維持セラルヘシトノ回答ニ付事態ヲ注視スヘシト通告セル處陸總長ハ「支那國內ニ關スル限リ帝制問題ハ一應結末ヲ告ケタル次第ナルモ支那政府ニ於テハ種々準備ノ都合モアリ今直ニ之ヲ實行スル意ナシ支那ハ勸告ヲ容レ居ルニ付列國モ支那ノ主權ヲ尊重セラレ度シ」ト述ヘタリ十二月二十日外交次長曹汝霖ヨリ日置公使ニ對シ帝制宣布期日ハ明年新曆二月四日頃ト爲シ度キ希望申出アリ

十二月二十日英國政府ヨリ我方提案三四月頃說ニ贊成スル旨回答アリ

十二月二十一日「クム」外相代理ハ井上大使ニ對シ獨塊側帝制承認ノ氣配アルニ付來年三四月頃ヲ待タス早速承認シ度キ旨談話アリ

十二月下旬ニ至リ蔡錫唐繼堯ハ袁ノ帝制ニ反對シ雲南ノ獨立ヲ宣言シ所謂第三革命ノ烽火ヲ舉ケ貴州又之ニ應シ茲ニ支那大亂ノ端ヲ發シタリ

十二月三十一日申令ヲ以テ翌年ヨリ年號ヲ改メ洪憲元年トスル旨發表セリ

大正五年（一九一六年）一月十一日「グレイ」卿ハ井上大使ニ對シ「支那ハ二月初旬帝制ヲ宣布シ獨塊米率先承認ノ噂アル處聯合側ハ面白カラサル立場ニ立ツノミナラス承認反對ハ革命黨側ヲモ「エンカレジ」スル結果トナルヲ以テ帝制宣布後直ニ承認シテハ如何」ト述ヘタリ

一月二十一日石井大臣ハ在本邦支那公使ニ對シ明白ニ帝制實施ノ承認シ能ハサルコトヲ述ヘ在本邦英露大使ニモ右ノ趣旨ヲ語リ又在英佛露帝國大使ヲシテ夫々任國政府ニ通告セシメ此ノ際關係國政府ヲシテ依然結束ヲ鞏固ニシ其ノ同日迄執リ來リタル方針ヲ維持スルニ於テハ支那政府ハ當分帝制實行ヲ延期スヘキヲ以テ從來ノ態度ヲ持續セラレンコトヲ望ム旨申入レタリ

同二十一日曹外交次長ハ在支高尾書記官ニ對シ「支那政府ニテハ陽曆二月下旬ヲ以テ帝政實行ノ筈ナリシ處雲南事件ノ爲右決定ヲ取消スヘシ」ト述ヘタリ

一月二十四日井上大使カ右趣ヲ英國外相ニ語ルヤ外相ハ満足ノ意ヲ表明セリ其ノ後雲南動亂漸次其ノ勢ヲ加ヘ袁世凱ハ二月二十三日大總統申令ヲ發シ帝制延期ヲ聲明次テ五月六日病死セリ

第二節 帝制延期第一回勸告ニ關スル英國其他關係諸國トノ交渉

大正四年夏北京ニ籌安會設立セラレ表面共和政體カ果シテ支那ニ適スルヤ否ヤヲ研究シ以テ一國ノ治安ヲ籌ルコトヲ目的トスト雖實際ニ於テハ專ラ支那帝制ノ運動ヲ畫策シタル處袁世凱ノ子克

定亦難輕ニ參シ大ニ謀ヲ廻ラシ帝政論ハ忽チニシテ支那全國ヲ風靡スルニ至リ同年九月ニ入り各省將軍等聯合シテ袁大總統ニ對シ國體變更請願表ヲ捧呈セリ
 該運動ハ素ト袁世凱ノ野心ニ胚胎シ其ノ父子隱約ノ操縱ニ出タルコトハ衆目ノ指ス所ニシテ袁ハ表面上ハ自ラ帝位ニ即クノ意思毛頭無ク只民意ニ依リテ之ヲ決セントノ態ヲ裝フニ努メタリト雖之ニ反對ノ徒輩ハ後難ヲ懼レテ敢テ其ノ態度ヲ明ラカニスルモノナク十月ニ入ルヤ帝政派ノ運動大イニ進歩シ六日代行政立法院タル參政院ニ於テ國體問題決定機關タルヘキ國民代表大會組織法案ヲ議決シ該法ハ九日大總統令ヲ以テ公布セラレ同法ニ依リ十月二十日國民會議々員初選々舉人ノ選舉行ハルル等帝制贊成者ハ著々其ノ運動ヲ進メ中華帝國建設ノ日遠カラサル模様アルト同時ニ反對派ノ暗流モ亦漸ク彌漫シ副總統黎元洪ハ其ノ中心人物ヲ以テ目セラレ國務卿徐世昌財政總長周學熙審計院長孫寶琦外交總長陸徵祥等心中甚タ不滿ニシテ或ハ病氣ト稱シテ引籠ルアリ教育總長湯化龍ハ十月五日遂ニ辭職シタリ其ノ他地方ニ於テハ江蘇ノ馮國璋張勳湖北ノ王占元江西ノ李純浙江ノ朱瑞廣西ノ陸榮廷等何レモ帝制ニ贊成セス長江一帶及南支ノ形勢不穩ノ兆候アリタリ
 帝國政府ニ於テハ帝制運動ニ對シテハ風ニ注意ヲ怠ラザリシモ事素ト支那ノ内政問題ニ屬スルカ故ニ帝制ニシテ急々實現ヲ見ルコトトナルモ其ノ實現方法ニシテ過激極端ニ走リ支那國內ニ擾亂

ヲ醸シ延テ東亞ノ平和ニ有害ナル影響ヲ及スカ如キ事態ヲ生スルコト無キ限リ帝國政府ニ於テハ進ンテ本問題ニ關與スルコトナカルヘキモ本問題ハ支那國ト密接ナル關係ニアル我國ニ對シ或ハ極メテ重大ナル影響ヲ及スコトアルモ國ラレサル次第ニ付極メテ慎重ナル態度ヲ以テ事態ノ成行ヲ注視シ居タリシカ大正四年九月二十九日大隈外務大臣ハ在英井上大使ニ左ノ通り電報シ支那ニ於ケル帝制問題ノ進歩ノ狀況ヲ述ヘ裏面ニハ諸種ノ動機ニ基ク帝制反對ノ潮流砂カラス急遽帝制ヲ實現セントスルニ於テハ支那ノ動搖ハ免レ得サルヘク斯クテハ直接間接最モ影響ヲ受クヘキモノハ日英兩國ナルヘキヲ以テ本件ニ對スル日英兩國政府ノ態度ヲ定メ成ルヘク同一規ニ出ツルコト大局上必要ト認メ内密ニ英國政府ノ態度ヲ打診セシメタリ
 支那國體變更問題ハ最近著シク促進ノ勢ヲ示シ來レル處帝國政府ノ所見ニヨレハ袁總統ハ今日ニ於テハ已ニ事實上帝王ニ均シキ權力ヲ有シ且同總統ニシテ健在ナル限り同總統ニ代リ得ルモノ表ハレ來ルヘキ筈モナキニ依リ此際種々ノ危險ヲ冒シテ迄國體ノ變更ヲ試ムル必要ナキヤニ思考セラル而シテ北京ノ大官各省將軍巡按使ヲ初メ各地方ノ有力者等ハ其位置又ハ生命ニモ危險ノ及ハンコトヲ恐レテ陽ニ帝制贊成ノ意ヲ標榜シツツアルモ其實裏面ニハ諸種ノ動機ニ基ク反對ノ潮流砂カラス現ニ將軍巡按使ノ間ニモ内々反對ノ意嚮ヲ持スルモノアリ又一般ヨリ云ヘ

ハ革命黨其他衰世凱反對ノ諸派中ニハ此機ニ乘シ倒衰ノ策ヲ起ラシツツアル模様ニシテ未
 タ具體的ニ表面ニ現ハレタル事實ナキモ長江一帶及南支地方ニハ反對ノ風潮漸ク瀰漫セントス
 ルモノノ如シカカル情勢ノ下ニ急遽帝制ヲ實現セントスルニ於テハヨシ大動亂ハ之ヲ見ストス
 ルモ各地ニ小暴動等ヲ生スルコトナキヲ保スヘカラス要スルニ帝制問題ハ支那ノ將來延イテ東
 洋ノ局面ニ頗ル重大ナル關係アル事件ニシテ若シ爲ニ支那ニ動亂ノ勃發スルカ如キコトアラン
 カ直接間接最損害ヲ蒙ルモノハ日英兩國ニシテ此點ニ於テ帝制問題ニ對スル日英兩國ノ利害ハ
 全然相一致シ居レル次第ナリ本問題ニ付テハ未タ我廟議ヲ定ムル迄ノ運ニ至リ居ラサルモ今ニ
 於テ本件ニ對スル日英兩國政府ノ態度ヲ定メ成ルヘク同一規ニ出ツルコトハ大局上極メテ必要
 ト認ムルニ付貴官ハ英國外務大臣ニ面會ノ上本國政府ノ訓令ニヨレルモノトセス全然貴官一己
 ノ意見トシテ極メテ非公式且内密ニ上記ノ次第ヲ述ヘ本問題ニ對スル英國政府ノ腹藏ナキ所見
 ヲ叩カレ詳細電報アリ度シ尙九月二十二日在支代理公使カ在支白耳義公使ヨリ聞ク所ニヨレハ
 帝政問題ノ解決ハ列國公使ノ多數ニ於テ歐洲戰爭結了後ニ於テスルヲ希望シ居ルニ拘ハラ最
 近在支獨逸公使ハ帝政實施ノ曉ニハ獨逸政府ハ直ニ之ヲ承認スル意向ナル旨ヲ支那側ニ内告シ
 タル趣ニ付之亦右會見ノ際適宜英國外務大臣トノ會談ニ上セラルル様致度

井上大使ハ十月五日「グレー」外相ト會見シ右訓令ノ趣旨ニ依リ其ノ所見ヲ叩キタル處同外相ハ
 「帝制問題ニ付キテハ事態果シテ貴大使談話ノ如クニシテ萬一動亂發生ヲ見ルカ如キコトアラン
 ニハ眞ニ痛嘆スヘキ義ニシテ自然日英同盟ノ目的ニモ影響スヘク日英兩國ニ於テ成ルヘク同一軌
 ノ態度ニ出ツルノ要アリトノ貴見ハ自分ノ諒トスル所ナルモ駐支英國公使ヨリ未タ何等報告ナク
 事態全ク不明ナルニ付何等意見ヲ形成スルヲ得サル次第ニ付早速同公使ヘ電訓シ其ノ報告ヲ徵シ
 置クヘシ」ト答ヘタリ

次テ十月八日ニ至リ「グレー」外相ハ井上大使ニ對シ左ノ如キ覺書ヲ送越シ國體變革ニ不賛成ノ
 旨「ジョルダン」カ衰ニ申入レタル旨通報セリ

外務大臣ハ日本大使閣下ニ對シ衰世凱ノ下ニ立憲君主制ヲ布カントスル支那ニ於ケル運動ニ關
 スル本月五日會談ノ後在北京英國公使ヨリ同公使ハ支那官邊ノ人士トノ私的談話中今回ノ變革
 ニ因リ國內ノ動亂ヲ誘致スルカ如キコトアルトモ支那ハ歐洲諸國中ノ何レヨリモ援助ヲ得ルノ
 見込ナシト思考スル旨ヲ言明シ且同公使ハ目下世界ニハ支那ニ於ケル紛擾ヲ加フルヲ俟タスシ
 テ現ニ紛亂ノ堪フヘカラサルモノアル際衰大總統ニシテ嘗テ幾多ノ困難ヲ排シ支那ヲ衰亡ヨリ
 救ヒタル主權者トシテ支那ニ在ル限リハ其ノ大總統ニ還ハレタル際爲シタル嚴肅ナル約定ヲ破

棄スルカ如キコトアラハ其名譽ハ失墜ヲ免レサルヘキ旨ヲ極言シタル趣書而報告ニ接シタルコトヲ通報スルノ光榮ヲ有ス而シテ外務大臣ハ本問題ニ關シ在北京英國公使ノ意見ヲ承認セリ
在北京英國公使ヨリハ尙外國人側ノ態度外國新聞通信員側ニ於ケル反對論及同公使自身其他諸國代表者ヨリノ勸告等相合シ暫ク大總統及其與黨ノ氣勢ヲ殺キタルカ如キ諸種ノ徵候アリ且少クモ歐洲戰亂ノ終結迄國體變更ヲ猶豫スルニ至ルヘキ望アル旨ヲモ報告シ來レリ
十月十五日帝國政府決定ノ方針ニ基キ石井外務大臣ハ在英井上大使ニ對シ電報ヲ以テ支那國體變更運動一時中止方宜ニ共同勸告方「グレー」大臣ニ交渉スヘキ旨訓令セリ

今回ノ國體變更ハ種々ナル危險ヲ含ミ殊ニ長江一帶及南方支那ニハ一般ニ不穩ノ情勢瀰漫シ何時支那國內ニ動亂紛擾ノ勃發ヲ見ルコトナキヲ保セス若シ萬一支那國內ノ擾亂ヲ見ルカ如キコトアラムカ延テ東亞ノ事態ニ動搖ヲ生シ爲ニ最モ大ナル影響ヲ受クルモノハ支那ト密接ノ關係ニアル日英兩國ナリ是ヲ以テ前記ノ如キ多大ノ危險ヲ伴フ國體變更計畫カ實行セラルルコトハ支那ノ爲ニモ帝國ノ衷心憂慮スル所ナルノミナラス日英兩國其他ノ利害ノ爲ニモ之ヲ成行ノ儘ニ委シテ默過スル能ハサルコトト信ス

就テハ問題ノ形勢切迫セル際ニ付貴官ハ出來得ル限り至急英國外務大臣ニ會見セラレ適宜以上ノ次第ヲ説述シ右ノ如キ支那ノ形勢ハ歐洲戰亂ノ際ニテモアリ旁隣邦タル帝國ノ衷心憂慮不安ニ堪ヘサル所ナルカ英國政府ニ於テモ同一ノ懸念ヲ抱カルルニ於テハ此際協同シテ支那政府ニ對シ友誼的勸告ヲ試ミ國體變更ノ計畫ヲ一時中止セシメ以テ事ヲ未然ニ防クコトト致度尙愈々英國政府ニシテ右ノ措置ニ同意ナルニ於テハ露佛米三國ヲモ本件協同行動ニ參加セシムムコトヲ申入レ其結果詳細電報スヘシ

然ルニ右電報起草後在英井上大使ヨリ「十月十三日「ラングレー」外務次官ノ需ニ應シ往訪シタルニ「ラングレー」次官ハ「グレー」外相ノ代理トシテ支那ニ於ケル帝制問題ノ成行ニ付本月十二日「ジョルダン」公使ヨリ「帝制運動ハ最近急轉直下ノ勢ヲ以テ促進シ各省將軍巡按使ノ如キモ一致シテ帝制實行ヲ促シ萬一何等反對ニ遭遇スルトキハ彼等ニ於テ斷シテ之カ鎮壓ヲ引受クヘシトスラ申出テ居ル次第ニテ此際外部ヨリ何等干渉ノ措置ニ出シニハ之カ爲メ面白カラサル事態ヲ醸發スルノ虞レスラ有之有様故此際成行ニ任ス方機宜ニ適スヘク佛露米各公使ノ所見モ同様ニシテ獨逸公使ノ態度ニ就テハ同公使ハ此際帝制實行反對ニテ寧ロ歐洲ノ時局平定後實行スル方然ルヘキ旨ヲ勸告シタルコトアルヤニ聞ケリ」ト電報アリタル處形勢既ニ同公使ノ言フカ如クナリトセハ此際外部ヨリ何等處置ヲ採ルハ面白カラス同公使所見ノ如ク成行ニ一任スル外ナカルヘシト

思考スル旨語リタル」越電報アリタルモ帝國政府ノ接受シ居ル報告ハ「ジョルダン」公使ノ報告ト異リ帝制反對ノ暗流極メテ強大ナルモノアルヲ認メラレタルヲ以テ「ラングレー」ノ談ニ拘ラス井上大使ヲシテ前記訓令ヲ執行セシムルコトトシ同時ニ石井大臣ヨリ在本邦英國大使「サー、カニンガム、グリーン」ニモ右要旨ヲ申入レタリ

依テ在英井上大使ハ十月十八日「グレー」外相ト會見前記訓令ヲ覺書ニ認メタルモノヲ讀開カセ事懇切迫ニ鑑ミ此ノ際協同勸告ノ方法ニ依リ以テ事變發生ヲ防遏スルノ切要ナル所以ヲ篤ト陳說シタルニ同大臣ハ之ヲ傾聽シタル後「支那ノ現狀ニ關スル貴方ノ御觀察ハ「ジョルダン」公使ヨリ最近電報ノ趣ト相違アルニ日本政府御申入ノ協同勸告ノ件ハ一應同公使ノ意見ヲ徵シタル上何分ノ回答ヲナスヘキ」旨ヲ答ヘタリ

右ニ依リ英國政府ノ意向ハ「ジョルダン」公使ノ意見ヲ採用シ非干涉ニ傾キ居ルモノト認メラル筋アリタルニ付石井大臣ハ在支小幡代理公使ニ訓令ヲ發シ在支英國公使ト接觸ヲ保チ帝國政府ノ所見ヲ支持スルニ有益ナル材料ヲ同公使ニ内話セシメタルニ「ジョルダン」公使ハ今ヤ該運動ハ騎虎ノ勢如何トモ爲シ難カルヘク之カ中止ヲ勸告スルハ時機既ニ遅ク却テ衰ヲ非常ナル窮境ニ陥ラシメ紛糾セル事態ヲ惹起スルコトナキヤヲ懸念シ居リ況ンヤ日英兩國ノミニテ勸告ヲ爲スカ如キ

ハ面白カラス雷ニ其ノ效果ノ如何サヘ氣遣ハルルノミナラス兩國カ支那内政ニ干涉ストノ口實ヲ與ヘ反感ヲ買フニ過キサレヘク又一方他ノ諸國ハ寧ロ帝制ニ贊成ナルカ如キ感ヲ與ヘ却テ勸告ノ效力ヲ薄弱ナラシムヘシト思考セラレル旨ヲ答ヘタリ

然ルニ越エテ二十一日ニ至リ英國政府ハ前見ヲ翻シ帝制延期方共同勸告ニ關スル我カ提議ニ對シ全然同意ノ旨ヲ回答シ且日本政府ヨリ露佛米三國政府ニ對シ申入レントスル協同勸告加入勸誘ノ形式ヲ承知シタク左スレハ英國政府ニ於テモ又即時三國駐劄自國大使ニ對シテ同様ノ措置ヲ取ラシムヘキ旨左記覺書ノ通り申越セリ

支那帝制問題ニ關スル大正四年十月二十一日附英國外務大臣覺書

英國政府ハ支那ニ於ケル帝制運動ノ急激ナル進展ニ對スル日本國政府ノ甚大ナル懸念ヲ述ヘ日英兩國政府ヨリ出來得ヘクハ現下東亞ニ於テ擾亂ノ起生ヲ見コトヲ防カン爲姑ク國體變更ノ計畫ヲ中止スヘキ様支那政府ニ對シ協同勸告ヲ試ムルコトヲ提議セル十月十五日石井外務大臣來電ノ次第十月十八日日本國大使ヨリ通告ヲ受ケ在支英國公使ノ意見ヲモ徵シテ之ニ考量ヲ加ヘタリ

英國外務大臣ハ茲ニ英國政府ハ本件ニ關シ日本國政府ノ抱カルル懸念ニ對シ同感ヲ表シ支那政

府ニ對シ目下ノ處該變更ヲ實行スヘキ適當ノ時機ニ非サルコトヲ協同勸告セントスル其提議ニ贊成ス英國政府ハ又露佛米ヲモ本協同措置ニ參加セシメントスル日本國政府ノ提議ニモ亦贊同ス日本國大使ヨリ英國外務大臣ニ對シ右三國ニ向テ發セントスル勸誘ノ形式ヲ通報セラルルニ於テハ外務大臣ハ直ニ在露佛米英國代表者ニ對シ各其同僚タル日本國大使カ訓令ニ據リ爲サントスル所ト同一ノ照會ヲ爲スヘキ旨訓令スルコトト致スヘシ

依テ石井大臣ハ十月二十三日在英井上大使ニ電訓シ英國政府覺書ニ關シ大至急英國當局ニ會見ノ上英國政府ニ於テ全然帝國政府ノ意見ニ同意ヲ表セラレタルハ帝國政府ノ最モ満足スル所ナル旨ヲ述ヘ露佛米三國政府ニ對シテハ別記ノ趣旨ヲ右三國駐劄帝國大使ヲシテ夫々申入レシメタキ考ナルニ付英國政府ニ於テ同意ノ上ハ右三國駐劄英國大使ニ對シ帝國政府ト同様ノ申入レヲ右三國政府ニナス權至急電訓アリ度キ旨並ニ支那ノ形勢ハ益々急轉シツツアルニ付此ノ上遲延スルニ於テハ形勢進ミタル結果我方勸告ニ應スル爲著シク袁世凱ノ威嚴ヲ失墜シ其ノ立場ヲ極メテ困難ナラシムルカ如キコトト相成リテハ大局上ニモ甚々面白カラサルニ付此ノ際右三國政府ニ對シテハ早速交渉スルモ其ノ回答ハ之ヲ待ツコトナク不取敢日英兩國ヨリ至急支那政府ニ勸告ヲ與フルコトト致度キ旨申述ヘ其ノ結果ヲ電報セシムルコトトセリ

帝國政府ノ露佛米三國政府ニ提議セントスル支那帝制實施延期

協同勸告案

支那ニ於ケル帝政實現ノ計畫カ急遽進展シツツアルハ責任國政府ノ既ニ熟知シ居ラルル所ト思考スル處支那ノ實勢ハ交通機關ノ不備ト支那當局ノ新聞操縱盛ナルトノ爲メ之ヲ詳知スルコト甚々困難ナルモ帝政實行ニ對スル反對ノ感情ハ意外ニ熾烈ニシテ特ニ長江一帶及南支地方ニハ反對ノ氣勢瀾漫セリ支那政府ハ或ハ帝政實行ニ都合ヨキ機作成セラレタル報告ヲ各地方官憲ヨリ徵シテ之ヲ公ニシ或ハ各地方官憲ヲシテ反對派ヲ直接間接抑壓セシムル等百方手段ヲ講シテ平靜ヲ裝ヒツツアルモ事實ハ帝政實現ヲ急ケハ急ク程益々反對ノ情勢高マリ來ル有様ナリ即チ支那カ現狀ヲ其儘維持スレハ差シ當リ何等國內ノ動搖ヲ見ルヘキ虞ナキニ帝政計畫ノ爲メ斯ク不安ナル形勢ヲ誘致シタルモノニシテ國體變更ノ結果萬一動亂ノ勃發スルカ如キコトアランカ支那ニ利害關係深キ諸國ノ蒙ルヘキ影響計ルヘカラサルモノアラン今ヤ歐洲多事ノ際聊カニテモ大局ノ平和ニ惡影響ヲ及ホス憂アル出來事ハ之ヲ避クルコトト致度キ折柄支那ノ形勢右ノ如クナルハ東洋平和ノ爲帝國政府ノ最モ懸念不安ニ堪ヘサル所ナリ帝國政府ハ決シテ支那ノ内政ニ干涉セントスルカ如キ意思ヲ有スルモノニアラサルハ申ス迄モ無キ儀ナルモ同國ノ形勢故

上ノ如ク不安ノ裡ニアルヲ以テ帝國政府ハ此際支那政府ニ對シ支那政府ニ於テハ果シテ何等ノ異變ナク無事ニ帝政ヲ實現シ得ル心算アル次第ナルヤヲ尋ネタル上帝國政府ノ見ル所ヲ以テスレハ帝政實現計畫ノ進行ハ支那國內ノ動搖ヲ惹起スル虞アルニ付帝政計畫ヲ當分延期スルコト大局ノ爲得策ナルヘキ旨懇談的ニ勸告シ以テ禍ヲ未然ニ防キ度キ考ナリ就テハ責任國政府ニ於テモ帝國ト同様ノ懸念ヲ懷カルルニ於テハ東洋平和ノ爲此際同様ノ勸告ヲ支那政府ニ與フルコトト致サレ度シ

井上大使ハ前記訓令ニ接スルヤ十月二十四日「ラングレー」次官ト會見訓令ノ趣旨ト申述ヘタルニ在露佛米英國大使ニ前記ノ協同勸告案ト略同様ノ訓令ヲ發スル義ハ同官ニ於テ早速之ヲ承諾シタルモ右三國ノ回答ヲ俟タヌ不取敢日英ヨリ至急支那政府ニ勸告シタシトノ我カ提議ニ對シテハ十月二十五日「グレー」外相ノ歸京ヲ俟テ何等挨拶スヘシト述ヘ「實ハ「ジュールダン」公使ヨリハ當方ヨリノ同合セニ對シ支那ノ物情平靜ニシテ帝制見合セ勸告ハ今日ニ至リテハ已ニ時機遅レノ感アリ若シ勸告ノ目的ヲ達センカ爲ニハ列強合同シテ之ヲ行フコト可然トノ回報アリタリ尙又支那ニ直接利害關係ヲ有スル銀行家筋ノ意見ヲモ徵シタルニ之レ亦支那ノ事態ハ昨今平穩ニシテ帝制計畫ニ關シテ僅ニ廣東地方ノミ多少ノ反對ノ氣勢アルモ同省將軍ノ取締行届キ居ルニ付同地

方ニ於テスラ何等動亂發生ノ見込ナシトノコトニ之レアリ斯ノ如ク英國側ノ情報ニテハ支那ノ現狀ハ格別危險ノ兆ナキ據認メラルルモ日本國政府ノ來意ヲ重シ致テ協同勸告ノ提議ニ應スルコトニ決シタル次第ニ付此際他三國交渉ノ結果ヲ待タスシテ日英率先シテ右勸告ヲ與フルコトハ如何之レアルヘキカト思考スル次第ナリ」トノコトニ付井上大使ハ「支那ノ形勢ハ或ハ表面平靜ノ觀アルヘキモ右ハ支那政府彌縫策ノ結果ニシテ其實裏面ニ於テ帝政反對ノ感情頗ル熾烈ニシテ事態日切迫一刺ヲ爭フ場合ナルヲ以テ我政府ハ此際日英ノミニテモ不取敢先ツ勸告ヲ行ハンコト必要ト認ムル次第ニ付此點ハ篤ト「グレー」外相ヘ指摘シ置カレタシ」ト述ヘタルニ同次官ハ「其所カ双方ノ見込ノ違フ所ニ付何レ「グレー」外相歸京次第何分ノ義御答致スヘシ」ト答ヘタリ

然ルニ十月二十五日ニ至リ英國政府ハ帝國政府申出ニ係ル露佛米三國政府ニ對スル支那帝制實施延期方協同勸告ニ參加方勸誘ノ形式案並ニ右ニ先立チ日英兩國代表ヲシテ支那政府ニ申込マシムルコトニ關シ異議ナキ旨左記覺書ヲ以テ回答シ來レリ

又帝國政府ハ十月二十六日在露本野在米珍田兩大使及在佛田付代理大使ニ對シ夫々任國政府ニ協同勸告ニ參加スヘキ旨電通スヘキ旨電訓シタリ

支那帝政問題ニ關スル大正四年十月二十五日附英国外務大臣覺書

支那帝制運動ノ件ニ關スル十月二十四日日本國大使ヨリノ通告ニ關シ英國外務大臣ハ英國政府ニ於テハ支那國體變更ノ計畫ヲ延期スヘキ旨日英兩國協同シテ支那政府ニ與フヘキ勸告ニ參加方露佛米三國政府ニ勸誘スル際日本國政府ヨリ右三國政府ニ對シ發スヘキ勸誘ノ形式案ニ同意ナルコトヲ茲ニ閣下ニ通報スルノ光榮ヲ有ス

依テ在露佛米各英國代表者ハ各其同僚タル日本國大使ト協同シ各任國政府ヘ同一ノ照會ヲ爲スヘキ旨同一趣旨ノ訓令ヲ受ケタリ

外務大臣ハ又日本國政府ノ通報ニ係ル本件事態ニ鑑ミ在支英國公使ニ對シ佛露米三國政府ヘノ照會ニ對スル其回答ヲ待ツコトナク日本國代理公使ト協議ノ上兩公使ニ於テ最モ適當ト認ムル方法ニ依リ速ニ該協同勸告ヲ爲スヘキ旨電訓シタル趣ヲモ併セ通告スルノ光榮ヲ有ス英國政府ハ在露佛米各英國代表者ニ對シテモ亦右措置ニ付通報シ且右各代表者ニ於テ各任國政府ニ對シ其趣通告シタル上任國政府ニ於テハ右緊急措置ヲ要スルニ至リタル理由ヲ諒得シ出來得ル限リ速ニ各其在支代表者ニ對シ日英兩國代表者ノ協同勸告ヲ支持スヘキ旨訓令方希望スル趣申入ルル機電訓シタリ

茲ニ於テ帝國政府ハ愈々三國政府ノ回答ヲ待タヌ不取敢日英兩國ヨリ帝制計畫延期方支那政府ニ申入ルルコトニ決シ十月二十七日在支小幡代理公使ニ對シテ必要ノ電訓ヲ發シ在支英國公使ト適當打合セノ上成ルヘク速ニ支那政府當局ニ對シ勸告方實行スヘキコトヲ以テシタルカ十月二十八日日本野大使ヨリ露國政府モ亦我方提議ニ對シ在北京露國公使ニ日英兩國公使ト協同シテ支那政府ニ勸告ヲナスヘキ旨電訓スル機決定セル趣電報アリ

同日在支小幡代理公使ハ英露兩國公使同伴外交總長ト會見シ先ツ小幡代理公使ハ左記ノ趣旨ヲ帝國政府ノ勸告トシテ懇談的ニ申入レタリ

十月二十八日小幡代理公使ヨリ支那外交總長ニ申入レタル帝制延期勸告

貴國帝政實現ノ計畫ハ急遽進展シ來レル處右計畫ニ對スル裏面ニ於ケル反對ノ感情ハ意外ニ熾烈ニシテ暗流甚ダ危險ナルモノアリト認メラル從テ此際強ヒテ帝政ヲ實行セントセハ何時如何ナル事變勃發スルヤモ計ラレス今ヤ歐洲多事ノ際聊カニテモ大局ノ平和ニ影響ヲ及ホス憂アル出來事ハ之ヲ避クルコトト致度折柄支那ノ形勢右ノ如クナルハ帝國政府ノ最モ懸念不安ニ堪ヘサル所ナリ萬一支那國內ノ動搖ヲ惹起スルカ如キ事態ニ立至ラシカ友邦タル支那ノ爲ニモ非常ノ不幸タルハ勿論關係深キ諸國ノ利害ノ爲ニモ誠ニ憂フヘキ所ナルカ支那政府ニ於テハ果シテ全然何等ノ異變ナク無事ニ帝政ヲ實現シ得ル心算アル次第ナルヤ我方ノ見ル所ニ依レハ各地ノ實情特ニ上海其他長江筋並南支地方ノ情勢ハ實ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ莫大總統就任以來過去四年間ニ漸次支那ノ秩序ヲ恢復セラレタルハ帝國ノ常ニ慶シテ稱カサル所ニ保リ莫大總統ニシテ依然現狀ノ維持ニ努メラレンニハ何等支那國內ノ動搖ヲ誘起スル如キ虞ナカレヘシ然レニ今急遽國體ノ變更ヲ圖リ

上記ノ如キ不安ナル情勢ヲ脱却スルハ支那國ノ爲メ甚大之ヲ情マサルヲ得ス故ニ大統領ニ於テハ大局ニ顧ミ暫ク帝政實行ノ計畫ヲ延期セラレ以テ職ヲ未だニ勤キ極東平和ノ基礎ヲ固フスルノ最モ賢明ナル措置ニ出テラレンコト帝國政府ノ切ニ勸告セントスル所ナリ申ス迄モナク帝國政府ハ決シテ支那内政ニ干渉セントスルモノニアラス右ノ勸告ヲ爲スハ實ニ東洋平和保持ノ衷情ヨリ出テタルニ外ナラサルナリ

次テ英國公使モ「英國政府ハ全然日本政府ト見解ヲ同クシ只今日本代理公使ノ陳述セラレタル通り不測ノ事變發生ヲ避クル爲此際帝制實現ヲ暫時中止セラレンコトヲ支那政府ニ勸告スルト同時ニ支那政府ニ於テ果シテ全然何等ノ異變ナク無事ニ帝制ヲ實現シ得ル見込ナリヤ否ヤ承知シ度シ」ト述ヘ次テ露國公使ヨリ帝制問題ニ關シテハ露國政府ニ於テモ日英兩國政府ト其ノ所見ヲ同クシ暫ク其ノ實現延期申入ルル様兩國公使ト協同シテ友誼的ニ支那政府ヘ勸告スヘキ旨ノ訓令ニ接シタルコトヲ述ヘタル處外交總長ハ「只今日英露三國代表者ヨリ述ヘラレタル勸告ノ趣旨ハ之ヲ了解セリ乍去國體變更ノ件ハ事支那ノ内政ニ係リ而カモ右ハ專ラ民意ニ依リテ決スヘキモノニシテ大統領ニ於テ之ヲ左右シ得ヘキモノニアラス從テ其ノ實行ヲ早メ又ハ之ヲ遅カラシムル等ノ事ハ却テ民意ニ待ツヘキモノナリ地方ノ狀況ニ付テハ近ク接到シツツアル各省將軍巡閱使等ノ電報ニ依レハ各地トモ極メテ安靜ニシテ毫モ動搖ノ模様ナク今後ト雖將軍巡閱使等ニ於テ十分安寧秩序ヲ維持シ得ヘキ見込ナリ只今小幡日本代理公使ヨリ日本ハ東洋平和維持ノ目的ヲ以テ茲ニ勸

告ス云々ト述ヘラレタル處右ハ支那政府ノ深ク感謝スル所ナルト同時ニ支那モ亦東洋平和維持ノ目的ヲ以テ國體變更ノ議ヲ研究シツツアル次第ナルニ依リ御諒承願ヒタク兎ニ角本日三國代表者ヨリ申出ラレタル次第ハ早速政府ニ報告スヘシ」ト答ヘタリ

尙佛國政府ハ十月二十八日帝國政府提議ニ接セルモ當時同國內閣更迭騒ノ最中ニシテ外務大臣スラ確定セナリシ場合ナリシカハ回答自ラ遷延セルモ十一月一日在支佛國公使ニ日英露同様勸告スヘキ旨ノ訓電ヲ發シ同公使ハ十一月三日陸外交總長ト會見シテ國體變更ノ延期方ヲ勸告スル所アリタリ

前記ノ如ク英露佛各國政府共帝國政府共同勸告ノ提議ニ應シタルモ只米國政府ノミハ十一月三日ニ至リ支那ノ共和政體維持ハ米國トシテ憚フ所ナルモ事他國ノ内政ニ屬スル上ニ在支米國人モ政體變更ノ結果何等影響ヲ被ルノ虞モ無之ニ付此ノ際何等ノ措置ヲ執ルハ正當ニ非ストノ趣旨ヲ以テ參加方拒絶シ來レリ

十月二十八日(即チ勸告當日)在英井上大使ハ「グレー」外相ト會見シタルニ同外相ハ在支英國公使ハ尙日英兩國ノミノ勸告ハ實效ナカルヘキ旨ヲ懸念シ居ル旨ヲ述ヘ且支那カ勸告ヲ容レヌ無事ニ帝制實現ヲ遂ケタル場合ニ關シ「自分ノ考ニテハ右ノ場合ニハ寧ロ之カ承認ヲナス方何等勸

亂豫防ノ爲最モ得策ナラント思考ス此點ニ付テハ在日本英國大使ヲシテ石井男ノ意見ヲ問合サシ
 メ置キタリ」云々ト告ケ且東京ニ於テハ同二十八日在本邦英國大使ヨリモ同様ノ申入アリタルニ
 付石井大臣ハ「支那カ我方勸告ニ對シ國體ノ變更計畫ノ爲國內動搖ノ虞ナキ旨等ノ筋合ヲモ違フ
 ルコトナク全然勸告ヲ拒絕スル場合アルヘシトハ思考セラレス從テ單純ナル拒絕ノ場合ニ對スル
 コトニ付テハ未タ考慮シタルコトナシ次ニ支那カ我方勸告ヲ以テ時機後レタリト主張スルコトハ之
 ナキヲ保セス爾シテ右等ノ場合取急キ帝政ノ承認ヲ爲スノ可否ニ付キテハ本大臣ハ暫ク確タル意
 見ノ言明ヲ爲スコトハ之ヲ留保セサルヲ得スト雖差當リ意請ヲ述フレハ袁カ我方ノ勸告ニ從ハス
 シテ帝位ニ上リタル後ニ果シテ國內ニ發生スル動亂ヲ鎮定スルノ實力アリヤ否ヤヲ見定メスシテ
 直ニ承認ヲ與フルハ國體變更中止ノ勸告ヲ爲シタル趣旨ト相容レサルモノナルヲ以テ袁ニ於テ右
 ノ如キ變亂ヲ鎮壓シ得ル實力アルコトヲ證明シ得タル後ニ初メテ承認スルコト至當ナルヘシ從テ
 出來得ル限リ速ニ承認ヲ爲スハ可然モ即位後直ニ承認ヲ爲スコトハ得策ニアラサルヘシト考ヘラ
 ル」ト答ヘタリ

其ノ後井上大使カ外務大臣ヨリ聞込ミタル所ニ依レハ英國政府ノ得タル情報ニ依レハ英國商人間
 ニハ帝制計畫ノ進行ハ支那ノ治安ニ惡影響ヲ及スヘキヲ大ニ懸念シ若シ何等カノ異變アラハ英國
 ノ利益ハ打撃ヲ被ルヘク旁々支那ノ爲ニモ取ラス右計畫ノ延期ヲ切望スル者尠カラサリシヲ以テ
 其ノ趣旨ヲ以テ同外務大臣ヨリ在英支那公使ニ說得シタル由ナリ
 又在支小幡代理公使カ在支三國公使ノ態度ヲ察スル所ニ依レハ英國公使ハ内心甚ク勸告ニ氣乗セ
 ナルカ如ク裏面ニ於テ如何ナル意見ヲ支那側ニ洩ラシ居ルヤモ計リ難ク露佛公使モ他迄勸告ノ趣
 旨ヲ固執スヘキヤ否ヤ疑ハシク支那側ニ於テ之等ノ内情ヲ感知セハ或ハ勸告ヲ無視シテ豫定ノ行
 動ニ出ツルヤモ計リ難ク小幡代理公使ニ於テモ此ノ點ヲ大ニ懸念セリ

帝制實施延期勸告ハ支那政府ニ多大ノ困難ヲ與ヘタルモノノ如ク其ノ當路者ハ是カ對策ニ付切リニ評議ヲ議ラシ事ヲ日本側
 ノ眞意ヲ突止ムルコトニ關心シ現政府ニ據ラサル一部官民、參政院參政ノ多數及外國通信員中ニハ同情的態度ヲ有シ居ル尠
 カラサルモ官邊一般殊ニ帝制擁護者ハ甚ク意地惡キ處置トシテ我國ニ對シ深大ナル惡感ヲ懷キタル模様ニシテ他面帝制實行
 準備ハ着々進行シ軍人一派ノ意氣込順ル強硬ナルモノアリ當時ノ形勢ヨリスレハ到底帝制ヲ中止シ得サル破目ニ陥リタルモ
 ノノ如ク遂ニ十一月一日曹外交次長在支小幡代理公使ヲ訪問シ情詞極メテ婉曲ナル長文ノ回答ヲ口述セリ
 即チ先ツ國體變更ノ議ハ現政府ノ發意ニ出テス國民之ヲ唱フル者久シク近時愈多キヲ加ヘツツアリ而モ力ヲ以テ之ヲ壓スレ
 ハ民意ニ反シ治安ヲ紊スノ虞アリトノ趣旨ヲ觀キ起シ政府ハ國體變更ヲ贊成セス決シテ急劇措置ノ意思ナキ所以ヲ述ヘ政府
 カ各方面ニ向テ調停ニ努メ一面法律ヲ重シ他面民意ニ從ヒ大局ノ平和ヲ保全センコトヲ希望シ各省官吏ノ報告ヲ觀シタル
 ニ一致シテ帝制實行ニ對スル各地ノ治安ヲ擔保セリ外國人ノ調査ハ内國人觀察ノ詳細正確ナルニ如カストノ趣旨ヲ述ヘ次テ
 國民帝制ヲ望ム理由ノ大要ヲ舉テ述テ本問題ハ今ヤ國民代表大會ノ公決ニ附セラレ各省中君主立憲ニ決シタルモノ既ニ五省

アルニ至ル上ハ事一日定ラサレハ人心一日安ンセストノ趣旨ニ次テ各省今ヤ特ニ多大ノ注意ヲ拂ヒ十分ニ警戒シテ憂フヘキコト斷シテナシト述ヘ最後ニ日本政府カ友誼的勸告ヲ爲シ支那ノ内政ニ干與セサルコトヲ聲明シタル好意ニ對シ謝意ヲ表シ支那政府ハ東洋平和ノ維持ニ願念スルコト日本國政府ト全ク所見チ一ニスルヲ以テ之カ爲完全ニ努力スヘク日本國政府ニ於テモ十分之ニ信ヲ措カレンコトヲ希望ストノ趣旨ヲ以テ結ヘリ

以上ノ回答ハ徒ラニ冗長ナルモ支那政府ニ於テ帝政計畫ヲ依然進行セシメントスルノ意圖ナルヤ否ヤ將又之ヲ進行セシムルモ動亂發生ノ虞ナキヲ確信スルヤ否ヤノ二點ハ未ダ明確ナラサルモノアリタルヲ以テ小幡代理公使ハ更ニ曹汝霖ニ面會シ支那政府ノ所信ヲ問合セタル處曹ハ政府ハ三國ノ勸告ヲ諒トスルモ今更到底中止ノ途ナク其ノ儘進行セシムル方針ナル旨並ニ之カ爲重大ナル動亂ノ發生ヲ見ルコト斷シテ無カルヘク反之此ノ際該運動ニ彈壓ヲ加ヘンカ却テ擾亂ヲ惹起スルノ虞アル旨ヲ確答シタリ

十一月三日在本邦支那公使陸宗輿ハ石井大臣ヲ訪問シ本國政府ノ訓令ニ依リ前記同様ノ回答ヲ齎シ來レリ然ルニ支那政府ノ真意ハ勸告ヲ容ルルニ在ルヤ否ヤ依然不明ナルニ付大臣ハ此ノ點ヲ詰問シタルニ陸公使ハ何等訓令ヲ受ケ居ラサルニ付訓電ヲ乞フコトトシテ引取リタリ

大臣ハ一方小幡代理公使ヲシテ右疑問ニ關シ十一月四日公式ニ支那政府ニ質問セシメタル處陸外交總長ハ今日其ノ進行ハ到底中止ノ途ナケレトモ愈々國民大會ニ於テ國體變更ヲ議決スルモ法律關係手續其ノ他慎重ナル調査ヲ要スルモノ尠カラサレハ其ノ實行ハ短時日ニ於テ之ヲ能クスヘキニ非ス此ノ點ニ付誤解無キヲ望ムト同時ニ支那政府ニ於テモ日本政府其ノ他ヨリノ勸告ヲ尊重シ

十分慎重ニ處理シ萬遺漏ナキヲ期スル次第ヲ述ヘタリ

十一月六日在本邦支那公使ハ石井大臣ヲ來訪シ「本國政府ハ尙慎重考慮中ニシテ唯帝制促進ト解セラルルハ稍誤解ニ屬ス各省投票期日ハ皆豫定セラレ居リ之ヲ改ムルハ頗ル困難ナリ只此間ノ手續餘程煩雜ナリ要スルニ東洋平和維持ニハ支那政府充分盡カスヘシ支那政府ハ急速國體ヲ變更スルノ意ハ初メヨリナシ現在モ尙此意ナキコトヲ證明ス」云々トノ趣旨ノ口上書ヲ朗讀セリ右ニ依ルモ支那政府ハ他迄真意ヲ表明セス其ノ態度ハ遂ニ不得要領タルヲ免レス此ノ上追究スルモ無益ナレハ石井大臣ハ在本邦陸公使ニ對シ此ノ不明瞭ノ爲生スル一切ノ責任ハ支那政府自身ニ在ル旨ヲ告ケ且萬一突然變更ヲ行フカ如キコトアラハ之ハ實ニ帝國政府ヲ侮辱スルモノニシテ國論沸騰シ重大ナル結果ヲ生スヘキ旨戒告シタリ其ノ際公使ノ口吻ニ依リ察スルニ支那政府ハ此ノ際單ニ主義上帝制問題ヲ決定シ置キ其ノ體面ヲ傷ケサル限り之カ實行ヲ延期スルモ差支ナシトノ意見ヲ懷ケルカ如シ

越エテ十一月九日施祕書ハ外交次長曹汝霖ノ命ニ依リ小幡代理公使ヲ訪問シ國體變更ニ關シテハ支那政府ニ於テ種々考慮ノ結果今年中ハ之ヲ實行セサルコトニ内定セリ之支那政府カ日本政府及他三國政府ノ好誼的勸告ヲ遵奉スルカ爲ナル旨非公式ニ通告シタリ

十一月十一日陸外交總長ノ請求ニ依リ日英露佛四國ノ代表者ハ陸ヲ訪問シ陸ヨリ支那政府ハ帝制實施ヲ延期スヘキ旨左ノ如キ通告ヲ受ケタリ

支那政府ハ既ニ友邦政府ニ對シ決シテ急遽國體變更ノ意思アラサル旨ヲ十分ニ說明シタリ目下既ニ國民代表ノ投票ハ二十省及海外藩ニ於テ行ハレ而シテ立憲君主制贊成票數ハ已ニ全般ノ半ヲ超ヘタリ即チ國體變更ハ斯クシテ最早國民ノ大多數ニ依テ可決セラレタルモノナリ然レニ諸總長及諸政務機關ニ於テ屢次凝議ノ結果國體問題國民ニ依リテ決定セラレタル後ニ於テ尙種々煩雜ナル措置ヲ要スルモノアルコト並大興施行ニ先タテ萬全ノ設備ヲ要スルモノアルコトヲ知得シタルニ付適當ナル時期ヲ選擇スルノ要アリ從テ多少ノ延期ヲ必要トス茲ニ於テ本總長ハ此秘密通告ヲ行フモノナリ惟フニ諸公使モ此通告ヲ歡迎セラルルコトト信ス

乍去輿論ノ趨勢ヨリ察スルニ右ハ國民ノ好マサル所ナルヘク加之各種ノ情報ニ據レハ支那法權ノ及ハサル地方ニハ民心ノ不安ニ乘シテ其間ニ動亂ヲ起シ或ハ誤解ヲ生セシムル爲有ユル手段ヲ用ヒテ人民ヲ煽動セムトスル叛徒アリ但國內ニ不慮ノ事變發生スル場合ニ於テハ支那政府ノ威力ハ何時ニテモ克ク處理スルニ堪ユルモノナリ是レ實ニ支那政府ノ負ヘル國內ノ平和及秩序維持ノ責任ヲ遂行スル所以ナリ本總長ハ此機ニ於テ併セテ如上ノ陳述ヲナスモノナリ

右通告ハ曩ニ施秘書ノ非公式通告ト多少其ノ趣ヲ異ニシ後者ニハ本年中ハ帝制實行ヲ延期スヘシト云ヘルニ反シ前者ニハ期限ニ關シ言及スル處ナシ而シテ期限ヲ付セス單ニ延期スルコトトナレハ實際四國ノ勸告ヲ容レタルコトトナル譯ナレハ石井大臣ヨリ小幡代理公使及三國公使ノ所感ヲ問合セタルニ何レモ此ノ點ヲ重要視シ居ラサルカ如ク前記公式通告ニ期限ノコトヲ言及セザリシ

ハ體面論ニ捕ハレタルモノニシテ其ノ真意ハ當年中即チ大正四年中ニハ實行セサルニ在リトシ若シ公式ニ聲明セハ列國ノ勸告ニ聽從シタル形トナルヲ以テ帝制論者並ニ民間ニテ物議ヲ挾ムモノナキヲ保シ難キヲ懸念セルモノト解セルカ如シ十一月十五日小幡代理公使ノ曹汝霖ニ面會セル際同伴ニ言及シタル處曹モ亦同様ノ意見ヲ述ヘタリ

尙伊國代理公使ハ本國政府ヨリ支那ノ帝制延期勸告ニ付日英露佛ト同様ノ措置ヲ執ルヘキ旨ノ訓令ニ接シタル趣ニテ十二月十二日陸總長ニ面會訓令ヲ執行シ尙同代理公使ノ所見トシテ支那政府ノ四國ニ與ヘタル回答ニシテ國體變更延期ノ意思ヲ明示セルニ於テハ同代理公使ハ此ノ訓令ヲ執行スルノ要ナカリシナラント信セル旨ヲ附言シタル由ナリ但シ右伊國政府ノ勸告ハ帝國政府ノ圖知セザリシ所ナリ

第三節 帝制延期第二回勸告ニ關スル英國其他關係 諸國トノ交渉

十一月十一日ノ支那政府回答振ニ依レハ同政府ハ日英露佛及伊國政府ノ勸告ニ依リ帝制ノ實行ヲ多少延期スヘシトノコトナレトモ一面帝制實施ノ計畫ハ着々進行シ大典籌備處ヲ設ケ內務總長朱啓鈴之カ長トナリ當路ノ大官ヲ以テ委員ヲ組織シ各種ノ準備ヲ急キ或ハ陰曆正月(二月初旬)ノ

頃ヲ以テ之ヲ決行セントスルノ模様ナキニアラス爰ニ於テ帝國政府ハ更ニ第二ノ措置ヲ執ラサルヘカラサルニ至レリ

十一月十八日京都ニ於テ閣議ヲ開催シ(當時大禮ニテ各大臣京都ニ在リタリ)右對支政策ニ就キ討議スル所アリ其ノ結果在英佛露各大使ニ電訓シテ四國政府ヨリ支那政府ニ對シ左ノ通告ヲ爲スコトヲ夫々任國政府ニ提議セシメ又在伊林大使ヲシテ伊國政府モ四國ト同一ノ態度ニ出ツル様勸誘セシメタリ

十一月十一日支那外交總長カ在北京四國代表者ニ口述シタル通告ニ依レハ支那政府ノ意志ハ尙明瞭ヲ缺クモノアリト雖モ同政府ニ於テハ民論ノ不滿アルニモ拘ハラヌ帝制實行ノ期ヲ多少延引スヘシトノコトナルヲ以テ帝國政府ハ右支那政府ノ通告ニ對シ日英佛露四國ヨリ同時ニ大要左記ヲ支那政府ニ申入ルルコト然ヘシト思考ス

左記(括弧内ハ後日關係各國ト打合ノ結果削除セリ)

自國政府ハ支那政府カ「十一月十一日ヲ以テ」在北京自國代表者ニ對シ帝制實行ハ多少之ヲ延期スヘシト通告シ又國內ノ平和及秩序ノ維持ニ關シテハ充分其ノ責ニ任スヘキ旨繰返シタルノ事實ニ順ミ「自國ノ權利ヲ留保スルト共ニ」暫ク時局今後ノ發展ヲ注視セントス

尙右申入ノ際同時ニ非公式ニ左ノ趣旨ヲ申入レシメタリ

支那政府ハ四國ノ勸告ニ對シ一時國體變更ノ實現ヲ多少延期スヘキ旨ノ意嚮ヲ示シタリト雖モ兎角體面ニ拘泥スル同政府ノコトナルヲ以テ或ハ僅カニ數週日ノ延期ノ後帝制ヲ實行シテ其ノ素志ヲ果サントスルカ如キコトナキヲ保シ難シ若シ同政府ニ於テ右ノ如キ措置ニ出ツルトセハ之レ實ニ四國側ヲ愚弄スルモノト云フヘク從テ此ノ如ク同政府ニシテ我方ノ豫期ニ反シ早々帝政ヲ實行スル場合ニハ關係四國ハ支那國內部ノ實情ニ顧ミ擾亂動搖ノ虞ナシトノ確タル見据ヲ付ケ得ル迄ハ支那ノ新國體ノ承認ヲ差控フルコト當然ナリトス而シテ國內動搖ノ虞ナキ時期ニ付テハ之レ四國側ノ認定ニヨル次第ニシテ其標準ヲ示スコト困難ナリト雖モ帝國政府ニ於テハ或ハ歐洲戰亂終局ノ時ヲ以テ其期トナスモ一案ナルヘキカト思考ス

在英井上大使ハ十一月十九日「ニコルソン」次官ト會見帝國政府ヨリノ提議トシテ以上兩様ノ申入ヲナシタル處前者ニ關シテハ反對ナラサリシカ如キモ後者ニ對シ「四國ニ於テ戰爭終決迄承認ヲ控ヘルトスルモ若シ獨逸ニ於テ先駆ケ承認ヲ行フトキハ如何ノモノナルヤ」ト述ヘタルニ付同大使ハ「獨逸國カ右様ノ舉ニ出ツルコト或ハ有之ヤモ計リ難シ去リ乍ラ四國側ハ必スシモ我等ノ敢ノ行動ニ倣フ必要ナシト思考ス四國ハ此際國體變更ヲ不可ナリトシ之カ中止ヲ勸告シタルモノ

ナルニ支那ニ於テ右勸告並ニ之ニ對スル最近回答ニ拘ラス近キ將來ニ於テ右變更ヲ斷行シタル場合四國自身直ニ之ヲ承認スルカ如キハ右勸告ノ根本ノ趣旨ト矛盾スルモノナリト存ス」ト述ヘタリ

又在佛露伊三國帝國代表者ハ夫々右訓令ヲ執行シタルニ何レモ我カ第一ノ提議ニハ大體ニ於テ異議ヲ挿ムモノナカリシモ第二ノ承認ノ件ニ關シテハ佛伊ハ大體英ト同様ノ懸念ヲ懷キタルモノノ如ク且當時恰モ支那ヲ歐洲戰爭ニ引入レントスル問題モ起リ前記我カ提議ニ對スル回答ハ各國共在英延引シタルヲ以テ承認問題ハ後廻シトスルモ差當リ第一ノ通告丈ハ至急ヲ要スル事情アルニ依リ帝國政府ハ十一月二十九日在英露佛伊各大使ニ對シ回答督促方ヲ電訓セリ

翌三十日在英井上大使ハ「グレー」外相ト會見シタルニ同外相ハ「貴方ノ案文ハ文意餘リニ「ストリクト」ニシテ殊ニ「權利保留」云々ノ語ハ幾様ニモ解釋シ得ル虞アルニ付右案文末ニ

It is understood that this communication does not claim any right, on the part of the five Governments to interfere with the internal affairs of China, but has reference to contingency of its being necessary to protect their interests from untoward consequences.

トノ意味ヲ加ヘタク其趣旨ニテ露佛伊三國大使トモ打合セ石井男ト協議ノ上可然案文ヲ定ムヘキ

様「グリーン」大使ヘ電訓シ一方露佛政府ヨリモ本件ニ關シ問合ノ次第アリタルニ付其旨露佛伊政府ヘモ通報シ置ケリ又承認問題ニ關シテハ主義上同意ナルモ同時ニ萬一支那ニ於テ急ニ帝制實現ヲ行フカ如キ事アランニハ其ノ場合ニ於ケル措置ハ更ニ關係政府間ニ改メテ協議スルコトト致シタキ希望ナリ」ト述ヘタリ

在本邦英國大使ハ右訓令ニ基キ石井大臣ニ申出ツル處アリシカ其ノ後十二月六日同大使ヨリ覺書ヲ以テ英國外務大臣ハ帝國政府ノ提案中「自國ノ權利ヲ留保スルト共ニ」(Reserve their rights)ノ語ヲ削除シ他ハ原案ニ同意スル旨ヲ申越シタリ

其ノ後露佛伊各國政府何レモ以上ノ削除ヲ加ヘ我カ原案ニ贊同ノ旨回答シ來レリ

支那ニ於ケル國體決定投票ノ情況ヲ見ルニ各省選舉ノ國民代表ノ投票ハ素ト八百長ニ過キサレハ一人トシテ帝制反對ノ投票ヲ爲シタルモノナキハ言フヲ待タス其ノ結果ハ夫々中央政府ニ電報セラレ尙中央特別選舉國民代表ノ國體決定投票ハ十二月十日執行セラレ之又全會一致君主立憲ニ贊成シ加之皇帝推戴書ヲ議決シ參政院ヲ經テ宣大總統ニ捧呈セリ
十二月十一日參政院ハ全會投票ノ査定ヲナシ取調ノ結果全投票千九百九十三票一致シテ君主立憲制ニ贊成ナル旨ヲ發表シ且各省國民代表大會ノ委託ヲ受ケ總代表トシテ宣大皇帝推戴上奏文ヲ捧呈セリ然ルニ宣大の詔諭表面ヲ裝ハンカ爲一先ツ右推戴ヲ辭シ上奏文ヲ返付シタル處參政院ハ更ニ會議ヲ重テ第二ノ推戴書ヲ捧呈シタルハ宣大遂ニ即位ヲ受諾スルニ至レリ
十二月十一日陸外交總長ハ總書ヲ日置公使ノ許ニ遺シ國體變更ノ情況ヲ述ヘ國民ノ關スル限リハ既ニ國體ハ變更セラレタルモノト了解セラルヘキ譯ナレトモ政府ニ於テハ諸般ノ準備ヲ整フル必要上今直ニ實行セントスル意圖ハ有シ居ラサルニ付誤解ナ

キ權ヲ認ムル旨ヲ申入レタリ

十二月十三日實ハ文武大官ヲ集メテ之ヲ宣旨シ政府各部院ニ對シテハ夫々籌備ヲ命ジタリ

帝制運動ノ發展前途ノ如クナル一方帝國政府ニ於テハ英佛露伊各國政府ヨリ協同通告案ニ關シ同意ヲ得タレハ十二月十三日在支日置公使ニ對シ在北京四國公使ト打合セノ上可成速ニ支那政府ニ對シ第二回通告(前記通告案中「十一月十一日ヲ以テ」及「自國ノ權利ヲ留保スルト共ニ」ヲ削除シタルモノ)ノ協同申入方ヲ電訓シタリ

各關係國公使ニ於テモ夫々本國政府ヨリ電訓ニ接シ爰ニ五國公使打合ノ結果十二月十五日相携ヘテ陸外交總長ト會見シ前述訓令ノ通り政府ニ對スル第二回協同通告ヲ爲セル處陸總長之ニ答ヘテ「帝制問題ハ支那國內ノ關スル限リ一應結末ヲ告ケタル次第ナルモ支那政府ニ於テハ種々準備ノ都合アリ今直ニ之ヲ實行セントスルニ非ル次第ハ之ヲ承知シ置カレ度ク次ニ支那政府ニ於テハ各國ノ勸告ヲ容レ居ル次第ナルニ付各國政府ニ於テモ相互的ニ支那ノ獨立及主權ヲ充分尊重セラレシコトヲ希望ス」ト附言シタルニ付各國公使ハ陸總長ニ對シ關係各國政府カ支那ノ獨立及主權ヲ侵害スト云フカ如キ感想ヲ懷クコトナキ様注意シタリ

第四節 支那帝制承認ニ關スル支那政府ノ申出

前記第二回通告ト相前後シ在本邦陸公使ハ十二月十四日石井大臣ヲ訪問シ帝制實施延期ニ關スル本國政府ノ訓電ヲ覺書ニ認メ大臣ニ手交セリ其ノ大要左ノ如シ

國民カ國體ヲ表決シ新君ヲ推戴スルノ手續ニ於テハ已ニ完了シ國民公決ノ國體ニ付テハ政府ト雖モ反對スルコト能ハサレトモ今日唯籌備ヲ諭令シ暫時延期セシメ直ニ施行ヲ布告セサルハ友邦ノ友誼勸告ヲ尊重スルノ意ニシテ日支ノ隣好ハ他邦ヨリ重キカ故ニ特ニ不正式ニ內告スル次第ナリ一切ノ籌備ハ來年一月中モ或ハ完了セサルヘシ

同公使ハ尙日本國政府ニテハ何時頃迄帝政實行ヲ延期セハ可ナリトノ意向ナルヤ内々承知シ度キ旨ヲ申出タリ

大臣ハ之ニ答ヘテ「確然何時頃迄ト云フコト能ハサレトモ歐洲戰亂モ明年(大正五年)三四月ノ交トモナラハ平和ノ氣運ニ向フヤモ計リ難シト察セララルニ付今暫ク待タルハ支那ノ爲ニモ得策ナルヘシト思考スル」旨ヲ述ヘ尙南方ノ警備ニ努ムル様内々警告ヲ與ヘタリ

帝國政府ニ於テハ右内閣合ニ對スル回答モ內密非公式ニ行ハン意圖ナレトモ從來ノ關係上豫メ關

係國政府ト打合セ置クヲ妥當ト認メタルニ付陛下ノ御裁可ヲ仰キタル上十二月十六日各關係國駐
 劄大使ニ電訓ヲ發シ左ノ如キ我カ回答案ニ對スル夫々任國政府ノ同意ヲ求メシメタリ
 支那政府ハ曩ニ關係列國ノ與ヘタル友誼的勸告ノ趣旨ニ顧ミ嚴ニ國內ノ動亂ヲ豫防スルノ手段
 ヲ講シ過日上海ニ於ケル騷擾モ幸ニ重大ナル發展ヲ見ルニ至ラスシテ平定シタル如キハ帝國政
 府ノ憂慮ヲ輕カラシムル所以ニシテ今後同國政府ニ於テ暫クノ間更ニ必要ノ警戒ヲ加ヘ騷亂ヲ
 未然ニ防クニ至ラハ帝國政府ハ右勸告ノ目的一應徹底シタルモノト認メントス
 尙右申入レニ附加シテ「右案中暫クノ間更ニ必要ノ警戒ヲ加ヘ云々トアルハ具體的ニ云ヘハ今後
 三四ヶ月間支那政府ニ於テ更ニ警戒ヲ加ヘ動亂發生ヲ防キタル上ハ其節ニ至リ帝政實現ヲ見ルモ
 我勸告ノ趣旨貫徹シタルモノト考フルヲ得ヘシト云フ意味ニテ要スルニ帝國政府ニ於テハ多數支
 那人ハ勿論支那ニ於ケル外國人間ノ輿論モ此上長ク帝制實現ヲ延期セシムルハ得策ナラスト云ヘ
 ルニ傾キ居ルコトヲモ考量シ若シ尙強テ支那ニ對シ餘リニ長キ延期ヲ求メ其結果帝制主張者ヲ壓
 抑スルコトトナリ却テ騷亂ヲ惹起スルカ如キコトアルニ於テハ帝國政府ニ於テモ亦自ラ之レニ對
 スル責任ヲ感セサルヲ得サル次第ナルニ付旁々今後三四ヶ月間平和維持セラルルニ至ラハ當初勸
 告ヲ爲シタル趣旨ハ貫徹シタルモノト認ムルコトトナスヘキ考ナル」旨ヲ申入レシメ同十六日石

井外務大臣ハ陸公使ニ對シ「帝國政府ハ支那政府カ帝國政府ニ限リ打明ケ内報セラレタル友好ノ
 意ヲ諒シ關係各國ノ議ヲ纏メ我主張ト支那政府ノ都合トヲ調和シ圓滿ノ解決ヲ見ンコトヲ望ム」
 旨支那政府ニ内報方ヲ談話シタリ

越エテ十二月二十日外交次長曹汝霖日置公使ヲ來訪帝制宣布ノ延期ハ支那政府ノ益々苦痛ヲ感ス
 ル所以ヲ述ヘ其ノ理由トシテ或ハ各省代表袁古王公等ハ退京ヲ見合セ居リ各省將軍巡閱使等ヨリ
 ハ政府ノ緩慢ナルニ苦情ヲ申込ムモノアリ又革命黨一派ハ此ノ間陰謀ヲ計畫スルノ虞ナシトセス
 授テ地方人民ハ不安ノ念ニ驅ラレ商務ノ發展ヲ阻害ス等忌憚ナク窮情ヲ内告シ更ニ進テ支那政府
 ニ於テハ本件實施期日ヲ明年(大正五年)陰曆正月元旦(新曆二月四日)頃ニシタキ希望ナル旨
 ヲ述ヘタリ

日置公使ノ觀測セル所ニ依レハ支那政府ニ於テハ承認問題ニ付日本カ關係國ト商議交渉中ナルヲ
 聞込ミ各國ニ訴ヘテ其ノ決定ヲ動かサントスルノ考ヨリ各關係國公使ニ對シ同様ノ申入ヲナシタ
 ルカ如シ

尙前記各關係國ニ對スル帝國政府申入ノ電訓ニ基キ在英井上大使ハ十二月十八日英國外務大臣代
 理「タル」侯ニ面會ノ上篤ト説明ヲ加ヘ對支案文英譯ヲ手交シタルニ同侯ハ自分ノ關スル限リ

英國政府トシテ異議スヘキ所ナキ様思考セララル旨ヲ答ヘ次テ十二月二十日附書面ヲ以テ我方回答ハ英國政府ノ全然同意スル所ナル旨回答アリ

又露國(十二月十八日)佛國(十二月二十四日)兩政府ヨリモ各異議ナキ旨回答ニ接セリ

帝制問題第一次勸告當時ヨリ支那カ帝制實施ノ曉ニハ獨逸兩國カ率先承認ヲナシ聯合國ヨリ有利ノ地位ヲ占ムルニ至ルヘキハ關係各國ノ等シク懸念シ居タルコトハ既ニ述ヘタリ第二次ノ承認問題起ルニ當ツテ其ノ憂慮ヲ一層強クセルモノノ如シ

尙書汝霖カ十二月二十日日置公使ヲ來訪ノ際在支獨逸公使ハ外交總長ニ對シ正式ニ帝制復興ノ祝辭ヲ述ヘ進ンテ親シク袁皇帝ニ謁見シタキ旨申込ミ來レルヲ内告シ以テ聯合國側モ獨逸兩國ニ運ルルコトナク承認ノ運ニ至ル様慫慂セリ

十二月二十一日在英井上大使ハ「クルー」侯ヨリ至急ノ需ニ應シ往訪シタルニ侯ハ「今朝來「ジョルダン」公使ヨリ二通ノ電報ニ接セリ其一ニ依ルニ去ル十七日獨逸兩國公使ハ陸總長ヲ往訪シ袁世凱ノ帝位受諾ニ付祝意ヲ表シ且各自本國政府ノ訓令ノ下ニ新帝ニ對シ祝辭奏上ノ爲メ謁見ヲ請求シ支那側ニテハ之カ處置振ニ付當惑ヲ感シ居ルモノノ如クナリ」ト述ヘ「事ノ性質上支那側ヲシテ右申入ヲ拒絕セシムル譯ニ行カス如何ニモ困リタル問題ナリ」ト附言シ「次ニ第二ノ電報ニ

依レハ陸總長ヨリ部下ノ官吏ヲ「ジョルダン」及日置公使ニ遣ハシ帝制實現ノ計畫モ著々進行シ居ルニ付支那政府ハ支那ノ新年ヲ以テ帝制ノ宣言ヲ行ヒタキ希望ニ付日英兩國政府ニ於テモ支那ノ事情ヲ酌ミ之ニ異議ヲ入レサル様致シタキ旨ヲ申入レタリトコトニテ「ジョルダン」公使ヨリ日置公使トモ相談ノ結果右ニ付請訓シ來レリ日本政府モ日置公使ヨリ既ニ同様ノ電票ニ接セラレタルナラン」ト述ヘ更ニ帝制問題ニ關シ「日本政府ヨリ最近內議ノ趣旨ハ英國政府ノ充分諒トスル所ニシテ既ニ昨二十日附ニテ之ニ同意ノ回答ヲナシタルコトナルカ右發送後恰モ「ジョルダン」公使ヨリ前述ノ來電アリ新局面ノ發生ニ遭遇シタル次第ナリ既ニ獨逸側ニテ前述ノ如キ措置ニ出テ一方支那側ヨリモ「ジョルダン」第二電ノ如キ希望申出アリタルニ就テハ此上尙之ヲモ阻止スルニ於テハ支那側トノ間ニモ面白カラサル紛糾ヲ來スノ虞アリ且本問題ニ關聯シ獨逸側ヲシテ我々聯合國側ニ比シ有利ノ地步ヲ制セシムルコトハ英國政府ノ何分堪ユル能ハサル所ニ之アリ而モ支那ノ新年ト云ヘハ我二月ニテ差入尙一ヶ月半位ノ餘裕ハ之アル事故日本政府ヨリ最近內示アリタル三四ヶ月トハ素ヨリ差アルモ前述ノ事情及見地ニ鑑ミ殊ニ支那ノ形勢モ我々ノ觀測シ得ル限リ此分ナラハ差向キ何等異變ノ起ルヘクモ見ヘサルニ付旁英國側トシテハ此際支那政府ヨリ申入ノ希望ヲ容諾シタキ考ナリ(若又萬一其間ニ何等カ異變突發セハ其時ハ又別ニ事情ノ變化ニ應シ

措置スヘキハ言フヲ俟タス。就テハ日本政府ニ於テモ可成我々ト歩調ヲ一ニセラルル機特ニ石井男ノ考慮ヲ煩ハシタク「ダリト」大使ヘモ電訓シ置クヘキモ貴大使ヨリモ特ニ盡力アリタシトノ事ニ付井上大使ハ「最初ヨリノ行懸上出来得ル限歩調ヲ一ニスル事ハ無論我方モ希望スル所ナリ御話ノ次第ハ早速本國政府ヘ傳達シ其考慮ヲ求メ置クヘシ」ト答ヘタリ

露佛伊各國モ亦同様敵國タル獨逸兩國政府カ帝制ヲ承認シ機先ヲ制セラルルコトヲ危惧シ惹テハ歐洲戦局上不利ヲ増スコトナキヤヲ懸念セルカ如ク露國政府ハ支那政府ニ對シ關係國ノ同意無クシテ帝制ヲ實行スルノ不得策ナルヲ説述シ獨逸ノ頼ムヘカラサル所以ヲ申入レタリト云フ

十二月二十五日在本邦陸公使ハ石井大臣ニ面會シ外交次長曹汝霖ノ日置公使ニ對スル十二月二十日ノ申入ト同様帝制ノ實施ヲ大正五年陰曆正月ト爲シタシトノ陳述ヲナセリ石井大臣ハ右申入ニ對シテハ正面ノ回答ヲ避ケ話頭ヲ轉シテ曩ニ支那政府ハ隣邦ノ誼ニ依リ承認ニ關スル帝國政府ノ内意ヲ承知シタキ旨内書ニ申入レタルニ其ノ後帝國政府ノ回答ヲ待タス陰曆正月ニ帝制實行ノ意ヲ關係列國ニ申出タル爲帝國政府カ各國トノ間ノ内交渉ニ一頓挫ヲ來シタル所以ヲ述ヘ大臣カ曩ニ同公使ニ對シ關係列國ノ議ヲ纏メ本問題ノ圓滿解決ヲ見シコトヲ望ム旨内話シ置キタルニ同公使カ之ヲ支那政府ニ通報セナリシカ故ニ斯ル行違ヲ生シ大臣ヲシテ甚シク迷惑ノ地位ニ陥シタル

次第ヲ詰リ又在支日置公使ヲシテ右陸トノ對話ノ要點ヲ支那政府當局者ニ内話セシメタリ此ノ詰問ニ對シ「曹汝霖ハ十二月十八日頃某國公使ヨリ本件ニ關シ特ニ日本ニノミ内話セル理由ニ付質問ヲ受ケタルハ稍意外トセル所ナリシカ最早關係各國ニ對シ右内話ノ次第ヲ秘シ置ク譯ニモ行カサルニ付内話ニ及ヒタル由ナリ」ト辯解セリ

第五節 支那帝制實行延期

十二月下旬ニ至リ雲南省ニ於テハ將軍唐繼堯蔡錫等主動トナリテ獨立ヲ宣言スルニ至リ南方支那ノ形勢漸ク不穩トナレリ

十二月二十九日在英井上大使「グレー」卿ト會見シタルニ同外相ハ「「ジョルダン」公使ノ近電ニ依レハ動亂ハ差向キ雲南以外ニ擴カルノ徵ナシトノコトナルカ果シテ佛國側情報ノ如ク他ノ西南各省ニモ波及スルモノトセハ事態頗ル重大ト云ハサルヘカラス就テハ此際帝政府モ承認問題モ其儘トシ暫ク形勢觀望ノ外ナカルヘキニ付支那側ヨリ督促ナキ限リ「ジョルダン」公使ヲシテ本問題ハ差向キ其儘ニ差置カシムル方然ルヘキカト考ヘ居ル」旨語リタリ又十二月三十一日在本邦英國大使ヨリ石井大臣ニ對シ同様ノ申入レヲ爲シ同大臣ハ之ニ同感ナル旨ヲ答ヘタリ

露國政府ニ於テモ一應ハ雲南事件鎮定迄觀望ノ態度ヲ執ルコトニ決シタレトモ之素ヨリ終局的解決ニハ非ス支那政府ニシテ四國ノ回答ヲ待タス二月上旬斷然帝制ヲ宣布スルカ如キ場合ニ對スル處置ヲ豫メ四國間ニ協議シ置クコト必要ニシテ獨塊及中立國ニ承認ヲ先セラレ四國ノミ之ヲ拒ムハ果シテ得策ナルヘキカハ講究シ置カサルヘカラストテ帝國政府ニ交渉アリ又英國政府ニ對シテハ此ノ際獨塊國カ先ンシテ承認セハ支那側ハ却テ彼等ニ好意ヲ表スルニ至リ聯合國間ニ交渉中ノ獨塊人ノ支那ニ於ケル陰謀阻止問題ノ成否ニモ影響スルニ至ルヘク寧ろ獨塊其ノ他中立國ニ後ルルコトナク承認スルヲ得策ナリト思考スル旨ヲ申入レタルカ如ク英國政府ニ於テモ其ノ後ノ形勢ノ推移ニ鑑ミ露國政府ノ意見ニ贊同シ大正五年一月十一日「グレー」外相ハ井上大使ニ對シ支那側ニ於テ帝制宣布ノ曉ハ直チニ承認ヲ與フル方得策ナルヘシトノ意見ヲ左ノ如ク述フル處アリタリ

昨十日露國大使本國政府ノ訓令ニ基キ支那帝政問題ニ付覺書ヲ提出シ來レリ其ノ要旨ハ露國政府ノ承知スル所ニ於テハ支那側ハ二月初ヲ以テ愈々帝制宣布ヲ行フヘク右宣布ト同時ニ獨塊並米國ハ勿論他ノ中立國ハ直ニ帝制承認ヲ行フヘシトノ事ナル處斯塔テハ (一) 聯合國側公使館ハ甚ク面白カラサル立場ニ陥ルニ至ルヘキノミナラス (二) 聯合國側ニ於テ何時迄モ承認躊躇ヲ

爲スコトハ或ハ革命黨側ニ對スル「エンカレデメント」ノ意味ニモ誤解セララル虞アリ就テハ露國政府ハ支那側ニ於テ愈々帝制宣布ノ上ハ直ニ之ニ承認ヲ與ヘタキ考ナルカ英國外務大臣ノ考如何ト云フニアリ右ニ付自分ハ露國大使ニ對シ英國政府ニ於テ本問題ニ付テハ先ツ日本政府ト協議ノ後ナラテハ何等意見ヲ定ムルヲ得サル地位ニアルモ露國政府ノ見地トシテ開示セラレタル前題二點ハ尤ノ意見ナリト自分ハ思考ス但右ハ現下ノ動搖カ此上擴大セラレサル限リニ於テノコトナリト答ヘ置キタリ尙伊國大使ヨリモ獨塊ニ後レテ帝制承認ヲ爲スハ我方ノ不利ナリトテ同様ノ來談アリ之亦露國大使ニ對スルト同意味ノ答ヲ爲シ置ケルカ雲南方面ノ動亂ニ關シテハ其後格別ノ消息モナキヲ見レハ露國政府申越シノ點ハ我方トシテモ同感ノ次第モアルニ付早速「グリーン」大使ニ電訓シ石井男ノ意見ヲ求メシムルコトト爲シタリ

右「グレー」外相ノ所言ニ對シ井上大使ハ「昨今ノ動亂ニ付テモ恰モ石井男ヨリ最近ノ消息内電アリタリ」トテ近着ノ情報電報ヲ程ヨク説明ノ上「斯ノ如ク動搖モ追々他ニ波及ノ模様モナキニアラス素ヨリ將來ノコトハ豫言シ得サルモ二月上旬ト云ヘハ尙一ヶ月ハ有之コト故夫レ迄ニハ又形勢如何ニ變化スルヤモ知ルヘカラス旁々石井男トシテ本件貴大臣ノ御希望ニ付テハ相當考慮ノ時日ヲ得ンコトヲ欲スヘク即答ハ事實困難ナルヘキカト存セラレ」ト述ヘタルニ「グレー」外相

ハ「如何ニモ貴説ノ通ナリ就テハ當方モ敢テ速急ノ回答ヲ望ム次第ニアラサルモ石井男ニ於テ十分本件ニ考慮ヲ加ヘラルル様希望ス」ト述ヘタリ

一月十二日在本邦英國大使ハ石井大臣ヲ訪問シ「露國政府ニ達シタル報告ニ依レハ日本國政府ハ帝政宣布ハ必スシモ承認ヲ伴フノ要ナク聯合國側ハ保留的態度ヲ執ルヲ可トストノ意見ナル趣ナリ」ト冒頭シ以下大要十一日「グレー」外相カ井上大使ニ對シ内話セルト同様ノ露國覺書要領寫ヲ添ヘ「英國政府ニ於テハ右日本國政府意見ナルモノニ同意スルコトヲ得サル」旨記載セル覺書ヲ提起セルニ付石井大臣ハ「本件ニ付テハ政府ノ議ヲ定メ追テ何分ノ儀回答ス可キカ獨塊ノ承認ヲ願慮シ之ヲ標準トシテ全局ノ政策ヲ決スルノ必要ハ之ナキニ非スヤ」ト答ヘ置キタルカ後（同日）英國大使ヨリ私信ヲ以テ英國外相ヨリ本件ニ付井上大使ト會見シタル旨並ニ最近雲南動搖擴大ノ模様ニ鑑ミ右覺書ニ付帝國政府ノ決定ヲ迫ラス「グレー」外相ノ希望スル處ハ支那ニ於テ特殊ノ利益及勢力ヲ有スル日本ト接觸ヲ保持シ何等カノ決定ヲ爲スヘキ時機到來セハ日本政府ト協力スルコトニアル旨來電アリタル趣通知越シタリ

日置公使カ當時ニ於ケル在北京英佛露三國公使ノ感想ヲ綜合セル所ニ依レハ支那政府ハ其ノ面目威嚴保持ノ必要ト人心ノ歸向ヲ一ニシテ權威ヲ以テ國內ノ秩序ヲ維持スルノ必要トヨリシテ帝制實行ハ陰曆一月上旬以後ニ延期シ得サルヘク又一旦宣布ノ上ハ適當ノ時機ニ承認ヲ決行スルコト得策ナリトスト云フニ於テ一致シ英露公使ハ雲南事件ハ再度ノ勸告ノ理由トナスニ足ラス專口今日ハ速ニ帝制ヲ承認セハ却ツテ動亂ヲ避クルノ趣意ニ合致スヘク帝制一度實現スルモ遠カラズ再ヒ革命ヲ見ルヘキヲ憂フル者アレトモ支那ノ將來ヲ豫言シ得ル者ハナク差當リハ現政府ヲシテ秩序維持ニ當ラシムルノ外ナク他國ヨリ束縛ヲ加フルハ不得策ナリトシ露國公使ハ此上帝制ヲ延期セシメントセハ勢ヒ高壓的態度ニ出サルヘカラス之當初勸告ノ友誼非公式ノ主旨ニ副ハスト思考シ居レリ又佛國公使ハ雲南事件ハ再勸告ノ理由ト爲ルヤニ認メラルモ其ノ效果ニ付テハ大ニ疑問ヲ抱ケリ

支那政府ハ大正四年十二月三十一日申令ヲ以テ翌年（即チ大正五年）ヨリ年號ヲ改メ洪憲元年トスル旨ヲ發表シ支那官廳ハ中央地方ノ別ナク一律之ヲ遵奉シテ公文ニ使用シ甚シキニ至リテハ中華帝國ト稱スルモノアリ前者ハ内部ノコトニ止マリ帝制ヲ承認スルコトトナルヘキ協合ニアラサレハ帝國政府ハ在支各領事ニ對シテ其ノ記入アル公文ハ接受スルモ差支ナケレトモ帝國ノ稱ヲ記スル公文ハ返附スヘキ旨ヲ訓令セリ又支那政府ハ我カ 天皇陛下御即位奉祝ノ爲農商部總長周自齊ヲ特派大使トシテ本邦ニ派遣セントスル計畫カ豫テヨリ存シ大正五年一月下旬意々實行セントシタルニ付其ノ後帝制問題漸ク困難ヲ加ヘ來レルニ際シテ右特使ハ單ニ奉祝ノミニ非ス寧ロ帝制問題解決ヲ主眼トシ日本カ該使節ヲ受ケルハ暗ニ帝制ヲ承認スルモノナリトシ甚シキニ至リテハ或種利權ヲ提供シテ之ト交換的ニ帝國ノ同意ヲ得ントスルモノナリトノ風説行ハレ皆ニ帝國政府ノ迷惑トスルノミナラス又周特使ノ身邊亦甚ク危險ナルモノアリ帝國政府ハ速ニ帝室ノ御都合ナル表面ノ理由ヲ付シテ其ノ

渡來ヲ拒絕スルニ決シ一月十六日在支日置公使ヨリ支那政府ニ申入レシメタリ

一月中旬ニ至ルヤ支那政府ハ愈々數日中ニ即位期日公布ノ申令ヲ發表スヘシトノ風説アリシカハ在支公使館高尾書記官曹外交次長ニ面會ノ節其ノ真偽ヲ問合セタルニ「申令發表云々ノ風説ハ全然無根ナレトモ此上帝制ノ實行ヲ延期スルノ辭柄ナク十二月十五日關係五國ノ通告ハ暫ク形勢ヲ注視スヘシト云フニ在リテ期日ニ付テハ石井大臣モ確答セラレサルニ付最早實行ニ着手スルモ差支ナカルヘシト思考スルカ如何ノモノニヤ」ト述ヘタリ

日置公使ノ觀察スル所ニ依レハ支那側ハ帝國政府ノ意向ヲ無視シテ帝制實施ヲ斷行セントスルノ決心モナク只管五國殊ニ日本政府ノ態度ヲ突留ムルニ腐心セルカ如ク此ノ際一日モ速カニ帝國政府ノ意向ヲ表明スルニ非レハ支那ハ遂ニ帝制實現ヲ餘儀ナクセラルルニ至ル虞アリタリ

一月中旬佛國首相兼外相「ブリアン」英國訪問中帝制問題ニ關シ英國外相ト協議シ若シ支那政府カ二月上旬愈々帝制宣布ヲ爲ス場合ニハ聯合國ハ他國ト同時ニ承認ヲ與ヘタシトノ意見ニ一致シ在本邦兩國大使ヨリ聯合國大使ト共ニ石井大臣ニ協議スヘキ旨電訓シタレトモ恰モ支那政府ニ於テ延期ヲ決定シタル爲兩國大使ヨリハ其ノ後何等申出ナシ

一月二十日「グレー」外相ハ井上大使ノ來訪ヲ求メ先ツ佛國首相一行ノ來英ニ言及シ「英佛當局

會見ノ結果外交上軍事上ノ諸問題ニ關シ双方ノ間全然意見ノ一致ヲ見タリ」トテ各種ノ會談ノ結

果ヲ述ヘタル後「此ノ外佛國首相ヨリ進テ持出シタル問題アリ即チ支那帝制承認ノ件ナリ」トテ

「ブリアン」氏ハ佛國側ノ消息ニ據レハ支那ハ二月上旬ヲ以テ愈々帝制宣布ヲ行フトノ事ニテ其場合ニハ他國ハ何レモ直チニ之ニ承認ヲ與フル模様ナルカ聯合國側ノミ其ノ承認ヲ拒絕スルコトハ聯合國側ノ不利ト思考スルニ付尠クモ他國ト同時ニ承認ノコトニ自分（「グレー」外相）ノ同意ヲ得タシトノ事ニ付自分ハ同氏ノ所説ハ尤トハ存スルモ我方ハ現ニ本件ニ付日本ト相談中ニアリ英國政府ノ立場トシテハ日本トノ話纏マル迄ハ本件ノ處決ヲ保留シタキ次第ナリ就テハ此際ノ處置トシテ在東京聯合國大使ヲシテ直接石井男ト本件協議ヲ行ハシムル事トシテハ如何ト述ヘタルニ佛國首相モ之ニ贊成シ早速在東京英佛大使ヘ其旨訓令スル事トナリ自分ヨリハ既ニ「グリーン」ヘ發電セリ

尙右ニ付テハ在北京聯合國公使ヲシテ現場ノ形勢及其ノ意見ヲ在東京大使ノ參考迄電報セシムルコトニ之亦「ブリアン」氏ト協議済ニテ既ニ「ジョルダン」公使ヘモ其旨電訓シタリ

ト述ヘタルニ付井上大使ハ恰モ同大使含迄トシテ石井男ヨリ内訓ノ次第アリトテ前頭周特派大使拒絕ノ内情ニ付程良ク内話ノ上

右ニ依リ見レハ帝制ニ對スル日本輿論ノ反感ハ随分有力ノモノノ如ク又今朝路透電報ニ見ヘタル北京城内ニ於ケル爆彈發見云々ノ報ニ見ルモ兎ニ角支那ノ事態ハ不安ノ觀ヲ免レサル此際承認問題ヲ決スル如キハ早計ノ嫌ナキヤ從テ石井男ニ於テモ速急ノ處決ヲ爲スハ困難ナルヘキカト思考ス

ト私見トシテ述ヘタル處「グレー」外相ハ

動亂發生ノ場合ニハ夫迄ナレトモ左モナキ限リ支那ノ帝政宣布ニ際シ聯合國側ニ於テ他國ト共ニ之ニ承認ヲ與フルコトハ依テ以テ袁世凱ノ地位ヲ鞏固ニシ一面袁ニ對スル反對分子ニ對シテハ何等畫策ノ徒勞ナルコトヲ明ラカナラシムルニ足ルヘク即チ鎮壓的ノ效果アルヘシト思考ス

尙萬一石井男ニ於テ前述承認ヲ不可トセラルルニ於テハ詳細ニ其理由ヲ回示セラルル様致シ度其譯ハ本問題ニ付テハ既ニ昨日モ議會ニ於テ質問アリ英國政府ニ於テモ充分議會ヲ満足セシムルニ足ルヘキ理由ノ説明ヲ必要トスル立場ニアルヲ以テナリ

ト語レリ

一方事態ハ益々切迫シ帝國ノ態度決定ハ一日モ忽ニスヘカラサルニ至レリサレハ一月十九日閣議

ニ於テ閣議決定シ越テ二十一日石井大臣ヨリ在本邦支那公使ニ對シ大要左ノ通り開陳セリ

本月五日在本邦支那公使ヨリ二月初旬ニ於テ帝制ヲ實行シタキ處之ニ對シ帝國政府ニ於テ如何ナル意圖ヲ有スルヤ承知シタキ旨申出アリタルニ對シ本大臣ハ暫ク其答ヲ留保スル旨述ヘ置キタルカ本日日置公使ヨリ電稟シ來レル處ニ依レハ支那政府ニ於テハ本問題ニ關シ帝國政府ノ明瞭ナル所存ヲ承知シタキ趣ナルニ付今改メテ本大臣ヨリ申述フヘシ而シテ今述フル所ハ本大臣ノ私見ニアラスシテ帝國政府ノ所見ナルニ付右ニ承知アリタシ抑モ帝國カ他ノ關係諸國ト共ニ支那政府ニ對シ帝政實施延期ノ勸告ヲ爲シタルニ際シ同政府ハ支那ノ國情ヲ最モ明カニスルモノハ支那政府ニシテ外國政府ハ之ヲ詳カニスルコト難カルヘシ支那政府ノ見ル所ヲ以テスレハ國內憂慮スヘキ事斷シテ之ナク同政府ハ責任ヲ以テ國內ノ平和ヲ維持スヘキコトヲ明言セリ然ルニ客年末ニ至リ雲南ニ動亂ヲ發シ同省獨立ノ宣言ヲ見ルニ至レリ今日ニ至ル迄支那政府ハ未ダ之ヲ鎮定スルコト能ハサルモノノ如シ事態此ノ如キ時ニ方リ若シ支那政府ニシテ獨斷勸告ノ趣旨ヲ無視シ國內動亂ノ實情ヲ顧慮セス帝制ヲ實施スルカ如キコトアルニ於テハ帝國政府ハ決シテ之ヲ承認スルコト能ハス今日ニ在テハ在本邦支那公使ハ本大臣ト交渉シ在北京帝國公使ハ外交總長ト交渉スルヲ得ルモ萬一帝國政府ニシテ支那ノ帝制ヲ承認セサル場合ニ立至ルトセハ

兩國ニ於ケル外交機關ハ兩國政府當局者ト正式ノ交渉應酬ヲ爲スコト能ハサルニ至ルヘク其結果恐ルヘキ誤解發生セサルヲ保シ難ク此ノ如キハ兩國ノ最モ避クヘキ所ナリ支那政府ニ於テ慎重考慮スルコト然ルヘシ

右ニ對シ在本邦支那公使ハ「何日頃迄延期セハ可ナルヤ」ヲ尋ネタレハ石井大臣ハ「延期ノ時期ヲ言明スルコト能ハサレトモ此際支那政府ニ於テハ國內動亂ヲ鎮定スルコトカ先決問題ナルヘシ」ト述ヘタリ

尙石井大臣ヨリ在本邦英露兩國大使ニ對シ右ノ趣旨ヲ語リ又在英佛露帝國大使ヲシテ夫々任國政府ニ通告セシメ尙附言シテ「帝國政府ノ有スル報道ニ徵スルニ此際關係國政府ニシテ依然結束ヲ鞏固ニシ其今日迄執リ來リタル方針ヲ維持スルニ於テハ支那政府ハ當分帝制實行ヲ延期スヘシト信スヘキ理由アルニ依リ各任國政府ニ於テモ本問題ニ對スル從來ノ態度ヲ持續シ帝國政府ト同一ノ方針ニ出テテコンコトヲ希望スル」旨ヲ申入レシメタリ尙伊國政府ヘノ申入レノ可否ニ關シテハ英國外務大臣ノ意向ニ一任スルコトトセリ又石井大臣ノ陸公使ニ對スル申入レハ更ニ日置公使ヨリ支那當局ヘモ申入ルル様電訓セリ

然ルニ同二十一日曹次長ハ在支公使館高尾書記官ノ來訪ヲ求メ外交總長ヨリ日置公使ヘノ傳言ト

シテ支那政府ニテハ陽曆二月上旬ヲ以テ帝制ヲ實行スルコトニ決定シ居リタルモ大總統ヨリ雲南事件ノ勃發及討伐軍カ未タ雲南ニ到達セサルノ事情等ニ順ミ右決定ヲ取消スヘキ旨命令アリタルニ付政府ニ於テ之ヲ取消スコトニ確定シタル旨公然通知シ右至急帝國政府ニ傳達アリタキ旨ヲ申述ヘ尙各關係國公使ニモ夫々同様ノ通知ヲ爲シタリ

此日曹汝霖ハ坂西大佐ニ語リテ曰ク「大典施行期日ヲ延期スルニ至レル動機ハ日支親善ノ實ヲ擧ケ度キ希望ニ職由スルモノナリト

支那側ニ於テ斯ク急遽處決ヲ爲スニ至レル内情ニ付日置公使ノ案スル所ニ依レハ帝國政府其ノ後ノ態度甚タ不可解ニシテ何トナク底氣味甚ク感シ居ル矢先キ我國ニ於ケル民論漸ク險惡ノ度ヲ加ヘ加之大隈首相爆彈事件周大使出發差止上海押留中ノ軍艦隔田外二隻ノ修理青木中將ノ渡支等各種ノ事件續發シ或ハ此ノ機會ニ乘シ日本政府ヨリ何等高壓的行動ニ出ツルヤテ成レ荷モ口實ヲ與ヘサランコトニ焦慮シタルモノモアルヘク同時ニ又佛國公使ハ雲南事件ヲ以テ第三警告ノ理由トナシ得ヘシトノ意見ヲ抱キ米國公使モ亦無理ニ帝制ヲ實行スルヨリハ寧ロ依然共和制ヲ持續スル方得策ナルヘシトノ意見ヲ有セルニ依リ自ラ支那側ニ反響セルナルヘク又國內ノ狀勢ヲ見レニ雲南ノ動亂モ鎮定容易ナラス暗流次第ニ各地ニ瀰漫シ人心不安ニ驅ラレ財政モ窮乏ヲ告ケツツアル等諸般ノ事情相俟テ衰世凱ヲ始メ當路者ノ心理ニ壓迫ヲ加ヘタルカ如ク而シテ萬一日本ヨリ單獨或ハ協同ニテ高壓的提議ヲ受ケンカ途ニ聽從セサルヘカラサルニ至ルヘク寧ロ優先ヲ制シ自ラ延期ニ決定スルヲ賢ナリトシタルモノニ非ルヘキカト云フニ在リ前記支那側處決ノ報ハ恰モ帝國政府ノ態度通告ノ電訓ト行達ニ到達シタリサレハ在支公使ニ於テハ右通告ノ必要ナシト思考シ差控ヘ居ルノ虞ナキニ非ス然ルニ帝國政府ハ之ヲ宣明スルノ必要ヲ認メタルヲ以テ在支公使及在英佛露大使ニ對シ右夫々任國政府ニ申入方爲念電訓セリ

井上大使ハ一月二十四日英國外務大臣ヲ訪問シ帝國政府ノ態度及支那政府ノ處決ニ就キ申述ヘタルニ外務大臣ハ承認問題差向キ立消トナリタルニ安堵ノ意ヲ表シ尙「獨逸カ此機ニ乘シ支那側ノ欸心ヲ購ハントシタルハ失敗ニ歸シタレハ必スヤ不快ヲ感シ居ルコトナルヘシ」ト語り此ノ際聯合國側ニ於テ支那側ノ延期決定ノ通牒ハ満足ヲ以テ受領セル旨ヲ支那側ニ對シ回答シ置クコト然ルヘント思考スルニ付石井大臣ノ意向ヲ尋ネラレ度キ旨ヲ述ヘタリ

右ノ所言ハ一應尤モナレトモ支那政府ハ曩ニ十二月十五日ノ申入レヲ曲解シテ內政ニ利用シ關係各國政府ノ意向ハ極メテ緩和ニシテ支那ノ回答ニ同意シタルカ如クニ言ヒ觸ラシタル先例モアルニ付若シ今回ノ通牒ニ對シ満足ノ意ヲ表明セハ同政府ニ於テハ再ヒ自家ニ都合好キ様解釋ヲ下シ內政ニ利用スルコトナキヲ保シ難キニ付今回ノ支那政府處決ノ通告ニ對シ帝國政府ハ何等ノ回答ヲ與ヘス只今後ニ於ケル袁政府ノ態度ト時局ノ發展ニ就キ注視ヲ怠ラサルヘキ意向ナル旨ヲ英國政府ニ回答シタリ又日置公使ハ在支英國公使ノ意見ヲ尋ネタルニ此ノ際何等回答ノ要ナカルヘキ旨ヲ答ヘタリ

尙日置公使ハ一月二十四日ニ在佛田村代理大使ハ一月二十五日夫々帝國政府ノ態度通告ニ關スル訓令ヲ執行シタリ

伊國政府ヘ通告ノ件ニ關シ井上大使ヨリ英國外務大臣ノ意向ヲ問合セタルニ今日問題ノ主眼消滅シタル場合改メテ右通告ヲナスノ必要ナカルヘシト思考スル旨ヲ答ヘタリ

一方雲南ノ動亂ハ漸次其ノ勢ヲ加ヘ四川ニ入りテ北軍ヲ驅逐シ叙州瀘州ヲ陷レ貴州亦雲南ニ加擔シテ獨立ヲ宣言シ兵ヲ湖南ニ進メ其ノ他各地ニ小動亂アリ又袁ノ幕下ニシテ窃ニ北京ヲ去リ帝制反對ノ聲ヲ漏ラスモノ尠カラス袁ノ信頼セル各省將軍巡按使等モ首鼠兩端ヲ持スル者漸ク増加シ就中廣西將軍陸榮廷ノ如キハ何時獨立ヲ宣言スヘキヤ測リ知ルヘカラサル有様ニシテ要之大勢甚タ袁政府ニ不利ナルハ爭フヘカラサル情態ニ陥リシカハ二月二十三日袁世凱ハ遂ニ大總統申令ヲ發布シ帝制延期ノ決意ヲ聲明セサルヘカラサルニ至レリ

二月五日倫敦「アルバート、ホール」ニ於テ英國兩陛下御臨幸ノ上英國並ニ聯合國軍戰死者ノ爲鎮魂祭アリ其ノ際皇帝陛下ニハ我カ井上大使並ニ聯合國各大使ニ謁ヲ賜リ特ニ井上大使ニ對シテハ左ノ意味ノ御懇話アリタリ

袁總統カ國家ノ爲有利ナリトテ共和政府ヲ樹立シ爾來未タ四五年ヲ出テサル今日帝制ノ實現ヲ圖ラントシタルハ朕ノ了解ニ苦ム所ナリ之カ爲國內ニ反袁ノ氣勢ヲ高メ騒亂ヲ惹起セシメタルハ無理カラサル處ナリ併シ帝制愈々宣布セラレ獨逸側之ヲ承認スルコトトモナランカ英國政府

トシテハ其ノ承認方彼等ニ後ルカ如キコトハ甚タ忍ビ難キ所ナリ

依テ井上大使ハ最近ノ報告ニ依レハ幸ヒ支那政府ハ帝制實現ヲ取消シタル次第ナルヲ以テ承認問題モ差當リ起ルカ如キコトアラサルヘシト思考スル旨御答ヘシタリ

三月十三日在英本多參事官カ「アルストン」ト會談ノ際「支那ノ時局ニ付何等新消息ナキヤ」ト尋ネタルニ同人ハ三月十(脱)日「ジョルダン」公使ヨリノ「官軍ハ彼州ニ於テ叛徒ヲ擊破シ同地ヲ回復シ其別動隊ハ雲南省境界内ニ進入セリトノ報アリ又雲南府ヨリハ叛徒首領株ニ對シ同地方有力者ノ側ニ於テ陰謀進行中ナルヤノ報道アリ」トノ意味ノ電報ヲ讀聞カセ「最近ノ消息トセハ右ノミニテ其以前ニモ又以後ニモ何等ノ情報ニ接セス」ト告ケ其ノ口吻ニ依ルモ時局ヲ重大視シ居ルカ如キ様子更ニ見ヘサリキ

其ノ後三月二十三日井上大使「グレイ」外相ト會見セル處同外相ハ「支那ノ時局ニ關シ數日前「ジョルダン」公使ヨリ電報接到セルカ事態事口重大ヲ加ヘツツアルカ如シ」ト語リタルニ付井上大使ハ最近ノ發展ニ付テハ未タ政府ヨリ何等情報ニ接シ居ラサルモ數日來當地新聞ニ報セララルカ如ク廣西省モ獨立ヲ宣言シ湖南廣東スラ同様ノ模様アリトセハ或ハ今後南方全體ノ蜂起トナリ南北間ノ内亂トナルカ如キ危機ヲ醸成センモ知ルヘカラスト憂惧スル旨ヲ述ヘタルニ「グレイ」外相

ハ「如何ニモ或ハ右様ノ虞モアルヘシ就テハ此ノ形勢ニ對シ日本政府ノ所見如何ヲ承知スルヲ得ハ自分ノ仕合トスル所ナリ」ト云ヘル趣報告アリタルヲ以テ石井外相ハ三月二十七日電報ヲ以テ井上大使ヲシテ支那ノ時局ニ對スル帝國政府ノ所見左ノ通り極メテ内密ノ含トシテ「グレイ」外相ニ傳達セシメタリ

支那現下ノ形勢ハ「グレイ」氏所言ノ通極メテ重大ニシテ此ノ事態ハ恐ラク何人ヲ以テスルモ差當リ收拾ノ途ナシト考フ袁世凱ハ帝制取消ヲ宣明シタリト雖モ之ニヨリ人心緩和ニ多大ノ效果アルヘキヤ疑問ナリ或ハ結局袁世凱ハ大統領ノ地位ヲモ擲タサルヘカラサルニ至ルコトナキヲ保セス假リニ此ノ如キ場合アリトセハ何人カ時局收拾ノ任ニ當リ得ヘキヤハ速斷シ難キモ四億ノ支那人中袁ノ他ニ人ナシトハ思惟スル能ハサルノミナラス現下ノ形勢ニ於テハ支那人心全ク衰ヲ離レタルカ故ニ支那民心ノ此ノ傾向ニ逆ヒテ袁ニ援助ヲ與ヘ又ハ反袁派ノ氣勢ヲ殺カムコトヲ努ムルカ如キハ却テ時局收拾ヲ速ムル所以ニ非スト思考セラル帝國政府ニ於テハ時局ノ推移ヲ注視シツツアルカ今後ノ發展如何ニ依リ必要ノ場合ニ英國政府ヘ内協議ニ及フヘシ井上大使ハ三月三十一日「グレイ」外相ト會見シ右訓令ヲ傳達シタル處同外相ハ右帝國政府ノ留意ナキ内報ハ同外相ノ深ク多トスル所ナル旨ヲ述ヘタル後

實ハ支那ノ形勢追々險惡ノ徵ヲ呈スルト同時ニ當國一般ノ神經モ近來刺戟ヲ加ヘ居レルカ最近
 二個ノ相矛盾セル風説行ハレ居リ自分ノ耳ニモ達セリ(一)ハ日本ハ新ニ支那ニ對シ要求ヲ提出
 シ英國ハ之ヲ妨害中ナリトノ噂ニシテ(二)ハ支那ニ於ケル日本ノ利益ノ卓越ヲ基礎トシテ日英
 兩政府間ニ現ニ商議進行中ナリトノ説ニテ現ニ某議員ノ如キ特ニ自分ヲ來訪質問セルニ付斷然
 打消シ置キタルカ當地駐在外交官ヨリモ同様質問ヲ受ケタリ右様ノ次第ニテ支那ノ時局ニ付テ
 ハ其内議會ニモ質問起ルヘキニ付其際ニハ英國人ノ生命財產ニ危害ナキ限り支那ノ内治ニハ何
 等干涉セサル考ヘナリト答辯スル積リナルカ若シ之ニ聯關シテ他ノ質問出ラタル時ニハ萬一ノ
 場合居留民財產保護ノ措置方ニ付テハ日本政府ト交渉中ナリト附加ヘ言明シ差支ナカルヘキ
 ヤ

ト問ヒタルニ付石井大使ハ「其意味ナラハ差支ナカルヘシ」ト答ヘ置キタリ

四月六日井上大使來電ニ依レハ「グレー」外相ハ支那問題ニ言及シ

「ジョルダン」公使ヨリハ其後別ニ電報ノ次第ナキモ一般殊ニ支那ニ關係アル經濟界ノ方面ニハ
 追々不安ノ念高マリツツアリ幸ヒ今日迄ハ英國人ノ生命財產ニハ何等影響及ヒ居ラサルモ而カ
 モ目下ノ混沌不安ノ事態ハ何トカ收拾ノ途ナキモノニヤ英國ハ素ヨリ干涉ノ意ナク又何等提議

スル所アラントスル次第ニアラサルモ此際南北ノ妥協ニ依リ時局解決ヲ見ルコトハ出來間敷キ
 モノナリヤ妥協ノ方法トシテハ例ヘハ袁世凱ヲシテ南方ノ満足スヘキ憲法制定又ハ政府設立ヲ
 保障セシメ以テ南方ノ折合ヲ見ルカ如キコトハ不可能ナルヘキヤ
 ト問ヒタルニ付井上大使ハ

既ニ新聞電報ニテ御承知ノ通南方側ハ少クトモ袁ノ退位ヲ見サル限りハ承知セサル意向ニ見ユ
 ルノミナラス近着ノ本邦新聞ニ依レハ袁ニ對スル日本公衆ノ反感却々強盛ノ模様ニ付御話ノ如
 キ方法ハ實現六ヶ敷カルヘシト思考ス

ト述ヘタルニ「グレー」外相ハ「若シ袁ニシテ退位セサルヘカラストセハ何人カ之ニ代ルヘキモ
 ノナリヤ」ト問ヒ更ニ「段々御話ノ如キ事情ナリトセハ袁世凱ハ到底退位ノ已ムナキニ至ラン露
 佛等ヨリ何等質問ニ接シ居ラサルモ其内我方ノ意向問合セ來ルヘキニ付豫メ我態度ヲ定ムルノ用
 意トシテ時局收拾ニ付石井男ノ所見承知シタキ考ナリ」ト述ヘタリ

石井外相ハ前記「グレー」外相ノ希望ニ對シ四月八日井上大使宛電報ヲ以テ英國外相ノ問ニ對シ
 井上大使ノ與ヘタル説明ハ正シク帝國政府ノ意向ヲ顯ハスモノナルコトヲ同外相ニ告ケ尙左ノ通
 リ附言セシメタリ

支那ノ時局ハ益々進展シテ袁世凱ハ漸ク之ヲ鎮定スルノ實力無キヲ示シツツアルモノノ如シ又南方一帯ノ意向ハ要スルニ袁世凱ハ此時局ヲ激成セル全責任ヲ負ヒ共ニ政界ヨリ隱退セシムヘク國會ヲ召集シ憲法ヲ制定シ新大統領選定迄ノ間ハ黎元洪ヲシテ國務ヲ處理セシムルニ略一致スルモノノ如シ支那ノ大勢既ニ如斯シトスレハ外國人ノ生命財産ニ危害ヲ及ボササル限リ干涉ヲ避ケテ大勢ノ進行ニ任スヲ以テ穩當ナル政策ト思考ス

四月十一日在本邦支那公使ハ石井大臣ヲ來訪シ左ノ通り本國政府電調寫ヲ手交シ次ヲ右ニ對スル日本政府ノ意向ヲ確メ且歸國スヘキ電調ニ接シタル趣ヲ附言セルカ同公使ハ之ヲ中央政府ニ致シ更ニ中央政府ノ回答ヲ日本政府ニ齎シ度キ希望ナル趣申述ヘタルニ付石井大臣ハ追テ何分ノ義同答スヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ

大正五年四月十一日在本邦支那公使持參支那政府電調譯文

竊ニ日本ハ四圍ト共ニ勸告セラレタルカ政府ハ各省カ一致贊同シタル故ニ毫モ疑念ヲ挾マス以テ今日アルヲ致シタルハ甚ダ遺憾トスル所ナリ然レトモ日本政府ニ信頼スルノ意ハ此後益々篤ク中日邦交前途ノ保護ト爲スニ足ル會見ノ時ハ此意ヲ以テ告ケラルヘシ
又總統ハ年齡高ク本來政權ニ堪々タルノ意ナシ然レトモ眞心ヲ以テ各方面ヲ考察スルニ實ニ尙ホ其任ヲ繼承シ難局ヲ維持スルノ人ナキカ故ニ總統ハ國ヲ救ヒ亂ヲ免レシメンカ爲メ勉メテ其難キヲ爲ササル能ハス友邦モ亦當ニ此意ヲ諒トシ共ニ

東亞ノ平和ヲ維持スル爲メ袁大總統ニ對シ好意友誼的扶助ヲ與ヘラルヘク中國政府モ當ニ切ニ兩國親善提携ノ途ヲ講スヘシ

石井外相ハ四月十七日在本邦支那公使ヲ召致シ去十一日同公使カ取次キタル支那政府ノ申出ニ對シ左ノ通り回答シタリ

日支親善ハ帝國政府カ夙ニ唱道シテ切ニ其實現ヲ希フ所ナリ唯自今支那ノ時局ニ際シ帝國政府ニ於テ袁大總統ニ援助ヲ約スルカ加キハ内外ニ重大ナル懸惑ヲ招キ日支親善ノ目的ヲ達スル所以ニ非スト信スルヲ以テ遺憾ナカラ之ヲ避ケルノ外ナシ

右終リテ更ニ石井大臣ヨリ支那公使ニ向ヒ大要左ノ如ク述ヘタリ

其後新聞電報及其他ノ筋ヨリ得タル報道ニ依レハ袁大總統ハ支那動亂ノ鎮定ヲ計ルカ爲政界ヨリ引退スルニ決セラレタリトイフ眞偽ハモトヨリ知ル能ハサルモ若此報道ニシテ果シテ根據アルモノトスレハ貴公使歸國ノ上ハ袁大總統ニ向ツテ「帝國政府カ昨年以來支那政府ニ向ヒ帝政延期ノ勸告ヲナシタルハ支那ニ於ケル動亂ヲ未發ニ防カントスル友厚ノ意思ニ出タルモノニシテモトヨリ袁大總統ニ對シ毫モ不快ノ念ヲ抱ケルカ爲ニハ非ス袁大總統ニシテ果シテ傳聞スルカ如ク自國ノ動亂ヲ救ハンカ爲一身ノ榮譽ヲ犧牲トスルニ決セラレタルモノトスレハ帝國政府ハ袁大總統ノ今後ノ幸福ト健康トヲ祈ルモノナリ從テ袁大總統ニシテ引退後暫ク日本ニ歳月ヲ送ラントスルノ意思アラハ袁君ハ勿論其家族等ニ至ル迄日本ニ於ケル滞在ヲ出來得ル限リ安全且愉快ニ爲サンカ爲充分保護ヲ怠ラサルノ厚意ヲ有スルニツキ此義承知セラレタリト傳言セラレタリ尙聞ク所ニ由レハ袁大總統ハ引退後英國又ハ米國ニ餘生ヲ送ラントストノコトナルカ御承知ノ如ク亞細亞人カ歐米ニ於テ愉快ナル生活ヲ爲スコト事實不可能ノコトニシテ矢張り同文同種ノ日本ニ滞在セラレルコト日常衣食住ノ上ニ如何計

便宜ニシテ愉快ナルヘキカ故ニ予ハ袁君カダトヘ英米等ニ遊カレルトスルモ日ナラスシテ我日本ニ來ラレヘキヲ信シテ疑ハス其場合ニ於テハ帝國政府ハ前陳ノ原意ヲ有スルモノナルコト記憶セラレタキヲ希望シテ右傳言ヲ御依頼スル次第ナリ

五月三十一日在本邦英國大使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ石井外相ヲ訪問シ支那ニ於ケル時局ヲ收拾シ其ノ統一ヲ維持スルノ方法ヲ講スルコトハ英國政府ノ唯一ノ目的ニシテ之カ爲在北京日英兩國公使ヲシテ時々意見ノ交換ヲ爲シ其ノ結果ヲ本國政府ニ報告セシムルコトハ極メテ必要ナルコトト思考スル旨ノ覺書ヲ提出シタリ

第六節 袁世凱ノ死去並黎元洪ノ大總統就任

此ノ間南北ノ戦局ハ四川竝ニ湖南方面ニ於テ互ニ勝敗アリ北軍側ノ討伐涉々シク進行セス南方各省ニ於テ反袁獨立ノ氣勢高マリ袁總統ハ遂ニ三月二十三日ノ政府公報ヲ以テ己ヲ罪シ帝制ヲ取消スノ申令ヲ發シ全國各方面ノ推戴書ヲ參政院ニ返付スルト同時ニ二十三日ヨリ代行立法院臨時會ヲ召集シ更ニ翌二十四日ノ公報ヲ以テ洪憲年號ノ取消ヲ宣布シ一面代行立法院タル參政院ハ三月二十五日開議ノ末帝制ノ取消ヲ議スルト同時ニ各省區ノ推戴書ハ之ヲ各該省區ニ返付消毀セシメ

帝制施行ノ爲效力ヲ失ヒタル法令ノ效力回復ヲ議決シ袁總統ハ右ノ決議ノ趣ヲ宣布セリ次テ四月二日代行立法院國民總代表ノ名義及其ノ決定セル君主國體ヲ撤銷スルニ至レリ

他方南方側ノ氣勢ハ四月ニ入ルト共ニ其ノ勢ヲ増シ廣東廣西各省相次テ獨立ヲ宣シ江蘇省其ノ他各省諸縣中獨立ヲ宣スルモノアリ五月ニ至リテ南方獨立四省ハ其ノ假政府タル中華民國軍務院ヲ組織セリ又山東陝西地方ニ於テモ革命事變アリ五月二十二日四川將軍陳宦亦獨立ヲ宣言シテ南方ニ荷擔シ二十九日湯壽潜湖南ノ獨立ヲ宣言セリ

然ルニ袁世凱ハ健康勝レス豫テ佛國醫師ノ治療ヲ受ケツツアリシカ六月五日夜危篤ニ陥リ何時絶命スルヤモ計リ難ク總統府ハ大混雜ノ模様ニテ其ノ近親者中ニハ動亂發生ヲ豫想シ公使館區域ヘ逃ケ支度ヲ爲シツツアルヤノ報ヲ傳フルモノアリ

六月六日朝英佛露白伊各國公使ハ在北京本邦公使館ニ參集シ袁世凱死去ノ場合ニ處スヘキ善後策ニ付協議ノ上應急ノ措置ニ付申合セテ爲シタル結果六國代表者打揃ヒテ段祺瑞ヲ往訪シ愈々袁死去ノ場合段ハ如何ナル措置ニ出ツル決心ナルヤヲ突止メ且六國代表者ノ意見トシテ黎元洪ヲ大總統ニ就任セシムヘキヲ正當ト思料スルニ付右ニ依リ時局ニ處スヘキ最善ノ手段ヲ講スルコトヲ切望スル旨申入ルルコトニ決シタリ(尙右會議中袁世凱死去ノ内報ニ接セリ)六國代表者ハ同日午

後一時段國務總理並ニ曹外交總長ト會見シ先ツ英國公使ハ一同ヲ代表シテ袁總統逝去ノ事實ナルヤ否ヤヲ問ヒタルニ段ハ本日午前十時死去セリト答ヘタル上「段ハ國務總理タルト同時ニ陸軍總長ヲ兼ネ當面ノ責任者タルヲ以テ秩序ノ維持及各國民ノ保護ニ關シテハ既ニ適當ノ手配ヲ爲シ置キタレハ先ツ心配無カルヘク又袁ノ死後モ段ハ引續キ國務總理トシテ留任シ大總統ノ後繼者ハ約法ノ規定ニ依リ黎副總統當然之ニ任スル筈ニテ成ルヘク速ニ公式發表スル積ナリ」ト述ヘタルニ付英國公使ハ我々同僚ハ國務總理ノ陳述ニ對シ極メテ満足ノ意ヲ表スルト共ニ今後後繼者タル黎副總統ニ對シ出來得ル丈「モーラル、サポート」ヲ與フル考ナル旨ヲ聲明シテ一同引取レリ

袁大總統ノ死去ニ依リ豫テ副總統ノ地位ニアリシ黎元洪ハ六月七日大總統ニ就任セリ

袁世凱死去ノ報ニ接スルヤ帝國政府ハ六月七日在支日置公使ニ訓電ヲ發シテ黎ニ對シ大總統就任後ハ先ツ南方側ト妥協ヲ遂ケテ動亂ノ禍根ヲ除キテ國內平和恢復ノ要ヲ勸告シ併セテ日支親善ヲ政策トスル新政府ヲ任命スルニ於テハ帝國政府ハ之ニ對シ直接間接ノ援助ヲ與フヘキ旨ヲ通告セシムルト共ニ在上海有吉總領事ヲシテ張繼、在南京高尾領事ヲシテ馮國璋、在廣東太田領事ヲシテ岑春煊、在雲南堀領事ヲシテ唐繼堯等各派首領ニ對シ夫々黎元洪大總統就任後新政府ニシテ國內秩序ノ回復及日支親善ノ確立ヲ期圖スルノ誠意ヲ有スルモノト認メラルルニ於テハ帝國政府ハ之

ヲ支持シテ時局ノ收拾ヲ遂ケシメ度キ希望ヲ有スルヲ以テ右ノ趣旨ヲ諒トシ大局ノ爲和衷交讓ノ精神ヲ以テ黎元洪ヲ援助シ時局ノ收拾ニ努力セラレムコトヲ望ム旨ヲ傳達セシメ次テ日置公使ヲシテ段祺瑞ニ對シテモ同様帝國政府ノ意思ヲ傳ヘテ黎ヲ援ケテ時局收拾方ヲ勸告セシムル處アリ又他方六月十二日石井大臣ハ井上大使ニ對シ電報ヲ以テ左ノ通り英國政府ニ内告方訓令シタリ

帝國政府ハ夙ニ支那時局ノ一日モ早ク收拾セラレムコトヲ切望セルモノナルヲ以テ袁世凱逝去ノ報ニ接スルヤ之ニ伴フ不穩ノ情勢ニ顧ミ支那政界有力者ノ各方面ニ對シ緩和的勢力ヲ用フルノ緊急必要ナルヲ感シ居リタル折柄支那側ヨリ意見ヲ求メラレタルヲ機トシ一方黎ニ對シテハ先ツ國中ノ異分子ヲ融和統一スルニ努メ南方側ノ主張ニ對シテハ慎重ノ考量ヲ加ヘ平和恢復ニ盡瘁セラレヘキヲ告ケ他方南方側首領ニ對シテハ時局ハ主義上南方側ノ希望通りニナリタルモノナレハ大局ノ爲和衷交讓ノ精神ヲ以テ事ニ當ルノ至當ナルヘキ趣ヲ德憑シ且又長江筋ノ重鎮タル馮國璋ニ對シテハ帝國政府カ新政府ニ多大ノ望ヲ屬スルハ何等私心ヲ抱クカ爲ニ非ス專心大局ノ利害ヲ顧念スルニ出ルモノナルニ付其ノ趣ヲ諒トシ馮氏ニ於テモ南北ヲ調停シ和衷協同ノ精神ヲ發揮セムコト帝國政府ノ切ニ希望スルトコロナル旨ヲ傳ヘシメ置キタリ

右電訓ニ依リ井上大使ハ六月十三日「グレー」外相ニ會見シ訓令ノ英譯文ヲ讀聞セタルニ同外相

ハ「支那ノ事態ノ一日モ速ニ收拾セラレンコトハ英國政府モ齊シク切望スル所ニシテ幸ニ日本政府ノ執ラレタル措置ノ結果トシテ右時局收拾ノ時機ヲ早ムルヲ得ハ最モ仕合ナリ」ト述ヘタリ
然ルニ六月十二日在本邦英國大使來訪大要左ノ如キ英國外務大臣電訓ヲ示シ石井大臣ノ意見ヲ求メタリ

本大臣ハ日本大使ニ對シ黎元洪ノ就任ニ關シ支那公使ヨリ通牒アリタル旨ヲ談話スルト共ニ約法ニ依リ大統領選舉セラルル迄副大統領其職ヲ行フコトハ適法且唯一ノ措置ナルヘク支那公使カ本大臣ノ援助ヲ求メタルニ對シテハ支那ノ平和秩序ヲ増進スル政府ノ施設ニ對シ外國公使館カ正當ニ與ヘ得ヘキ援助ハ之ヲ吝ムモノニ非ル旨ヲ答ヘタル趣ヲ語リ但シ右ハ條件付ノ約束ニシテ新政府ヲ單ニ臨時政府トシテ承認センコトヲ求メラレタルニ過キサレモノト解シ居ル次第ナリト述ヘ置キタリ尤モ本大臣ノ真意ハ新政府ニ對シ一切ノ援助ヲ與フルコトヲ躊躇スルモノニ非スト雖此際進テ更ニ具體的言明ヲ爲スニ先チ時局ニ對スル日本外務大臣ノ意見ヲ承知センコトヲ欲ス

右英國大使ノ申出ニ對シ石井大臣ハ前頭六月十二日井上大使宛電報ノ趣旨ヲ以テ應酬セリ

第十六章 支那參戰問題

第一節 概 說

大正四年（一九一五年）十一月十二日附覺書ヲ以テ英國政府ヨリ日本政府ニ對シ「露國政府ニ對シ銃其他諸般ノ武器ノ供給增加方ヲ英國ハ支那政府ニ提議セントスルモノナルカ右提議ヲハ日本國政府カ支持セラレム事ヲ希望ス支那人ノ對露武器供給ハ必然的ニ獨逸ノ對支抗議ヲ惹起シ終ニ支那ヲシテ對獨戰爭ノ渦中ニ曳キ入ルルコトナルヘキモ英國政府ハ之カ爲ニ歐洲戰爭ノ一般方略ニ精神上及物質上重大ナル結果ヲ生スヘキヲ確信スル」旨提議アリ

之ニ對シ帝國政府側ニ於テハ十一月十二日在英井上大使ハ「グレー」卿ニ對シ十四日在英本多參事官ハ「ラングレー」次官ニ對シ十五日石井外相ハ在本邦「グリーン」大使ニ對シ二十日在英井上大使ハ外相臨時代理「クルー」卿ニ對シ夫々英國側提案理由ヲ反駁シテ支那ヲ戰爭渦中ニ投セシムルハ日本ノ喜ハサル處ナル旨申述フル處アリタリ

十一月二十二日在本邦英佛露三國大使石井大臣ヲ訪問三國政府ヨリ受ケタル訓令ヲ「レジュメ」シ

タル書面ヲ提出セリ其ノ要旨ハ支那ニ於ケル獨逸ノ聯合國側ニ對スル陰謀ヲ防遏スルノ必要ヲ理由トシ今直ニ支那ヲシテ獨逸ニ對シ國交斷絶ヲ求メントスルモノナリシヲ以テ石井外相ハ「右書面ノ要領ハ當初英國側ヨリ申出アリタル趣旨即先以テ支那政府ニ對シ國境地方治安ニ關シ兵器供給ノ爲手加減ヲ行フ事及兵器廠ヲ擴張シテ聯合側ニ武器ヲ供給セラレ度シト要求スヘシトノ趣旨ト相違スル」旨指摘シ最初ノ考案ヲ變更セル次第ナルヤ質問スル處アリ

十一月二十七日英國政府ハ當時行ハレタル英支同盟說ノ事實無根ナルヲ辯明スルト共ニ英國ハ日本ト協議ノ上ナラテハ何等支那ト政治的性質ヲ有スル商議ヲ開始スルノ意圖ナキ旨聲明セリ

十一月二十九日「グレイ」卿ハ日本ニ緊切ノ關係アル支那引入問題ヲ日本ノ意思ニ拘ラス實現ヲ企ツルコト無カルヘキヲ確言シ井上大使ヨリハ「日本側ノ見地ヨリ云ヘハ支那ヲ戰爭ニ引入ルルヨリハ寧ロ支那ヲ押ヘテ之ヲ動かサシメタル様致シ度希望ナリ」ト述ヘタリ

十二月三日閣議ニ於テ本件ニ關シ(一)支那カ中立態度ヲ捨テ獨逸ト絶ツハ面白カラサルニ付帝國政府ハ斯ル共同勸告ニハ反對スルモ(二)獨逸ノ聯合側ニ對スル陰謀根絶ノ爲支那ニ中立ノ勵行ヲ迫ルコトハ必要ト認ム(三)武器改良製造力増加ノ爲支那ニ意アラハ帝國ハ實行補助ヲ擔任スヘキ旨帝國政府方針決定アリタリ

十二月六日石井大臣ヨリ英露佛三國大使ニ對シ對聯合國側兵器供給ノ問題モ又在支獨逸人追放ノ問題モ帝國政府ノ喜ンテ應セムトスル處ナルカ支那ヲシテ獨逸ト國交ヲ斷絶セシムルノ一事ハ支那ノ平和確保ヲ以テ不動ノ方針トスル帝國トシテ不贊成ナル旨記載セル覺書ヲ交付セリ

十二月二十八日英國政府ハ先ツ專管居留地ヨリ獨逸人ヲ追放スヘキヤノ考案ヲモ有スルニ付其ノ場合ニハ日本ノ協同ヲモ希望スル旨英當局ヨリ在英大使ニ内話アリ我方ニ於テハ在支各領事ヲシテ其ノ任地ニ於ケル獨逸人ノ數陰謀ノ有無等ニ關シ報告セシメ其ノ結果ヲ大正五年(一九一六年)二月三國大使ノ參考ニ供セルカ之ヨリ先一月中旬英當局ハ結局本案ハ實行シ得ヘカラサルモノト考ヘ居ル旨述ヘタリ

又在支獨逸人ノ陰謀ノ事實ニ關シ我方ヨリ英國政府ニ情報ノ供給ヲ求ムル等ノ事アリタルモ結局我國ノ反對的態度ニ依リ支那引入問題ハ停頓ノ形トナレリ

然ルニ大正六年(一九一七年)二月三日米國ハ獨逸潛水艇政策ニ依リ終ニ米獨國交ノ斷絶ヲ宣告シ五日支那政府ニ對シ獨支國交斷絶ヲ德通シタル結果支那ハ獨逸カ中立國ニ致セル潛航艇政策ニ關スル通牒ニ反省ヲ促シ尙聽カサレハ斷然米國ト同一態度ニ出ツルニ決シ二月九日右抗議書ヲ獨逸公使ニ交附セリ

一方二月八日英國「バルフォア」外相ハ在英珍田大使ニ對シ支那政府參戰ニ對シ勸告スル考ヘナ
 ルヲ述ヘタルカ二月九日日本野大臣ハ在本邦英佛露三國大使ヲ招キ「一昨年支那引入問題起リタル
 時ニハ帝國政府ノ立場トシテハ支那參戰ニ依リ帝國ノ對支行動カ制肘ヲ受ク可キト更ニ支那カ若
 シ參戰ヲ承諾セサル場合ニハ帝國カ強壓ヲ加ヘル責任ヲ引受クル事アル可キヲ願慮シ拒絶セルカ
 今日ニ於テハ事態變化セルヲ以テ米國ノ對支勸告ヲ支持セムトスルモノナル」旨述ヘタル處二月
 十三日「バルフォア」外相ハ在英珍田大使ニ對シ右本野大臣ノ所言ニ同意ナル旨述ヘタリ
 其ノ後支那側ヨリ對獨國交斷絶ノ代價トシテ關稅引上及義和團事件賠償金支拂延期ノ件ニ付關係
 列國ノ考慮ヲ求メ來レルヲ以テ本件ヲ中心トシテ日英間ニ話合行ハレタルカ要スルニ英國政府ト
 シテハ關稅引上問題ヨリハ寧ロ賠償金支拂延期問題ニ關シ支那政府ニ讓歩セムトスル意圖ナル事
 明白トナレリ之ニ對シ帝國政府ハ賠償金問題ノミナラス關稅引上問題ニ付テモ支那側ニ幾分満足
 ヲ與ヘ更ニ獨逸ノ支那ニ對シ執ル事アルヘキ行動ニ關シ支那ニ對シ聯合國側ノ支持ニ關シ保障ヲ
 與フル事必要ナリト爲シタリ右關稅引上問題及保障ノ點ニ付テハ英國モ主義上之ニ同意シタリ其
 ノ後支那ニ對シ決定的提案ヲ爲スニ當リ單ニ獨逸斷交ノミナラス支那ヲシテ對獨宣戰ヲ爲サシム
 ル必要ノ有無ニ關シ日英兩國間ニ議分レ意見ノ應酬アリタルカ結局支那政府ハ三月十四日斷交通
 告ヲ獨逸公使ニ交付スルノ運ヒトナレリ

第二節 英國政府ノ對支要求支持方ニ關スル日英交渉

大正四年(一九一五年)十一月七日頃在支露國公使ヨリ梁士詒(稅務署督辦)ニ對シ(一)上海英
 商ノ手ニアル武器ヲ露國ニ密輸出方ヲ依頼シ同時ニ(二)支那政府ヨリ露國ニ兵器ノ供給ヲ爲ス事
 宜ニ(三)在支獨逸人追放方ヲ申入レタルニ對シ梁ハ「獨逸人追放ハ到底爲シ得ル所ニ非ルモ密輸
 出ノ件ハ承諾スヘク又資金ノ供給ヲ得ルニ於テハ聯合側ノ爲ニ兵器廠ヲ利用セシムルモ可ナリ」
 ト答ヘタルコトアリ之ト前後シテ「サミュエル」商會主ニシテ元倫敦市長タリシ「サト、マーカス、
 サミュエル」(Sir Marcus Samuel)ハ支那ヨリ軍器供給ヲ仰クノ計畫ヲ思立テ英國政府ヘ内議ヲ持
 込ミ來リ英國政府ハ在支公使ノ意見ヲ徵シタルニ同公使モ之ヲ支持シ來リ一方「サミュエル」ノ手
 ニテ支那政府ヨリ銃器買入ノ内議纏リタル由ニテ旁々英露兩國政府ニ於テハ兵器供給並ニ獨逸人
 追放方公式ニ支那ニ提議センコトヲ企テ英國政府ヨリ十一月十二日日本政府ニ對シ左記覺書ヲ提
 出シ日本政府ノ同意ヲ求メ來リタルカ右要請ハ露佛兩國ニ對シテモ爲サレタリ

十一月十二日附英國政府覺書

露國軍隊ニ對シ出來得ル限リ各種ノ方面ヨリ小銃其ノ他諸般ノ武器ヲ供給スルノ極メテ緊要事

タルコトハ日本政府ノ克ク諒知セラルル處ニシテ從テ日本國政府ハ露國ノ需要ヲ充サムカ爲日本國ニ於ケル公私ノ兵器廠及工場ノ產出力ヲ増大セムコトニ極力盡力セラレツツアリ
英國政府ハ其同盟國タル露國ヲ援助スルニ全力ヲ傾ケツツアル次第ナルカ本件ニ關シ英國政府ハ支那政府ヲシテ其軍需品ノ餘剩ヲ割キテ小銃其他ノ供給ヲナシムルコトニ想到シ非公式ニ支那政府ト商議ヲ遂ケタル結果近々多少ノ供給ヲ仰キ得ルニ到ルヘキコトヲ希望シ居レリ
然リト雖英國政府ニ於テハ非公式ニ右ノ商議ヲ行ハンヨリハ本件交渉ヲ進テ一層正式ノモノダラシムルコト諸般ノ關係ニ依リテ更ニ好都合ナルヘキコトヲ感知セリ
仍テ英國政府ハ露國政府ニ對シ小銃ノ供給増加並ニ能フヘクンハ目下日本國政府ニ於テ行ヒツツアルト同様ニ兵器廠產出力ノ増加方ヲ英國政府ト共同シテ支那政府ニ提議スルノ計畫ヲ提案シタリ而シテ日本國政府カ右支那政府ニ對スル提議ヲ支持セラレ以テ聯合諸國側ノ利益ヲ助長セシムルコトニ付其ノ有力ナル援助ヲ與ヘラレンコトハ英國政府ノ切ニ希望スル所ナリ尙佛國政府ニ對シテモ亦右提議ノ件ニ協同スヘキ據勸誘シツツアリ
右計畫ハ大要下ノ如キモノナリ即チ英露兩國政府ヨリ支那政府ニ對スル公文ヲ以テ先ツ歐洲戰爭ノ急需ニ應センカ爲英露兩國ハ支那ト接壤セル諸領土ノ軍備供給ヲ空虛ニスルノ已ムヲ得サ

ルニ立至リタル旨ヲ述ヘタル上右ノ情況カ支那ノ治安及秩序ニ及ホスヘキ影響ニ鑑ミ支那政府ハ軍器供給ニ關スル中立條規ヲ緩和シ以テ前記接壤地方治安維持ニ付満足ナル方法ヲ廻ラスコトニ對シ英露兩國ヲ援助セムコトヲ要求シ更ニ進テ本件ニ關スル支那政府行動ノ結果支那政府ニシテ意外ナル外交上ノ難關ニ遭遇スル場合ニハ英露兩國政府ハ支那ニ對シ有力ナル援助ヲ與フヘキ旨ヲ申添ヘントス
右ニ付テハ或種ノ財政上ノ協定ヲ爲スコトモ亦勿論必要ナルヘシ而シテ支那政府カ其兵器廠改良ニ關シ何時ニテモ必要トスル援助ニハ之ニ參加セムコトヲ欲スル日本國政府ノ普ネク知ラレタル希望ニ顧ミ英國政府ニ於テハ此點ニ付テモ亦日本國ノ友好的協力ニ依頼スルニ躊躇セサルモノナリ
上述ノ交渉成功シ支那政府ニシテ我提示セル方法ニ從テ行動スルコトニ同意スルニ至ラハ獨逸政府ハ必スヤ右ノ行動ニ對シテ強硬ナル抗議ヲ呈スヘク茲ニ於テカ支那政府ハ此行動ヲ全然擲棄スルカ將又進シテ聯合諸國ト連盟スルカ二者其ノ一ヲ選ハサルヘカラサル状態ニ立到ルナルヘシ

日本國政府ハ獨逸政府カ支那全國暹羅其他極東各地ニ於テ畫策ヲ運ラシ印度ニ叛亂ヲ起サムト

スル陰謀企圖ニ就テハ夙ニ了知セラレルコトト信ス英國政府ニ達シタル確報ニ依レハ上海ハ獨逸陸軍ノ重要ナル策源地ニシテ獨逸人ハ印度ニ向フ武装遠征軍ヲ準備セムト企テ上海居留地ニ於テ多量ノ武器彈藥ヲ蒐集セルノミナラス印度逡巡及番兵ヲ煽動シ且支那人ト通謀シメツアラ加之大仕掛ニ爆彈小銃及彈藥ノ製造ヲ企畫セルコトヲ信スヘキ理由アリ

上海其他居留地ニ於ケル英國臣民ハ此ノ如キ支那人トノ通謀印度逡巡ノ買収ヲ以テ明白ナル支那ノ中立侵犯ト成シ之ヲ抑止スル爲斷然タル處置ニ出テシコトヲ絶叫セリ

當時英國政府ハ之ヲ爲ニ惹起サレタル重大ナル事態ニ對シ支那政府ノ注意ヲ喚起スルノ要ヲ考慮セシカ今ヤ英國政府ハ若シ武器ヲ供給シテ聯合諸國側ヲ援助スルコトノ列國共同要求ニ對スル支那政府ノ許諾ヲ獨逸政府ノ抗議ヲ引起ストセハ上海其他ノ居留土地及開港場ヨリ此等ノ獨逸人追放ヲ支那政府ニ要求スルモ不當ニアラサルヘシトノ意見ヲ有ス如上ノ計畫ニシテ實行セラルルニ至ラハ終ニ支那ヲ對獨逸戰爭ノ渦中ニ曳キ入ルルコトトナルヘキコト疑ナシ

乍去英國政府ハ之ヲ爲ニ歐洲戰爭ノ一般方略ニ精神上及物質上重大ナル結果ヲ生スヘキコトヲ確信スルモノナリ

獨逸支那ノ資源カ聯合諸國側ノ利用シ得ル所トナルノミナラス東亞ニ於ケル獨逸ノ勢威ニ甚大

ノ打擊ヲ加フルニ至ルヘシ

如上ノ考案ヲ豫メ日本國政府ニ通告シ置カサラムニハ英國政府ハ其ノ同盟國(日本)ニ對スル義務ニ反クモノト云ハサルヘカラス而シテ今正ニ本件ニ關スル支那政府ノ態度如何ニヨリテ何等カノ行動ニ出ツヘキ重要ナル時機ニ在リ仍テ英國政府ハ此提案ニ關スル日本國政府ノ意見ヲ可成速カニ聞クヲ得ハ大幸ナリ

然ルニ梁士詒乃至「モリソン」等ノ策士ハ右英露ノ兵器需要ノ情況ヲ帝制問題ニ利用セント畫策シ梁ハ十一月十五日露國公使ヲ訪問シ「支那ヨリ英露ニ兵器供給ノ事實外間ニ顯ハルレハ支那ノ關係ハ困難ニ陥ルヘキ處若シ英露兩國ニ於テ獨逸ノ復讐ニ對シ充分ノ保障ヲ與フルニ於テハ支那ハ聯合側ニ立チ公然獨逸ニ敵對行爲ヲ執リ兵器廠ノ如キモ聯合國ノ利益ニ供スヘキニ付之ニ要スル費用ヲ融通セラレタシ」ト申出テ之ニ對シ露國公使ハ「支那ヨリ武器ノ供給ヲ受クルコトハ露國側ニ於テ必要トセサルノミナラス又急速ニ之ヲ實現スルコト困難ナル如ク感セララルヲ以テ此點ハ重キヲ置カサルモ唯支那ニ於ケル獨逸ノ陰謀的活動ハ甚シク危險ニ感セララルヲ以テ支那ニシテ獨逸ニ對シ敵對行爲ヲ敢テスルノ覺悟アル以上兵器供給ヨリハ寧ろ排獨行動ヲ共ニスル見地ヨリ聯合側ニ參加スルコトトシテハ如何」ト述ヘタルニ梁ハ「右ハ仲々困難ナル問題ナリ」ト答

へタル由ナリ又梁ハ當時英國公使トモ頻繁ニ往復シタル由ナルカ商議ノ内容明ラカナラス
大正四年十二月五日袁世凱ハ坂西大佐ニ對シ左ノ如ク語レリ

支那ハ未タ何レノ國ヨリモ聯合側加入ノ如キ話ヲ持掛ケラレタル事ナシ唯曾テ其ノ英人顧問ヨ
リ同意見ノ提出アリタルモ余ハ一笑ニ附シ去レリ客年日獨戰爭ニ際シテハ要スレハ日本ト協力
シテ青島ヨリ獨逸ヲ驅逐セント迄思ヒシモ今ハ時勢既ニ同シカラス支那現在ノ實力ヲ以テ聯合
側ニ加入シタレハトテ徒ラニ戰爭ノ渦中ニ投スルニ過キスシテ何等利益スル所ナシ又外間梁士
詒カ某國公使ト秘密ニ往來シツツアリ等唱フルモノアルモ其ハ兵器輸出ノ件ニシテ加入問題ニ
アラス要之實力ナキ支那カ現下ノ情況ニ於テ交戰團體ニ加入スルカ如キハ思ヒモ寄ラサル所ニ
シテ支那ハ唯中立ヲ嚴守スルノ他ナシ何卒安心セラルル權日本政府ニ傳ヘラレタシ

前記ノ如ク十一月十二日在英井上大使カ「グレー」卿ヨリ英國最初ノ覺書ヲ受ケ其ノ意ヲ尋ネ
ラレタルトキ支那政府ニ於テ斯ル提議ニ應スヘキヤ否ヤハ頗ル疑問ナル旨答ヘタリ

十一月十四日在英本多參事官ハ「ラングレー」ニ對シ上海其ノ他外國居留地ニアル獨逸人ノ處分
ニ關シ外國居留地ハ支那ノ權力外ニアリ殊ニ上海ニ關シテハ日清戰役ノ際英國自ラ其ノ中立尊重
ヲ日本ニ請求シタル位ノ歴史モアリ居留地内ノ治安維持ハ所屬國ニ於テノミ擔任シ來レル多年ノ

慣行ヲ指摘シ「今回ノ場合支那ノ援助ヲ求ムルハ非常ノ Departure ニシテ將來ニ影響スル所大
ナリ聯合國所屬ノ Municipal or Commercial Authorities ニ於テ適宜ノ措置ヲ執ルコトトシ可然
之カ匡濟ノ爲實力ヲ要スルトキハ日英ノ艦隊モアルニアラスヤ」ト述ヘタル處「ラングレー」ハ
「領事及居留地當局者ヲシテ措置セシムルハ獨逸人ニ對シ司法管轄權無キ故不可能ナリ若シ貴說
ノ如キ方法ヲ採ル時ハ之カ實行上非常ノ紛擾ヲ來タシ支那トノ間ニモ葛藤ヲ惹起スヘシ」ト答ヘ
タリ

十一月十五日石井外務大臣ハ「グリーン」大使ニ對シ「英國ハ支那ニ壓迫ヲ加フルノ意ナシトノ
事ナルカ壓迫ヲ加ヘスシテ支那カ同意スヘクモ見ヘス右拒絕ノ場合英國ハ如何ナル措置ニ出ツル
考ナルヤ將又談判強硬ニ過クレハ支那ヲ驅ツテ獨逸ノ掌中ニ入ラシムル虞ナキヤト懸念ス」ト述
ヘタルニ對シ十一月二十日外相代理「クルー」卿 (Lord Crewe) ハ井上大使ニ對シ「此種問題ニ
付支那ニ壓迫ヲ加フル事ハ到底問題外ナリト思考ス本件提議ハ英國側ノ重キヲ置ク處ニシテ若シ
所期ノ如ク聯合軍側ノ武器ノ補充ニ支那ヲ利用シ得且支獨逸國人全部ヲ追放シ其商權ヲ我等聯
合軍側ニ於テ握ルコトトナランカ獨逸國ニ取リテハ多大ノ打撃ニシテ或ハ爲ニ戰爭終局時期二三
ヶ月短縮シ得ンカトモ思ハレ居ル位ニテ英佛露ニ於テハ成ル可ク速ニ支那ニ交渉シ度キモ日本ノ

特殊ノ地位ニ鑑ミ先ツ日本國政府ノ意見ヲ求ムルコトトセル次第ナリ殊ニ支那兵器廠改革問題ニ付テハ日本國ニ於テ夙ニ希望ノ次第モ有之ト了解スルヲ以テ斯ハ先ツ相談ノ手續ニ及ヒタル次第ナリト述ヘタルニ付井上大使ハ「クルー」卿ニ對シ「兵器廠問題ハ日支交渉問題ノ一ニシテ今尙懸案中ナリ此ノ行懸ニ鑑ミ兵器廠問題ノ協議ニ關シテ日本ハ Privileged Position ヲ有スル事御含ミアリ度シ」ト述ヘタルニ同卿ハ之ヲ諒トスル旨答ヘタリ

尙同大使ハ「クルー」卿ニ對シ「(一)支那ヨリ武器供給ヲ受タルノ案ハ急ニ利用ノ效ヲ見ルヲ期シ難ク(二)獨逸人陰謀防止ノ爲ニハ支那ヲシテ其中立ヲ棄テシメストモ他ニ良策アルヘシ則聯合國ヨリ支那ニ對シ其中立勸行ヲ迫リ居留地其他支那法權ノ及ハサル地域ニ關シテハ聯合國側ニ於テ自衛上適宜ノ措置ヲ執ルコトトスヘシ(三)支那ノ平和維持ハ日本ノ専心腐心セル所ナルモ支那ヲ戰爭渦中ニ投セシムルハ之ニ反スル結果トナルヘク之カ爲豪ルヘキ商業上ノ打撃ノミニテモ日本ノ堪ヘ能ハサル所ナリ(四)將又支那カ交戰國ノ一トナル結果無論講和會議ニモ列スルコトトナルヘク其場合支那ハ最近日本ト協定セル事項ニ關シテハ勿論支那年來ノ希望タル幾多ノ利權回收關稅增收等諸多ノ案件ヲ提起スヘシ」ト述ヘタルニ對シ「クルー」卿ハ「右ハ尤モト存スルモ一方聯合國ノ受タル利益ハ右ノ利益ヲ償ヒ得テ餘リアリ」ト答ヘ尙井上大使カ「本提案ハ聯合國側ノ

弱點ヲ示スノ嫌ナキヤ」ト問ヒタルニ對シ「獨逸側ニ對シテハ或ハ其ノ感ヲ與フルヤモ計ラレサルモ我方ニ於テハ顧慮スルニ及ハス」ト答ヘタリ

第三節 對獨國交斷絶ニ關スル英佛露三國提案ヲ

中心トスル日英交渉

十一月二十二日在本邦英佛露三國大使石井大臣ヲ來訪シ各本國政府ノ訓令ニヨル旨ヲ以テ「獨逸ハ支那ニ於テ頗ル惡辣ナル書策ヲ廻ラシツツアリ之カ爲メ英國ハ印度ニ關シ佛國ハ雲南地方ニ付又露國ハ北滿地方ニ關シ何レモ多大ノ不安ヲ感シ居レルニ付是非共速ニ右等獨逸人ノ書策ヲ根底ヨリ覆スノ必要アリ就テハ支那ヲシテ全然聯合國側ニ立タシムルコト極メテ肝要ト思考スル」旨述ヘタル後左記書面ヲ提示シ本書面ハ英佛露三大使ニ於テ各本國政府ヨリ受ケタル訓令ヲ比較シ一括摘要シタル「レジュメ」ナル旨ヲ述ヘタリ

支那國內ニ於テ英佛露諸國ニ對シ行ハレ居ル陰謀ハ特ニ憂慮スヘキ性質ヲ有スルニ至リ且右諸國ノ接壤領域ニ於テ擾亂ヲ誘起シ以テ右諸國ニ危險ヲ及サントスルノ勢ニ在リ斯クノ如キハ支那ノ甚シキ中立違反ヲ構成スルノミナラス關係諸國ノ能ク忍ビ得ル所ニ非ヌ之ヲ以テ右諸國ハ

既ニ支那政府ニ對シ本件ニ關シ當ニ負ハサルヘカラサル責任ニ付其ノ最深大ナル注意ヲ喚起シ
タリ

前記諸國ハ右陰謀ヲ中絶セシメンカ爲支那ニ居住セル獨塊ノ手先及臣民ニ關シ強硬ナル措置ヲ
執ランコトヲ支那政府ニ要求センコトヲ提議ス而シテ日本ノ援助ヲ得テ此要求ヲ爲スニ於テハ
支那政府ハ好意ヲ以テ之ヲ受クルノ意向ヲ有スルニ至ルヘシト思料セラレ

然レトモ前記諸國ノ意圖ハ交誼的要求ニ依リ支那ニ對シ公然獨塊兩國ト國交ヲ斷絶センコトヲ
勸ムルノ外ニ出テス

支那ニシテ諸國ノ所懷ニ適合スヘキ態度ヲ執ルニ於テハ左ノ諸項ニ記載スルカ如キ結果ヲ生ス
ルコトトナルヘシ

一、獨塊ノ手先及臣民ノ追放ニ依リ支那ニ於ケル陰謀ノ禍源ヲ絶滅スルコトヲ得ヘク又從來印
度及印度支那ヲ目的地トシテ支那人ト共謀シテ行ハレ來リタル武器ノ輸送並滿洲及西比利亞
ノ鐵道ニ對シ通信及軍用品輸送杜絶ノ爲行ハレタル運動ヲ妨クルコトヲ得ヘシ

二、此措置ニ依リ支那ニ於ケル獨塊ノ盛大ナル貿易ヲ破壊シ得ヘク是ニ於テ列國殊ニ貿易上支
那ニ於テ最有望ナル將來ヲ有スル日本ニ取り大ナル有形的利益ヲ供與スルコトトナルヘシ

此措置ハ又之ト同時ニ支那ニ於ケル獨逸ノ勢力ヲ驅逐スルコトヲ得ヘシ蓋シ若シ此勢力ニシ
テ支那ニ於テ引續存在センカ遂ニ之カ爲ニ支那ヲシテ政治上財政上商業上獨逸ノ援助ヲ求メ
シムルニ至ルヘシ

三、獨支間ノ國交斷絶ハ聯合國側カ今後亞細亞ニ於テ優勢ヲ占メ居ルコトヲ示スコトトナリ精
神上中立諸國ノ輿論ニ反響スル所少カラサルヘシ

四、支那ハ諸國ノ武器供給ヲ増加スルカ爲其ノ兵器廠ノ或者ヲ英佛露三國ノ使用ニ供スルコト
ヲ得ヘシ但此問題ハ時機事情ヲ考察シ日本ト協同シテ研究スルコトヲ要スヘシ

英佛露三國ハ此場合ニ於テ此提議ヲ日本國ニ致シ支那參加ノ爲斯ル絶好ノ機會ヲ捕フルノ緊要
ナルコトヲ日本國ニ説示セントス右諸國ハ日本ノ援助ニ依リ支那ニ對スル其ノ措置ノ成功ヲ保
障シ得ヘク四國間ノ協調ヲ明確ニ表明スルコトヲ得ヘシト信ス此協同動作ハ亞細亞ニ於ケル獨
逸ノ勢力ヲ廢滅セシムヘク是蓋シ日本ヲシテ獨逸ニ對シ戰ヲ宣セシメ又最近更ニ一九一四年九
月五日ノ倫敦宣言ニ參加セシムルニ至レル所ノ目的ニ副フモノト云フコトヲ得ヘシ

石井大臣ハ其ノ書面ヲ一讀シタル處其ノ主意トスル處ハ先ツ支那ニ向ヒ獨塊二國ニ對シ open
rupture スルコトヲ要求スルモノナルニ付石井大臣ハ三大使ニ對シ「本書面ノ趣旨ハ當初英國政

府ヨリ開談ノ趣意トハ大ニ相違シ居レルモノノ如シ當初英國政府ヨリ相談アリタル趣旨ハ先以テ支那政府ニ對シ國境地方ノ治安ニ關シ兵器供給ノ爲手加減ヲ行フコト及兵器廠ヲ擴張シテ聯合側ニ武器ヲ供給セラレ度旨ヲ支那政府ニ要求スルト云フニアルニ右書面ノ趣旨ハ今直ニ支那ヲシテ獨逸ニ對シ國交ノ斷絶ヲ求ムルモノニシテ從テ從來ノ問題ヨリモ更ニ進テ新局面ヲ開ク事ト相成ル義ナルカ三國政府ニ於テハ其後最初ノ考案ヲ變更セラレタル次第ナルヤ」ト反問シタルニ英國大使ハ「右書面ノ趣旨モ大體當初ノ趣旨ト異ル所ナシ」ト答ヘタルモ尙在英井上大使ヲシテ英國外務大臣ニ會見ヲ遂ケ右相違ノ點ヲ指摘シタル上英國側ノ眞意ヲ尋ネシムル所アリタリ其ノ後在英露佛帝國使臣ニ於テ屢次任國當局ト會談シ本件ヲ論究スル處アリ在英井上大使ニ於テハ其ノ私見トシテ本件ノ實行不可能ナル所以ニ付續々說示シ且陰謀ノ事實通報方申入ル所アリ帝國政府ニ於テハ大體同大使ノ所說ヲ追認シタリシカ三國政府ハ頻リニ速ニ日本政府ノ回答ヲ聽カンコトヲ希望セリ

十一月二十三日在英井上大使カ「グレー」卿ニ對シ前掲支那政府ニ對シ中立義務遵守ヲ迫ルコト及支那法權ノ及ハサル地方ニ於テハ聯合側ニ於テ自衛ノ措置ヲ執ル事可然旨ヲ述ヘタルニ對シ「グレー」卿ハ「右ハ尤モト存スルモ少シク壓迫ニ失シ支那ノ感情ヲ害シ支那ヲ驅テ獨逸側ニ投セ

シムル虞ナキヤ」ト述ヘタルニ付井上大使ハ「支那ハ日本ヲ敵トシテ迄獨逸ニ加擔スルカ如キ愚ハナナナル可ク若シ之アリトスルモ聯合國ニ於テハ何ノ恐ルル所アラン」ト答ヘタリ右談話ノ初ニ當リ「グレー」卿ハ「帝政問題ニ關シ十一月十九日井上大使ヨリ提出セル覺書ノ趣旨ハ英國政府ノ主義ニ於テ同意スル所ナルモ更ニ緊急問題トシテ先ツ在支獨逸人放逐ニ關スル英國政府ノ提案ニ對シ速ニ日本政府ノ回答ヲ得ンコトヲ希望ス」トノ覺書ヲ手交シタリシカ後ニ井上大使カ支那平和維持ハ日本ノ國是タリ若シ之ニ矛盾スルカ如キ政策ニ出ランカ國論ノ沸騰ハ想像ニ堪エサルヘキヲ語リ且東洋全局ノ平和維持ハ日英同盟ノ精神ニ鑑ミ兩國雙方德義上ノ義務ナリト思考スル旨述ヘタル結果「グレー」卿ハ覺書ハ再考スルコトトスヘシトテ之ヲ取戻シ且英提案ノ實現ハ日本ノ援助ナクンハ叶ハサルニ付切ニ日本政府ノ速答ヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ此ノ間偶英支兩國間ニ同盟條約ニ關スル商議進行中ナリトノ風説起リタルヲ以テ十一月二十七日在本邦英國大使ハ右風説ノ事實無根ナルコトヲ辯明スルト共ニ英國ハ日本ト協議ノ上ナラテハ支那ト政治上ノ商議ヲ爲スノ意思ナキ旨聲明セル左記英國外務大臣來電寫ヲ石井外務大臣ニ提出セリ

十一月二十六日「サー、エドワード、グレー」發在本邦英國大使宛電報

北京ニ於テ英支同盟ノ商議進行中ナリトノ風説アル此際貴大使ハ日本外務大臣ニ告タルニ吾人ハ何等此種ノ畫策ヲ爲シタルコトナク又吾人ハ日本ト協議ノ上ナラテハ支那ト苟クモ政事的性質ヲ有スル商議ヲ開始スルノ意圖ナキモノナルコトヲ以テセラルヘシ

問題方單ニ内々銃砲買入ノ相談ニ過キヤリシニ當リテハ吾人ハ單獨ニ支那ト交渉シタリト雖モ其ノ政事的色彩ヲ帶フルニ及ヒテハ吾人ハ直ニ日本ニ協議シタリ面シテ吾人ハ終始一貫以テ日本ノ協力ナシニハ北京ニ於テ本件ノ商議ヲ繼續スルコトヲ拒ミタリ

十一月二十九日井上大使ハ「グレー」卿ニ對シ「日本ニ緊切ノ關係アル本案ヲ日本ノ意思ニ拘ラズ實現ヲ企ツルコトノ結果ハ自然日本ト三國トノ反目トナリ却テ獨逸ノ術中ニ陥ルモノナルヘシト思考ス」ト述ヘタルニ「グレー」卿ハ「日本ノ意思ニ反シテ本件遂行ノ歩ヲ進ムルカ如キ考ハ素ヨリナシ」ト答ヘ尙井上大使カ「本問題ハ此際宜シク先ツ日英間ニ妥協的精神ニテ談合ヲ圖ルコト事宜ニ適スヘクト思考ス」ト述ヘタルニ「グレー」卿ハ「右ハ同感ナルモ先ツ日本政府ヨリ義ノ提案ニ對シ回示ヲ得度シ」トノ意ヲ述ヘ且「講和會議云々ノ點ニ關シテハ未タ何等研究シ居ラス」ト答ヘタリ次テ井上大使ハ「日本側ノ見地ヨリ言ヘハ支那ヲ戰爭ニ引入ルヨリハ寧ろ支那ヲ押ヘテ之ヲ動かサシメタル權致シ度希望ナリ」ト述ヘタリ

尙同日井上大使ハ支那參戰ニ對スル日本ノ立場ヲ尙一層「グレー」卿ノ腦裡ニ徹底セシムル爲「日露戰爭ノ際日本ハ支那ヲ參加セシムヘキ充分ノ理由アリ又日本ノ存亡ニ關スル此大戦ニ於テ支那ノ莫大ナル資源ヲ利用スルノ有利ナルコト明白ナルニ拘ラス尙人道ニ鑑ミ支那ノ康寧ト列國ノ利益ヲ尊重シ支那ニ勸告シテ中立ヲ維持セシムルコトトシタル次第ナル」ヲ指摘シタリ

十二月三日帝國政府閣議ニ於テ決定ノ趣旨ニ基キ同月六日石井大臣ヨリ英露佛三國大使ニ對シ「(一)日本ハ支那ヲシテ公然其ノ中立ヲ破ルノ誘ヲ受クシムルコトナク支那ヲシテ兵器ヲ供給セシムルカ爲三國ト協同考慮スルヲ辭セス又支那ノ兵器廠擴張及改善事業ニ付何時ニテモ支那ト協同スルノ覺悟アルコト(二)獨逸人陰謀根絶ノ爲陰謀ニ關係セル獨逸人ノ追放方支那ニ協同要求ヲ爲スハ帝國ノ喜ヲ應セントスル所ナルコト(三)然レトモ支那ヲシテ獨逸ト國交ヲ斷絶セシムルノ一事ハ支那ノ平和確保ヲ以テ不動ノ方針トセル帝國トシテ贊同スルコト能ハサルノミナラス三國政府ノ再考ヲ促スモノナル」旨ヲ記載セル覺書ヲ手交セリ

此ノ間英國ハ豫テ私人ノ手ヲ經テ入手方交渉中ナリシ武器(小銃二萬挺機關砲八門)ノ授受ヲ了シタル由ノ處十二月十日「グレー」卿ヨリ井上大使ニ對シ「日本政府ノ回答ト三國ノ考案トノ間ニ意見ノ徑庭ヲ見ルハ英國トシテハ遺憾尠ナカラス重テ日本政府ノ考量ヲ仰カレ間敷ヤ」ノ懇請アリ英國政府ハ既ニ帝國政府ノ見地ヲ十分了解シ居ルニ拘ラス尙此ノ申出ヲ爲セルハ井上大使ノ

察スル所ニ從ヘハ英國政府ハ其ノ面目上今更本案ヲ拋棄スルヲ苦痛トスルト加フルニ當時在支敵國人陰謀問題英國議會ニ持上リツツアルニ依リ對内政策上ヨリ云フモ何等カ相當ノ結末ヲ付ケザルヘカテサレテ確目ニ在リシモノノ如シ

十一月十二日附英國政府ノ覺書ニハ主トシテ露國ニ對スル兵器供給ノ必要ヲ説キ又日本ノ兵器廠合併ノ希望ニ違言及シ居リ而シテ右兵器供給ノ結果支那ハ獨塊ニ對シ敵國タル地位ニ立タサルヘカテサレニ至ルヘシト推論セルモ十一月二十二日ノ三國大使共同陳述ニハ支那ニ於テ獨塊ト斷交ヲ斷絶スヘク其ノ結果ノ一トシテ兵器供給及之ニ關スル日本ノ協同ノコトヲ擧テ居リ兩者其ノ趣ヲ異ニス而シテ右兩回ノ申出ニ對シ帝國政府ハ兵器廠擴張ノ爲何時ニテモ支那ト協同スル覺悟アル旨ヲ暗示シタリ

其ノ後露佛英外務當局ハ何レモ獨塊人ノ追放ヲ以テ主タル目的トシ兵器供給ハ第二ノ問題ナリト語リ豫ニ十二月二十八日極東部長「アルストン」ハ本多參事官ニ對シ「兵器廠ニ關スル當初ノ計畫ハ準備ニ長日月ヲ要シ差向キ戰爭ノ役ニ立ツ可クモアラス戰爭ハ一年以内ニ終局スヘシト思考セラルカ故ニ英國政府トシテハ本件ハ最早「ドロップ」サレタルモノトシテ差支ナキ見込ナリ要ハ獨逸側陰謀杜絶ノ一事ニ問題カ歸着シ居ル次第ナリ」ト答ヘタリ

第四節 專管居留地獨塊人追放問題

十二月二十八日「グレー」外相ハ在英井上大使ニ對シ英國側ノ調査ニ係ル陰謀事實(主トシテ印度ニ對スルモノ)ヲ蒐錄セル覺書ヲ提示シ「廣東居留地内獨逸人追放ニ關スル議會ノ質問ニ關聯シ差向同地其他ノ英國專管居留地ニ就キ一應主權國トシテ支那ノ同意ヲ求メタル上敵國人追放ヲ實行スルコトトシ露佛トモ協同ノ上支那政府ニ照會スルノ策ヲ執ランカトモ考ヘ居ル處其ノ場合ニハ日本居留地ニ關シ日本ニ於テモ同一歩調ヲ執ラレンコトヲ希望ス」トノ申出ヲ爲シタルカ翌二十九日モ略同様ノ申出ヲ繰リ返シタリ之ニ對シ井上大使ハ「其點ハ我政府モ主義上異議ナキコトト信スル」旨答ヘタリ

帝國政府ニ於テハ在支各領事ヲシテ各其ノ任地在留敵國人ノ數並ニ彼等ノ陰謀ノ有無及情況ヲ報告セシメ其ノ結果ヲ大正五年(一九一六年)二月十六日三國大使ニ送付シタリ
一方一月中旬在英本多參事官ハ極東部長「アルストン」ニ對シ「英國政府ハ其後本案ニ付露佛ト協議シタルヤ」ヲ尋ネタル處「アルストン」ハ「獨逸租界ニモ聯合國人居住シ居ルヲ以テ獨逸側ノ報復ヲ招クニ至ルヘク結局本案ハ實行シ得ヘカテサレモノトシテ「グレー」外相ニ諫止シ外相

モ既ニ了解シ居レル」旨答ヘタリ

其ノ後英國外相ニ於テハ本案ノ有利ナラサル所以ヲ了得シタル由ニテ何等措置ヲ採ルコト無カリ

前掲帝國政府第二次回答ニ關シ英國側ハ失望乃至不滿ノ意ヲ表シ「アルストン」ハ本多參事官ニ對シ同官ノ私話トシテ日本政府ノ「サジエスチョン」ハ實行難ノ成アルヲ述ヘ「然ルニ印度ニ關スル獨逸側ノ陰謀並ニ獨逸公使館及領事館カ其首魁ト認定スヘキ事實ノ詳細ハ客年提出ノ覺書ニ明瞭ナル所ニ付英國外務省トシテハ遣テ石井男ニ於テ右覺書記載ノ事態ニ照シ本件處理方ニ付何等カ別種ノ「サジエスチョン」ヲ爲サルコトヲ期待シ居レリ」ト語レリ

又在支英國公使モ本國政府ニ對シ「(一)聯合委員ヲ設クルトスルモ支那警察官憲ノ協力ナクシテハ其任務ヲ遂行スルコト能ハサルヘク(二)獨逸租界隔離案ハ實行上種々ノ困難アリ(三)稅關長ニ發調ノ義ハ支那ノ立場トシテ行ハレサルヘシ」トノ意見ヲ具申シタル由ニテ旁々日本案實行ノ能否ニ付テハ英露側ニ於テモ頗ル疑問ヲ抱ケルモノノ如ク一方英國政府ニ於テハ前掲陰謀調査書ノ補足トシテ大正五年一月二十五日伊呂丸事件調査書ヲ作成シ右ハ獨逸公使領事ノ陰謀ヲ確證スルモノトシテ重ネテ帝國政府ニ提出シ右調査書閱覽ノ結果石井大臣ヨリ何等カ別種ノ提案ヲ聞カ

シコトヲ期待セリ

次ヲ露國大使ヨリモ同五年二月十五日及三月二十六日佛國大使ヨリモ同年三月二十四日及四月二十二日ヲ以テ在支獨逸人ノ陰謀ニ關スル情報ヲ供給シ來リタルカ帝國政府ニ於テハ何等措置ヲ執ルコトナク爾來三國側ヨリモ何等本件ニ關シ申出無ク經過シ本件ハ一時立消ノ姿トナリタルカ八月十二日露國大使ハ幣原次官ニ面會シ獨逸人追放問題ニ關シ談話スル處アリ

尙之ヨリ先大正五年一月中旬「モリソン」ハ有賀博士ニ對シ日本カ三國ノ提議ニ反對セルハ遺憾ナリトシ且「歐洲戰爭後英米ノ海軍ハ大擴張セラレヘキヲ以テ東洋ノ問題ハ到底今日ノ如ク日本ノ自由ニ一任シ置クカ如キコト無カルヘキニ付日本ハ今日ヨリ三國側トノ協調ヲ維持シ支那問題ヲ專斷セサルコト得策ナリ」トノ意味合ノ談話ヲ爲シ更ニ七月二十一日「モリソン」ハ本邦ヘ渡航ノ途次在安東吉田領事ヲ訪問シ日英提携シテ東洋ニ於ケル獨逸勢力ヲ打破セサルヘカラサル旨懇説シ「然ルニ此事無キハ或ハ日本陸軍ノ有力者カ多ク獨逸ニ學ヘル關係モアリ日本軍人ノ中樞ニ獨逸最終ノ勝利ヲ信スル者アルニ依ルナキカ」ト述ヘタルモ具體的ニ支那加入問題ニ言及スルコトナカリキ

八月十五日「モリソン」ハ加藤子爵ニ對シ最近獨逸ノ活動益々激シキヲ加ヘ上海獨逸領事館ノミ

ノ發給スル内地護照ノ數百數十ノ多キニ達シ又獨逸ハ義和團事件賠償金ヲ流用シテ支那ト幾多ノ小借款ヲ締結シ居ル旨ヲ指摘シ支那引入問題ノ實行ノ途ナカルヘキヤト述ヘ之ニ依リ最モ利益ヲ受クルモノハ日本ナルヘク又獨逸人追放ノ結果ハ税關及郵政ニ從事スル獨逸人ハ實際上日本人若クハ支那人ヲ以テ代フルノ外ナカルヘキ旨竝ニ獨逸ニ對スル義和團事件賠償金ハ聯合側ニテ押ヘ更ニ之ヲ支那ニ貸付スル事ヲ得ヘシト述ヘタリ

「モリソン」ハ日本滯在中英國大使ニ對シ「支那カ聯合側ニ參加スル事ハ是非必要ト認ムルニ付北京出發前黎總統ニ向テ痛切ニ右ノ意見ヲ建議シ置ケリ」ト告ケタル由ナルカ右ニ關シ「ジョルダシ」公使カ支那政府側ニ就キ探問ヲ遂ケタル結果ニヨレハ「モリソン」ヨリ右様ノ建議アリタルハ事實ナルモ支那側ニ於テハ何等詮議ヲ附セス其ノ儘差置ケリトノ事ナリ

同五年九月中小幡參事官暇乞ノ爲「モリソン」往訪ノ際ニモ同人ハ本件ヲ持出シ熱心ニ日本政府ノ再考ヲ促シ日本カ此ノ計畫ニ同意セル方可ナル理由トシテ説明セルモノ一ニ「近時日本ハ列國ノ猜疑ト不滿ノ焦點タリ目下戰爭中ナレハ列國ニ於テ此感想ヲ露骨ニ表示セサルモ一朝大戰終結ノ曉ニ至レハ日本ハ種々ノ形ニ於テ列國ヨリ不利益ナル待遇ヲ受クルコトヲ自覺スルニ至ルヘシ故ニ今日ニ於テ此等列國ノ不滿ト猜疑ヲ一掃シ置カサレハ必スヤ戰後ニ於テ極メテ不愉快ノ地

位ニ立ツヘシ而シテ此列國ノ不滿ト猜疑トヲ一掃スルハ支那ヲ聯合國側ニ引入ルル問題ヲ實行スルニ若クハ無シ」ト述ヘタリ

九月二十六日英國外務大臣ハ在英珍田大使ニ對シ最近「モリソン」カ黎總統ニ支那加入方建議セルハ英國政府ニ於テ何等關知セサル所ナル旨ヲ辯明シタル後支那引入問題ハ現在一段落ヲ告ケ居ル次第ニシテ英國ヨリハ進テ何等發議ヲ爲スノ意見ヲ有セサルモ日本政府ヨリ何等カ提議アル場合ニハ英國ハ何時ニテモ之ニ考量ヲ加フルノ覺悟ナル旨語レリ

九月二十九日「グリーン」大使石井大臣ヲ來訪シ「モリソン」ノ談話ニ關スル英國政府ノ來電ヲ內告シ且日本政府ニシテ進ンテ本問題ヲ再閱セラレニ於テハ英國政府ハ共ニ之ヲ考量スルヲ躊躇セサル旨ノ本國政府來電ヲ傳ヘタルニ對シ石井大臣ハ尙熟考ヲ加ヘ或ハ英國大使ヲ煩ハス事アルヤモ知レスト答ヘタリ

同五年十月中旬本邦諸新聞紙上ニ「英國官民ノ一部ニハ一時立消ノ姿トナリ居レル支那引入問題復活ノ念ヲ斷タス「モリソン」ノ如キハ最近頻リニ段國務總理ニ之カ勸說ヲ試ミ居レル模様ニテ其動機タル一面支那ニ於ケル獨逸勢力ヲ根絶スルト共ニ他面日本ノ發展ヲ掣肘セムトスルニ在リ」トノ記事現レ中ニハ右ハ英國政府筋ノ意ヲ含ミタルモノナルヤニ迄報スルモノアリタル處右

ハ當時「シムブソン」(同人ハ倫敦「デイリー」テレグラフ)通信員ニテ「プトナム、ウィール」ナル雅號ノ下ニ相當有名ノ著述家ナルモ性格下劣ナル爲一般ニ信用ナク北京ニ於ケル上流外人社會ヨリ指彈サレ居レリ)ニ於テ右等趣旨ノ運動ヲ試ミツツアリタルヲ傳ヘタルモノナルカ如シ然ルニ同月十八日在本邦英國大使來省幣原次官ニ對シ右本邦諸新聞ノ記事ヲ指摘シ「元來英國政府ニ於テハ支那引入ノ計畫ハ日本ヨリ申出ナキ限リ此上何等措置ヲ執ラサル決心ニテ再ヒ強テ本問題ノ遂行ヲ計ルカ如キ意思毛頭無之ニ付日本政府ニ於テ誤解無キ様致度元來「シムブソン」ハ北京ニ於テモ人ノ齒セサル人物ニテ英國公使館トモ何等接觸無ク英國側ニテ同人ノ行動ヲ律スヘキ途モナキ次第ナリ」トノ旨ヲ述ヘタリ外務省ニ於テハ二三有力ナル新聞紙ニ右英國大使所述ノ英國側意向ヲ夫ト無ク掲載セシメタリ

本問題ニ關スル我邦輿論ハ要スルニ「支那ヲシテ協商側ニ加盟セシムル結果日本ノ對支地位削弱セラレ日本ハ唯列國ノ走狗タルノ勢ニ服シテ何等ノ收穫ヲモ得ル能ハス支那ヲシテ其上戰亂ノ終局ニ對シ發言權ヲ有セシムルカ如キ事アラハ東亞ノ時局ヲシテ遂ニ混亂收拾スヘカラサルニ至ラシメ東亞ノ覇者タル我邦ノ使命ハ如何ニシテ之ヲ遂行セントスルカ協商側ニシテ我邦ニ斯カル相談ヲ持込ミタリトセハ考慮スルマテモナク即座ニ之ヲ拒絕スヘキモノト信ス」云々ト謂フニア

第五節 支那引入問題ニ關スル帝國政府ノ決意變更

大正五年(一九一六年)四月十八日米國政府ハ獨逸潛水艇ノ襲撃ニ基ク米國人民ノ被害事件續發シタルニ關シ意ヲ決シテ獨逸政府ニ強硬ナル抗議ヲ提出シ今後獨逸潛水艇ニシテ依然其ノ不法行動ヲ續行スルニ於テハ米國政府ハ獨逸帝國トノ國交ヲ斷絶スルノ外ナカルヘキ旨聲明セリ獨逸政府ハ翌五月四日附公文ヲ以テ之ニ答ヘ潛水艇使用ノ制限ニ關シ必要ナル保障ヲ與ヘタルヲ以テ一時米獨間ノ緊張セル關係ハ漸ク緩和ヲ見タルカ大正六年(一九一七年)一月獨逸カ無制限潛水艇戰ヲ宣言シ右正式保障ヲ撤回スルノ決意ヲ通告シタルニ當リ米國政府ハ國家ノ威信及名譽上前言ヲ實行シテ米獨國交ノ斷絶ヲ宣言セリ二月五日在支米國公使ハ在支芳澤公使ヲ來訪シ四日國務省ヨリ米國ハ潛水艇問題ヨリシテ遂ニ獨逸ト國交斷絶スルニ至リタル旨電報ニ接シタル趣ヲ語レリ同日在支英國代理公使モ亦芳澤公使ヲ來訪シ「大正四年支那引入問題ノ際日英兩國政府ノ採リタル態度ハ貴官御承知ノ通りナルカ昨日在日英國大使ヨリ本野外相ノ議會ニ於ケル演說ノ送附アリ通讀スルニ日本ニ於テモ出來ル限リ各方面ニ向テ聯合國ト協同動作ヲ採ラサルヘカラストノ一節

アリ實ハ英國ハ常ニ支那ニ於テ獨逸人ノ陰謀ニ苦シメラレ居リ彼ノ苦力輸出問題ニ對シ獨逸人カ地方官憲ニ賄賂シ又ハ中央政府當局ヲ威嚇シテ有ユル妨害ヲ試ミツツアル如キ其一例ニテ其他尙種々不利ナル事情アリ自分ノ意見トシテハ此際獨逸人全部ヲ支那ヨリ放逐シ聯合國側ノ利益ヲ増進スル見地ヨリ引入問題ニ對シ此際深甚ナル考慮ヲ拂フコト肝要ナリト認メ其ノ旨本國政府ニ電報シ置キタリ」ト語レリ

同日在支米國公使ハ他方支那政府ニ向ヒ米獨逸交斷絶ヲ通告スルト同時ニ支那モ米國ト一致ノ行動ヲ取ランコトヲ勸告シタル結果國務院ニテハ五日六日ノ兩日ニ互リテ支那ノ態度ヲ決スル爲協議ヲ擬ラシ爾來屢次本件ニ關シ擬議スル處アリシカ結局支那ハ獨逸カ中立國ニ致セル潛水艇政策ニ關スル通牒ニ反省ヲ促シ尙聽カサレハ斷然米國ト同一態度ニ出ツルニ決シ二月九日右趣旨ノ抗議書ヲ獨逸公使ニ交附セリ

二月八日英國外相「バルフォア」ハ在英珍田大使ニ對シ「支那公使ハ同國參戰ニ關シ自分ノ意見ヲ求ムル爲來訪ノ手筈ノ事トナリ居ル處自分ハ軍口參戰ヲ勸告センカト考ヘ居レルカ貴見如何」ト尋ネタルニ付珍田大使ハ其ノ一己ノ私見トシテハ「支那カ米國同様獨逸トノ外交關係ヲ斷絶スル事ハ文明及人道ノ見地ヨリ歡迎スヘキ所ナルカ帝國政府ノ立場トシテハ本件ハ自ラ東洋平和維持

ニ關スル大局ノ見地ヨリ考查セラレヘク即支那カ右様ノ措置ニ出ツル曉果シテ國內ニ何等紛擾發生ノ惧ナキヤ否ヤ我政府ノ最重キヲ措ク所ナルニ付支那公使ニ對シテハ支那ニ於テ宜シク豫メ日本政府ト相談ヲ違ケタル上之ヲ決定ノ途ニ出ツル權勸告セラレテハ如何」ト説ケル所「バ」外相ハ之ヲ諒トシ「本大臣一己ノ所見トシテ米國勸告應諾ヲ「エンカレージ」スル意味ニテ程ヨク談話スルト同時ニ何分ノ決定ハ日本政府ノ意見ヲ求メタル上ノコトトスヘキ權勸告シ置クヘシ」ト約シタリ

二月九日日本野大臣ハ在本邦英佛露三國大使ヲ招キ左ノ意向ヲ内話セリ

御承知ノ通り昨年ノ末英露佛三國政府カ支那ヲ聯合國ノ一員トシテ參戰セシムル提議アリタルニ對シ帝國政府ハ第一ニ支那引入ノ結果日本ノ支那ニ對スル行動カ自然掣肘セララルノ虞アルコト第二ニ支那カ此勸誘ニ應セサル場合ニ帝國ニ於テ聯合國ニ代リ支那ニ強壓ヲ加フルノ已ムナキニ至ルヘキ事ヲ顧慮シ三國政府ノ提議ハ極東平和維持ノ根本主義ニ反ストノ理由ニ依リ之ニ反對シ支那引入問題ハ爲ニ中絶ニ歸シタリ然ルニ今日ニ在リテハ形勢漸ク一變セルモノアリ從ツテ本問題ハ此際再考ヲ要シ唯之カ實行ニ先テ他日帝國ノ地位ニ累ヲ貽ササル權豫メ必要ノ措置ヲ講スヘキモノト思考ス何レノ場合ニ於テモ單ニ支獨國交ノ斷絶ヲ目的トスル米國政府今

回ノ勸誘ハ帝國政府ニ於テ之ヲ支持スルモ危險ノ伴フモノアルヲ見サルノミナラス我ニ有利ナル結果アルモノト認メ帝國政府ハ不取敢米國政府ノ勸誘ヲ支持シ支那ヲシテ獨逸トノ國交ヲ斷絶セシメムカ爲適當ノ手段ヲ執ル事ニ決セリ

今回支那公使ヨリ非公式ニ本問題ニ關スル帝國政府ノ所見問合セアリタルニ付十日同公使ト會見ノ上本大臣一己ノ私見トシテ大體米國政府ノ勸誘ヲ支持シ支獨國交ノ斷絶ヲ從願セムトスル等ナルカ追テ支那政府ヨリ正式ニ帝國政府ノ意向ヲ確カメ來ル場合ニハ之ニ確答スルノ必要アルヘキヲ以テ豫メ本問題ニ關スル三國政府ノ所見ヲ承知シタシ

右ニ對シ三國大使ハ何レモ本國政府ニ於テ右本野大臣ノ考案ニ同意スヘキコトヲ信スルモ念ノ爲電報請訓スヘキ旨答ヘタリ

二月十二日在本邦支那公使ハ本野外務大臣ヲ訪問シ「支那政府ハ去九日獨逸最近ノ封鎖通牒ニ對スル回答ヲ發シ同回答ニハ若シ獨逸政府ニ於テ支那政府ノ求メタル反省ニ慎重ナル考慮ヲ加ヘス其效ナキ場合ニハ遂ニ兩國國交ノ斷絶ヲ見ルノ已ム無キニ至ルヘキ旨附言シアルカ右ニ關スル日本政府ノ意見承知シタシ」ト述ヘタルニ付本野大臣ハ支那政府トシテハ米國政府ノ執リタル態度ト同様ニ出ツルノ至當タルヘキ旨告ケタリ

右ハ本件ニ關スル英露佛三國政府ヨリノ回答未著ナルニ付已ムヲ得ス帝國政府限リノ意見トシテ曩ニ本野大臣ヨリ非公式ニ章公使ニ述ヘタル所ヲ再言シ置キタルモノナリ右措置ニ出テタルハ三國政府ニ於テモ全然帝國政府ノ意見ニ同意ナルヘキヲ確信シタルト且ハ時機大ニ切迫シタルカ爲三國政府ヨリノ回答ヲ待ツニ於テハ機宜ヲ失スル虞アリタルトニ依ルモノナルニ付右ノ事情ヲ然ル可ク任國政府ニ至急内告スヘキ旨同日日本野大臣ヨリ珍田大使宛電シタリ

二月十三日「バルフォア」外相ハ珍田大使ニ對シ二月九日本野大臣ヨリ三國大使ヘ内話ノ次第ハ「バ」外相ニ於テモ全然同意ニシテ八日同外相ハ支那公使ト面會ノ際同大臣私見トシテハ支那カ米國ノ提議セル措置ニ出ル事ニ賛成ナル旨述フルト同時ニ極東政策ニ於テハ英國ハ常ニ同盟國タル日本ト歩調ヲ一ニスルノ希望ナルニ付同大臣ハ支那政府ニ於テ本件ニ關シ日本ト交渉スル様希望スル旨同公使ニ對シ申聞ケ尙早速其ノ意味ニテ「グリーン」大使ニハ回訓シ置キタル趣内話スル處アリタルニ付大使ハ更ニ支那政府カ正式ニ帝國政府ノ意見ヲ求メ來リタルニ付本野大臣ニ於テ帝國政府限リノ意見トシテ前述ノ勸告ヲ繰返シ置キタル旨ヲ告ケ三國ノ回答ヲ俟タス右ノ措置ニ出テタル事情ニ關シ本野大臣訓示ノ次第ヲ程良ク申入レタルニ「バルフォア」外相ハ之ヲ諒トセリ尙大使ハ念ノ爲支那公使ノ問ニ對スル本野大臣ノ答ヲ援引シ我方勸告ノ趣旨ハ「支那政府ハ宜シ

ク更ニ一步ヲ進メ其ノ抗議ニ對シ獨逸ノ回答ヲ俟タス此際直ニ米國同様國交斷絶ノ途ニ出ツヘシト云フニ在ル旨ヲ述ヘタルニ「バルフォア」外相ハ英國側ニ於テモ全然右我方ノ意見ニ同意ナル旨ヲ述ヘタリ

二月十五日在本邦英國大使ヨリ本國政府ノ訓電トシテ英國政府ハ獨支國交斷絶ニ關スル本野大臣ノ意見ニ全然同意ニシテ在支英國代理公使ニ對シ獨支國交斷絶方支那政府ニ德通スル爲關係國代表者ト協同措置ニ出ツル權訓令セル由内報シ越シタリ

第六節 支那參戰條件ニ關スル日英ノ態度

同日在本邦支那公使本野大臣ヲ來訪シ支獨關係ニ付腹藏無ク意見ヲ開示セラレタル事ニ付感謝シ支那政府ハ對獨國交斷絶ニ決意シ抗議提出後獨逸潛水艇カ中立船舶ヲ擊沈シタル時ヲ以テ國交斷絶ノ時ト爲ス事トシタル旨通告シ「愈國交斷絶ノ曉ニハ市場ノ動搖或地方殊ニ回教徒ノ住ム地方ノ騷擾ハ免レサルヘク從ツテ既ニ困難ナル財政ハ益々窮乏ヲ告クヘキニ付此難局ヲ救フ爲關稅引上及團匪事件賠償金支拂延期ノ件ニ關シ日本政府並關係列國政府ノ考慮ヲ煩ハシタシ」ト述ヘタルニ付本野大臣ハ支那政府カ獨逸トノ國交斷絶ヲ決意セルハ甚タ満足スル所ナル旨ヲ述ヘ此ノ

際支那カ我カ聯合國側ニ立ツ事ハ支那ノ爲有利ナル所以ヲ再說シ關稅引上及團匪事件賠償金支拂延期ノ件ニ關シテハ熟考ヲ加ヘ置クヘキ旨答ヘ置キタリ

本野大臣ハ二月十七日在本邦支那公使ノ來省ヲ求メ「曩ニ支那政府ヨリ申出ニ係ル義和團事件賠償金支拂延期ノ件及關稅引上ノ件ハ主義上帝國政府ニ於テ大體異存ナキ處ナルモ先以テ支那政府カ獨逸ト國交斷絶ヲ決行スルヲ俟テ篤ト考慮ヲ加ヘ關係各國ヲモ勸誘シ支那ノ希望ニ副フ様盡力スヘキ」旨ヲ陳述セリ將又本件ニ關シ大臣ハ右回答ヲ支那公使ニ告クルニ先タチテ同日英佛露三國大使ノ來省ヲ求メ支那ニ對シ右ノ如キ陳述ヲ爲ス考ナル旨ヲ告ケ帝國政府ノ見ル處ニテハ兎モ角此ノ際支那ヲシテ速ニ國交斷絶ノ舉ニ出ラシムルコトトシ追テ其ノ聯合國ニ參加シ對獨宣戰ヲ布告スルニ至ラハ關係國政府ニ於テ支那政府希望ノ二點ニ關シ相當ノ満足ヲ與フルコトトスルノ外ナカルヘシト思考スル旨ヲ内話セリ

二月二十六日在本邦米國大使ハ在支英國代理公使宛英國政府電報寫ヲ内示シ本件ニ對スル帝國政府ノ意嚮承知シタキ旨申出テタリ右電報譯文左ノ如シ

在北京英國代理公使宛英國外務省電報

在英支那公使ノ要求次ノ如シ

一、若シ平和締結ノ際又ハ平和締結後ニ於テ獨逸ヨリ支那ノ中立違反者ハ同盟國側左擲ヲ理由トシテ問題ヲ提起スルコ

トアラハ英國政府ニ於テ支那力要望スル好意的援助ヲ與フヘキ旨保障セラルルコト
 二、戰後ノ列國會議ニ中立國ヲ招請セラルル場合ニ於テハ英國政府ハ必ス支那政府ヲ招請スルコト
 三、戰後ノ列國會議ニ於テ極東ニ關スル各種問題ノ討論セラルル場合ニ於テハ英國政府ハ支那政府ノ會議參列ヲ招請スルコト

四、賠償金支拂ヲ延期スルコト
 右ニ對シ英國政府ハ左ノ通回答セムトス

一、第一ノ要求ニ對シテハ

支那政府ニ於テ苦力募集ヲ許可シタルカ知ク今日ニ至ル迄編造ノ報復手段ヲ挑發スル行動ヲ執リタル範圍内ニ於テハ勿論今後編造ニ對シ敵對行為ニ出タル範圍内ニ於テハ支那政府ハ編造ノ賠償要求拒絶ニ關シ英國政府ノ援助ヲ期待スルコトヲ得ヘシ

二、第二ノ要求ニ對シテハ

中立國等ヲモ招請スル國際會議ノ召集ヲ延期スル理由ナキヲ以テ本件要求ニ關シ豫メ了解ヲ達ケ置ク必要ナカレヘシ

三、前記第二要求同種假定的ナル第三ノ要求ニ對シテハ

第二ノ要求ニ對スルト同様英國政府ハ豫メ了解ヲ達ケ置クヘキ地位ニ在ラス

四、第四要求ニ對シテハ

英國政府ハ支那ニ利害關係ヲ有スル同盟列國ト協議ノ上同情ヲ以テ支那政府ノ要求ヲ考量スヘシ而シテ支那ニシテ編造ノ利益ニ反スル行動ヲ執ルニ(從テ支那力英國政府ノ財政上ノ援助ヲ求ムルヲ正當ノ理由アルモノト認メラルル場合)於テハ本要求ハ必スヤ好意的ニ考量セラルヘシ

右要求ト同時ニ支那政府ハ左ノ要求ヲ佛國政府ニ提出セリ

一、支那政府借款

二、戰爭終了迄賠償金支拂延期

三、支那關稅引上

四、編造人放逐ニ必要ナルニ付一九〇〇年ノ取極ノ一部ノ效力ヲ一時的ニ停止スルコト即支那軍隊ノ專管居留地通過ヲ許可スルコト

是等最後列記ノ要求ハ日本政府ニモ亦提出セラレタルヲ以テ右ハ支那政府正式ノ要求ト見做シ得ヘシ而シテ支那政府ハ英佛兩國政府ニ對シ右要求ヲ提出スルニ當リ之ヲ以テ戰爭參加ノ必須條件トハ爲サザリシモ右要求ハ明ニ戰爭參加ノ條件トシテ提出シタルモノト見做ササルヘカラス

佛國政府ハ支那政府ニ對シ同政府ノ要求第一第三及第四ハ好意的精神ヲ以テ之ヲ考量スヘキ旨回答セムトスルモ第二要求ニ對シテハ提議ノ細目ヲ承知スル迄同答ヲ留保スルノ意圖ナリ

然リト雖モ英國政府ノ關スル限リ關稅引上問題ヨリハ寧ロ償還金支拂延期問題ニ對シ支那政府ニ讓歩セムトスルモノナリ「マッキー」條約ノ規定ニ遵據シ關稅引上ニ相當スル釐金稅ノ廢止ニ關シ支那政府トノ間ニ協定成立スルニ非スムハ貿易上ノ利益ハ大ニ害セラルヘシ從テ主義上ニ於テ本件ニ同意ヲ與フルコトモ篤ト考量ヲ經サルヘカラス

サレト商議ノ具引クコトハ支那ノ行動ニ障礙ヲ來シ且編造人ニ與フルニ對抗準備ノ時日ヲ以テスル所以ナルヲ以テ之ヲ遊止スル爲ニハ速ニ支那政府ヲシテ支那國文斷絶ヲ決意セシメ出來得ヘキムハ編造人放逐ヲ決行セシムルコト重要ナリ

兎ニ角支那政府ニ與ヘムトスル讓歩ハ支那政府力編造人對抗ノ措置ニ出タル場合ニ於ケル援助ニ外ナラサルヘキ旨並支那政府力確實ニ聯合國側ニ加擔スルコトヲ條件トスヘキ旨支那政府ヲシテ明瞭ニ了解セシムルヲ要ス

右ノ次第ニ付英國政府ハ支那政府ニシテ一度獨逸トノ國交ヲ斷絶シ其ノ結果トシテ若ハ其ノ後ノ敵對行為ニ依リ戰爭ニ參加スルニ至ラハ英國ノ利益ニ反セザル限リ好意ヲ以テ支那政府ノ要求ヲ商議セントスルモノニシテ若シ貴官ニ於テ右方針ニ對シ差シタル異議ナクハ貴官ナシテ聯合國代表者ト共同シテ談判開始方訓令スル積リニ付貴官ノ御意見可成速ニ電報アリタシ

二月二十八日日本野大臣ハ在英珍田大使及在露大使宛左ノ如ク電訓スル處アリタリ

各方面ヨリノ内報ニ依レハ現下ノ政局ニ直接間接參與セル主ナル支那政治家ハ獨逸トノ國交斷絶ニ傾キ居ルモノノ如ク唯一ノ障礙ハ大總統ノ反對ニアリ同總統ハ今回頗ル躊躇ノ狀アル處帝國政府ノ意見ニテハ支那ヲシテ完全ニ聯合國側ニ立タシメムカ爲ニハ聯合國側ハ恐ラク或ル時機ニ於テ支那ニ對シ強壓ヲ加フルノ要アルヘク而シテ聯合國側ニ於テ右ノ態度ヲ執ルニ決スル場合ニハ支那ニ對シ或ル利益ヲ提供スルコト並獨逸ノ侵略的行動ニ對シ將來聯合國側ニ於テ支那ヲ支持スヘキ保障ヲ與フルコト必要ナルヘシ蓋シ支那側躊躇ノ主タル理由ハ獨逸ニ對スル恐怖ニアルハ疑フヘカラサル所ナレハナリ依テ本大臣ハ聯合國側ニ於テ左記諸點ニ關シ意見ノ一致ヲ見ルコト絕對必要ナリト思考ス

- 一、國稅引上ニ關シ支那ニ對シ幾分満足ヲ與フルコト
- 二、相當條件ヲ定メ義和團事變賠償金支拂延期ニ應スルコト

三、獨逸ノ侵略的行動ニ對シ支那ニ對スル聯合國側ノ支持ヲ期待シ得ヘキ保障ヲ與フルコト

四、支那ニシテ獨逸ト交戰狀態ニ入ル場合ニハ獨逸支那ノ總テノ條約並外交上ノ取極ハ無効トナルヘキニ付支那トシテ獨逸ニ對スル義和團事變賠償金ヲ免カルルヤ否ヤノ問題ヲ研究スルノ要アルヘク何レニセヨ支那ハ戰爭中並ニ平和克復後ニ於テモ右債務ヨリ免カレムコトヲ欲スヘシ右ニ關シ帝國政府ニ於テハ若シ此點ニ關シ聯合國側ニ於テ何等支那ニ保障ヲ與フルコト可能ナルニ於テハ右保障ハ支那ヲシテ完全ニ聯合國側ニ立ツノ決意ヲ爲サシムル爲至大ノ價值アルモノト思考ス

以上ニ關シ帝國政府ハ成ルヘク速ニ任國政府ノ意見ヲ承知セムコトヲ望ム

右訓電ニ對シ在英珍田大使ハ三月二日外務次官「ラングレー」ニ面會先方ノ意向ヲ尋ネタルニ「本件ニ付テハ「グリーン」大使ヨリモ既ニ電報アリ英國政府モ大體日本政府ト同意見ナリ只義和團事變賠償金仕拂延期ノ件ハ事關庫ノ收入ニモ關スルニ付一應大藏省ニモ協議ノ要アリ既ニ其ノ手續中ナリ又關稅引上ニ關スル支那ノ要望ハ何分漫然タルモ英國政府ノ所見ニテハ其後ニ於ケル物價ノ變動ニ鑑ミ現行ノ從量稅ヲ實質的從價五分ニ引直スコトニモナラハ之ニ應シ然ルヘシトノ考ナリ何レ右議ノ意味ニテ不日回答ニ至ルコトナラン」ト答ヘ且目下ノ場合成ルヘク遲滯ナク與國間

ノ意見ヲ纏メ連ニ支那ノ所決ヲ見ル様致ス方然ルヘシト思考スル旨ヲ附言セリ珍田大使ハ同感ノ旨ヲ述フルト同時ニ最近ノ形勢ニ關シ北京ヨリ何等消息ノ有無ヲ尋ネタルニ英國側ノ情報モ大體我方ノ分ト同様ニテ大總統ノ躊躇カ主ナル障礙ナル如ク尙副總統モ大總統同様ノ態度ナリトノコトナリキ

三月七日更ニ在英珍田大使ハ英國外務大臣ニ面會シタル處外務大臣ハ「北清事變賠償金ノ點ニ關シ大藏省ヨリモ回答アリ既ニ「グリーン」大使宛ノ回調案出來居リ早速發電ノ運ヒニ至ルヘシ大體日本政府ノ提議ニ同意ノ意味ナリ」トテ其ノ要旨ヲ述ヘタルカ單ニ外交關係斷絶ノ爲ニ問題ノ諸點ニ對スル支那ノ要望ニ満足ヲ與フルコトハ無意義ニ歸スルニ付是非支那ヲシテ宣戰セシムルヲ要ストノ事ニ最モ重キヲ指キ居ル故珍田大使ハ「帝國政府ノ考モ大體同様ナルモノノ如シ」ト述ヘ且「問題ハ果シテ支那カ其處迄行キ得ルヤ否ヤニアリ最近ノ情報ニ依レハ大總統及副總統ハ外交關係斷絶ノミニヌラ尙ホ反對ノ意見ナリト云フ從テ此際餘リ早急ノ措置ハ或ハ支那内部ノ紛糾ヲ惹起シ聯合側究竟ノ目的ヲ阻害スルニ至ルヘキヤヲ恐ル」ト述ヘタルニ外務大臣ハ「其點ハ如何ニモ注意ヲ要スト思考スルモ若シ外交關係斷絶ノミニ終ルトセハ獨逸居留地ノ處分モ出來難ク又條約及外交上ノ協定等廢棄モ爲シ難カルヘシ」ト述ヘ如何ニモ此ノ際直チニ宣戰スルコト

ヲ以テ支那ノ希望事項容認ノ須要條件ト看做シ居ルヤノ語氣ニテ支那現時ノ狀態ニ照シ餘リニ急激ニ邁クト思考セラレタルニ付珍田大使ハ一己ノ私見トシテ「居留獨逸人ノ處分ハ畢竟支那ノ意志次第ニシテ必スシモ宣戰ノ結果ニノミ待ツモノニアラサルヘク現ニ今回米獨ノ國交斷絶ニ際シ獨逸政府カ在獨米國大使ヲ擁シテ兩國臣民ノ居住營業等ノ權利ニ關シ往昔ノ條約ノ規定確認ノ協定ヲ締結セシメントシタリトノ報アリ若シ事實ナリトセハ獨逸ノ意蓋國交斷絶ノ結果(必シモ開戰ヲ待タス)米國政府ニ於テ在米獨人ノ放逐ヲ行フコトアランヲ慮リ之ヲ防遏スルノ考ニ出テタルモノナルヘシ要スルニ居留民處分ノ爲ニハ外交關係斷絶以外尙宣戰ノ必要アリトノ理由ハ看出シ難キカ如シ將又條約及外交上ノ協定トテモ本使ノ素人觀ニ依ルニ宣戰ヲ待タス外交關係斷絶ノミニテ之ヲ破棄スルコト必シモ不可能ナラサルカ如シ現ニ日露戰爭ノ際朝鮮ハ露國トノ國交斷絶ノ結果トシテ露韓條約及各種ノ讓與ヲ廢棄シタルコトアリト記憶スル」旨ヲ述ヘタル處外務大臣ハ「若シ御話ノ如ク外交關係斷絶ノミニテ在留獨人ノ處分及條約廢棄ヲ爲シ得ルモノトセハ好都合ト思ハルモ此點ハ專門家ニ就キ考究ヲ要ス」トテ外務省副法律顧問ヲ呼入レタルニ顧問ハ「單ニ外交關係斷絶ニ止マリ夫レ以上ニ發展セナリシ場合ハ事實ノ問題トシテ其ノ例甚タ稀ニテ的確ノ說ハ立チ難キモ大體ヨリ云フトキハ單ニ外交關係斷絶ニ依リ居留民ヲ放逐シ又ハ國際條約ヲ

放棄スルコトハ穩當ナラスト思考スル」旨ヲ答ヘタリ

夫ヨリ外務大臣ハ語ヲ轉シテ「何レノ途ニモ或時機ニハ支那ニ對シ壓迫ヲ加フルノ場合モ生スヘクト思ハルル處伊太利ハ聯合國ノ一トシテ支那引入問題ニ付テハ我等ト同一ノ利害ヲ有シ且伊國ハ由來自家ノ地位ニ關シ頗ル神經過敏ナルヲ以テ其ノ感情ニモ顧ミ伊國ヲモ本問題ノ相談ニ加フルノ必要アルヘシト思ハル貴説如何」トノコトニ付珍田大使ハ私見トシテ「貴大臣ノ所言一應尤ナルモ例ヘハ今回支那ヨリ提出ノ希望事項中借款ノ件ノ如キ伊國ハ日英露佛等ト異ナリ是カ處理ニ關與スヘキ何等ノ權利モ行懸リモ無キ等ノ事實ニモ鑑ミ伊國カ我等四國ト同一ノ地位ニ立ツコトハ出來難カルヘシト思考スル」旨ヲ述ヘタルニ外務大臣ハ「右ノ點ハ實ハ考ヘ及ハナリシ所ナリ成ル程考慮ヲ要スル問題ト思フ」ト述ヘタリ

三月七日在本邦英國大使ハ左記要旨ノ英國政府覺書ヲ提出シ帝國政府ノ意圖ヲ問合ス處アリタリ英國政府ハ支那ノ戰爭參加ヲ確實ニスルノ目的ヲ以テ遲滯ナク處置ヲ執ルコトヲ緊急ノ必要トスル日本政府ノ所見ニ同感ナリ

此目的ヲ達センカ爲ニハ聯合國例ニ於テ單ニ或種ノ提案ニ對シ好意的考慮ヲ加フルヲ辭セサル旨ヲ言明スルノミニ止ムヘカラス必スヤ支那ニ對シ具體的提議ヲ爲スヲ要スト思料ス蓋シ今次ノ戰爭ヲ通シ列國間ニ於ケル協議渉ラサルカ爲ニ面白カラサル結果ヲ齎シタルノ例少ナカラス之ヲ以テ聯合國ハ此際敏速ニ行動スルコトヲ以テ最所要トス

英國政府ハ支那カ單ニ獨逸ト國交ヲ斷絶スルニ止マラス速テ獨逸ニ對シ戰ヲ宣スルコト(支那ニ於ケル獨逸人ノ拘禁若クハ追放ヲ含ムコト勿論ナリ)ヲ承諾スルヲ條件トシテ此際一ノ決定的提案ヲ支那ニ對シテ爲スヲ必要ナリト認ム

之ヲ以テ英國大使ハ日本政府ニ對シ下記ノ趣旨ヲ以テ支那政府ニ照會スルコトニ參加セラルヘキヤヲ確カムヘキ旨竝日本政府ニ於テ在佛露各日本代表者ニ對シ各自其英國同僚ヲ支持方訓令アラシコトヲ要求スヘキ旨緊急訓令ニ接シタリ

尙在佛露英國代表者ハ北京ニ於ケル共同行動ニ關シ佛露各政府ニ本件交渉方已ニ訓令セラレ居

レリ
即チ聯合國代表者ハ支那政府ニ對シ若シ支那ニ於テ獨逸ニ對シ宣戰スルニ於テハ聯合國政府

ハ
一、獨逸ノ侵略ニ對スル保障ヲ約スルコト

二、賠償金支拂ヲ戰後迄延期スヘキコト
 三、關稅率ヲ現實五分迄改定スルニ同意スヘキコト
 ヲ申入レントスルモノナリ
 尙英國政府ハ支那ニ對シ支那カ斷然獨逸ト交戰狀態ニ立ツニ至ラハ同國ノ右以外ノ要望ニ對シ
 テモ聯合國ニ於テ同情的考慮ヲ加フヘキ旨ヲ告ケ且對獨借款ノ利子及獨逸ニ對スル賠償金額ノ
 支拂ヲ免ルルコトノ財政上支那ニ取リテ甚有利ナル次第ヲモ聯合國代表者ヨリ支那政府ニ指摘
 センコトヲ提議ス

右覺書ニ對スル三月十五日附帝國政府回答書左ノ如シ
 帝國外務大臣ハ支那ノ對獨措置ニ付同國政府ニ對シテ爲サントスル照會ノ議ニ關シ英國政府ノ
 訓令ニ基キ英國大使閣下ヨリ三月七日附覺書ヲ以テ協議ノ次第ヲ閱悉セリ然ルニ右覺書接受後
 三月八日ニ至リ在本邦支那國公使ヨリ本國政府ノ訓令ニ基キ帝國政府ニ對シ覺書ヲ以テ對獨問
 題ハ目下各方面ノ更ニ疎通スルヲ待テ直ニ國交斷絶ノ舉ニ出テ必要ノ時ニ至テ再ヒ之カ擴張ノ
 方法ヲ講スルノ考ナル旨ヲ帝國政府ニ通告スルト同時ニ左記三點ニ關シ帝國政府格外ノ應援ヲ
 求ムルノ意ヲ致セリ

一、團匪事件賠償金中獨塊側ニ對スル分ハ永遠ニ之ヲ撤廢シ其協商國側ニ對スル分ハ支那財政
 ヲ援助スルノ好意ヲ以テ十ヶ年間之カ償還ヲ延期シ十年後ニ至リ原有金額ニ照シ毎年遞次還
 付シ利息ハ別ニ加ヘサルコト
 二、輸入關稅ニ關シテモ亦支那財政援助ノ見地ヨリ現在ノ稅率ニ照シ五割ヲ增加シ同時ニ支那
 政府ハ關稅價格表ノ改定ヲ行ヒ以テ現實七分五厘ト爲スコト尙他日支那政府カ釐金ヲ裁撤ス
 ルヲ待テ關係國政府ハ光緒二十八年二十九年及三十年ニ日英米諸國ト協定シタル通商條約ヲ
 實行シ關稅ヲ現實一割二分五厘マテ增加スルコトヲ承認スルコト但シ此場合ニハ子口半稅ノ
 徵收ハ之ヲ撤廢スヘシ
 三、團匪事件ニ關スル條約及附屬文書中ニ於ケル天津周圍二十支里内ニ支那軍隊ノ駐紮ヲ許サ
 サルコト及公使館護衛兵並關内鐵道守備隊ハ關係國政府ニ於テ之カ撤退ヲ承諾スルコト
 尙右支那政府希望ノ條件ヲ關係國政府ニ於テ承認ノ上ハ支那政府ハ協商國ニ對シ原料及勞働者
 ノ供給ヲ爲スヘキ旨ヲ聲明セリ
 右支那政府ノ提議ハ關係國政府ニ於テモ之ヲ受領セラレタル事ト信スル處帝國政府ニ於テ詳細
 審査ノ結果其申出中ニハ自カラ妥當ト認メラルモノアルト同時ニ又今回ノ問題ト何等關係ナ

キモノ及要求適當ナルモノヲモ含ムト認メラルルニ付帝國政府ハ關係各國政府ニ於テ異議ナ
キニ於テハ支那政府ニ對シ大要左記ノ趣旨ヲ以テ回答スルノ意向ヲ有ス尤第一及第二ハ支那カ
獨逸ニ對シ宣戰スルヲ俟テ始メテ實行セラルヘキモノトス

一、義和團事件賠償金ノ仕拂ハ歐洲戰爭終了迄延期スルコトヲ承諾スルコト

二、關稅問題ニ關シテハ關稅價格表ヲ改訂シ現實五分ニ相當スル様ナスコトニ主義上同意スル
コト

三、義和團事件ニ關スル最終議定書及附屬文書中ニ規定セル支那軍隊駐留及行動ノ制限ニ關シ
テハ支那政府ニ於テ獨逸人ノ取締上必要ナル限度ニ於テ歐洲戰爭中一時支那軍隊ヲシテ天津
ノ周圍二十支里以內ヲ出入セシムルコトニ同意スルコト

就テハ帝國外務大臣ハ支那政府ニ對シ回答ヲ爲スニ先テ豫メ英國政府ニ於テ右ニ異存ナキヤヲ
承知センコトヲ希望ス尙前記三點實行ニ關スル細目ハ追テ在北京關係使臣會議ニ於テ協議セシ
ムルノ要アルヘク帝國政府ハ英國政府ニ於テ是等三點ニ異存ナキニ於テハ同國政府ヨリ在北京
英國使臣ニ對シ右細目ノ協議ニ關シ豫メ必要ノ訓令ヲ與ヘ置カレンコトヲ希望ス尙英國大使閣
下ノ覺書中ニハ支那ニ向ヒ獨逸ノ侵略ニ對スル保障ヲ約スル件ヲモ含ミ居ル處右ハ帝國政府ニ

於テ毫モ異議ナキ所ナルモ今回支那政府ヨリ提出シタル覺書中ニハ此點ニ付明言セル所ナキヲ
以テ帝國政府ハ支那政府ニ對スル回答中ニハ之ニ言及セサル考ナリ將又英國大使閣下覺書末段
ニ擧ケラレタル獨逸ニ對スル借款利息及賠償金ノ仕拂ヲ免ルルコトノ支那ニ取り有利ナルコト
ヲ關係國代表者ヨリ支那政府ニ指摘スルノ件ニ關シテハ是亦帝國政府ニ於テ異存ナク支那カ右
免除ニ關スル希望ヲ達成セントスル手段ニ對シ之ヲ支持スルコトハ帝國政府ノ毫モ躊躇スル所
ニ非スト雖帝國政府ハ關係各國政府ニ於テ右免除ニ付何等保證ノ責任ヲ取ルカ如キ地位ニ立ツ
コトハ之ヲ避クル方然ルヘシト思考ス

二月九日附支那政府ノ對獨覺書ニ關シ三月十一日獨逸公使ハ獨逸政府ノ回答ヲ支那政府ニ交付ス
ル處アリタルモ支那政府ハ之ニ満足セス三月十四日國交斷絶ニ關スル通告ヲ獨逸公使ニ交付シ聯
合國公使ニ對シテハ愈々同日獨逸トノ國交ヲ斷絶シ獨逸公使及領事ニ旅券ヲ交付スル旨ヲ通告セ
リ同日大總統ハ對獨斷交ニ關シ大總統令及佈告ヲ發スル處アリタリ茲ニ於テ幾多ノ紛糾ヲ重ネタ
ル聯合國側ノ支那引入問題モ終結ヲ告ケタリ

第十七章 對支借款團問題

第一節 概 說

舊四國借款團トハ對支鐵道投資ヲ目的トシテ明治四十三年（一九一〇年）英米獨佛四國銀行家ノ間ニ成立セル投資團ヲ指稱スルモノナルカ右借款團ノ活動力日英兩國間ノ外交問題トナルニ至レルハ實ニ明治四十四年（一九一一年）四月十五日同借款團カ清國政府財政部ニ對シ幣制改革工業振興ニ關スル英貨一千萬磅借款契約ニ關印シタルニ發足ス該借款契約第五條ニ於テ擔保トシテ滿洲東三省ノ煙草及酒精稅生產稅消費稅其ノ他清國全省鹽附加稅ヲ舉ケ第十六條ニ於テ滿洲ノ企業ニ關スル四國團體ノ獨占的優先權ヲ認メ支那政府カ右目的ノ爲更ニ資金ヲ要スル場合ニハ先ツ四國財團ト協議スヘシト規定シタルヲ以テ從來此ノ地域ニ優越ナル地位ト權利トヲ有スル日露兩國ハ晏如トシテ之ヲ看過スル能ハス六月二十六日以降四國及清國ニ對シ第十六條ノ廢止又ハ修正ヲ求メタリ

同年十月武漢ニ兵亂起リ清朝退位シ中華民國成立シタル等ノ事情ノ爲四十萬磅ヲ交附シタルノミ

ニテ本件借款ハ發行ヲ見スシテ終レルカ同年末官軍兩軍間ニ第三回休戰ノ議成立シタル際即チ十二月十日袁救助ノ爲四國團體ヨリ少額貸出ノ件ニ付英國政府ヨリ帝國政府ノ内意ヲ訊シ來レルヲ以テ十二月十一日帝國政府ハ英國政府ニ對シ日露兩國ニ於テ清國借款ニ加入ノ權利アル次第ヲ申入レタル處英國政府ハ日本政府ノ申入レニ異議無キ旨回答シ來レリ本件袁救助借款談ハ其ノ後成立ノ運ニ至ラナラシ處明治四十五年（一九一二年）二月支那政府ヨリ四國借款團ニ對シ内政改革資金借款ヲ希望シ結局三百一十萬兩ノ前貸契約ハ日露兩國ヲ除外シテ成立セリ然ルニ其ノ後支那改革大借款（六千萬磅以內）問題發生スルヤ三月十八日四國銀行團ハ日露兩國ノ參加ニ異議ナキ事ヲ決議セリ日露兩國ハ意見交換ノ結果參加ニ決シ帝國政府トシテハ南滿洲ニ於テ帝國ノ有スル特殊權益ト本借款ニ關聯スル一切ノ事項カ何等抵觸セザルヘシトノ留保ノ下ニ參加ニ同意スル旨三月十八日四國政府ニ通告セリ右四國銀行團ノ態度ノ變化ハ蓋シ二月二十九日北京ニ起レル兵亂カ義和團事件ノ二ノ舞トナルヲ恐レ其ノ際ニ於ケル日露ノ支援ヲ得ムカ爲本借款契約ニモ日露兩國ヲ加入セシムルヲ得策ナリト思惟セルニ基クモノノ如シ日露兩國カ支那改革大借款ニ加入スルコトトナリタル結果六月十八日ヨリ二十日迄巴里ニ開催セラレタル六國團體代表者會議ニ於テ六國借款規約協定セラレタリ右四國カ既ニ爲シタル前貸金ハ

又兩國ニモ均シク割當テラル事トナリ日本銀行團ハ該借款團加入ニ際シ本借款ニ關スル事項カ南滿洲及南滿洲ニ接近セル東都內蒙古ニ於テ日本國カ有スル特殊權利及利益ニ何等不利益ノ影響ヲ及スコトアルヘカラストノ留保條件ヲ提出シ右ハ會議錄ニ記載スルコトトナリ四國代表ハ右ニ對シ別ニ意見ヲ表示スルノ立場ニ在ラサル旨附記スルコトトナレリ

大正二年（一九一三年）三月十八日米國ハ突如借款團ヨリ脫退ヲ宣言セリ其ノ表面ノ理由ハ右借款條件カ支那ノ行政的獨立ヲ侵迫シ米國ノ國是ニ反スト云フニアアルモ内實ハ米國カ借款團ニ依リ達セントセル日露抵制策カ實行困難ニ陥レルニ依ルモノト觀察セラレ居レリ

之ヨリ先即チ同年一月英國資本團ハ突如六國借款團ノ共同引受ハ政治借款ニ限ルヘシト提議シ九月二十六日經濟借款ノ除外ヲ宣言シ各國ノ自由行動ニ委ヌルニ至リシ爲五國借款團モ實質的ニハ殆ト解體ニ近キモノトナレリ英國カ右宣言ヲ爲セルハ脫退ニ依リ米國カ自由ニ如何ナル活動ヲ爲スヘキヤニ關シ懸念セルト英國内都ニ於テ對支借款ヲ香上銀行ニ壟斷セシムルコトニ付不滿多カリシニ基因スルモノナリ

此處ニ於テ列國ハ經濟借款ノ名ノ下ニ最後ノ對支利權爭奪戰ヲ開始シ英國ハ浦信（浦口—信陽）及沙興（沙市—興義）鐵道日本ハ四洩（四平街—洩南）長洩（長春—洩南）開海（開原—海龍）諸

鐵道借款權及海吉(海龍—吉林) 洮熱(洮南—熱河) 鐵道借款優先權ヲ得タリ
 世界大戰ノ結果一面米國內資力ノ膨脹ニ伴フ國外放資熱ノ勃興ハ米國資本家ヲシテ從來ノ消極政
 策ニ晏如タル能ハサラシメタルカ他方日本トノ協同モ亦必要ト認メタルヲ以テ曩ニ六國借款團ヨ
 リ脫退セル米國ハ再ヒ態度ヲ一變シ大正七年(一九一八年)七月新ニ日英米佛ノ新四國借款團組
 織ヲ提議セリ

右米國ノ提唱ニ基キ各國銀行團代表ハ巴里講和會議ノ際即チ大正八年(一九一九年)五月十一日
 及十二日巴里ニ會シ(一)將來ノ借款事業及一切ノ現存スル借款契約並ニ借款優先權ニシテ公募セ
 ラルヘキモノハ全テ共同事業トス但シ企業(鐵道ヲ含ム)ニ關スル契約及優先權ニシテ其ノ事業
 既ニ具體的ニ進行セルモノハ此ノ限リニアラス(二)各國團體ハ其ノ所有シ又監理スル一切ノ此ノ
 種ノ契約及優先權ヲ借款團ニ提供スヘキコト等ノ事項ヲ決議セリ日本ハ六月十八日附滿蒙除外
 要求ニ關スル覺書ヲ米國銀行團代表者「ラモン」ニ對シ提出シタル處同人ヨリ之ニ對シ反對
 的態度ヲ表示シ來リ更ニ八月初旬米國政府ヨリ公式ニ之ニ反對シ來レリ英國ハ帝國ニ對シ八月
 十一日日本ノ滿蒙除外要求撤回ヲ勸告セリ九月一日帝國政府ハ英國政府ニ對シ帝國ノ前記要求
 ヲ繰返シ主張セリ十一月二十日更ニ英國政府ヨリ帝國ノ留保ヲ不當ナリトスル覺書ヲ送附越シタ

ルヲ以テ大正九年(一九二〇年)三月十六日帝國政府ハ我方主張ヲ敷衍シ英國政府ノ再考ヲ求ム
 ル處アリタリ然ルニ英國政府ヨリ三月十九日依然帝國ノ留保ヲ不當ト認ムルト同時ニ借款團ノ活
 動力決シテ日本ノ經濟的生存及國防ノ安全ニ影響ヲ及スカ如キ事無カルヘキヲ力説シ來レルヲ以
 テ我方ハ四月十四日英國政府ノ右證書ニ信賴シ及他ノ二國ノ同意ヲ條件トシテ留保撤回ヲ聲明ス
 ルト同時ニ新タニ洮熱鐵道及同線ノ一地點ヨリ海港ニ至ル鐵道ニ關シ帝國ノ希望條件ヲ提出セリ
 即チ洮熱鐵道ヲ他日北方ニ延長スル場合ニハ日本ノ同意ヲ必要トスルコト及右兩鐵道ノ可成速ニ
 敷設ヲ見ルニ至ル事ヲ希望スルヲ以テ單獨出資モ苦シカラス又京奉鐵道ト交叉スル點ニ於テハ英
 國資本家ノ協力ヲ得ル爲英國政府ノ援助ヲ期待スル等ノ條件ナリ

四月二十八日英國政府ハ帝國ノ留保撤回ニ満足ノ意ヲ表スルモ洮熱鐵道ニ關スル新條件ニハ不贊
 成ヲ稱ヘ來レリ依テ洮熱鐵道ニ關スル條件ニ付テモ帝國政府ハ之ヲ固執セス五月十日附撤回ノ覺
 書ヲ提出セリ

帝國ノ滿蒙除外要求ノ爲停頓ノ姿ニアリタル新借款團問題モ我國ノ主張全部撤回セラレタル後ハ
 一海千里ノ勢ヲ以テ關係各國間ノ了解進行シ同年十月中旬紐育ニ於ケル四國財團代表者會議ニ於
 テ新四國借款團規約成立セリ南滿洲鐵道及其ノ現在ノ支線ハ同鐵道附帶事業タル鑛山ト共ニ新借

款團ノ範圍ニ屬セザル事トナリタルモ日本ハ(一) 洗南熱河間鐵道及同鐵道ノ一地點ヨリ海港ニ至ル鐵道(二) 高徐及濟順鐵道(三) 第一次善後借款續款ニ關スル利權ヲ借款團ニ提供セリ

第二節 湖廣鐵道借款

明治四十三年(一九一〇年)十一月十日英佛獨米ノ四國銀行家ハ對支鐵道投資ヲ目的トシテ規約ヲ締結セリ之所謂舊四國借款團(Old Consortium)ニシテ大正九年(一九二〇年)十月十五日ニ成立セル對支一般投資ヲ目的トスル英米日佛四國銀行家間ノ新四國借款團(New Consortium)ト新舊相對應スルモノナリ
舊四國借款團ノ成立ハ湖廣鐵道借款ニ由來スルモノナリ右經過ヲ細說スレハ明治四十二年(一九〇九年)一月獨亞銀行カ單獨ニテ湖廣鐵道借款ヲ引受ケタルニ對シ香港上海銀行カ印度支那銀行ヲ誘フテ右共同分擔方ヲ申出テ茲ニ英獨佛ノ三國銀行家ノ協定成立スルヤ同年六月六日右三國銀行家ト支那政府トノ間ニ湖廣鐵道借款ノ引受ニ關スル契約調印セラレタリ仍テ之ヲ契機トシテ同年七月六日右三國銀行家ノ間ニ將來支那ノ鐵道借款引受ニ關スル一般協定ヲ締結セリ之即チ舊四國借款團ノ前身ナリ

然ルニ其ノ後間モ無ク米國銀行家ヨリ湖廣鐵道借款ニ參加ノ申出アリ爲ニ複雜ナル交渉ヲ重ネタル結果翌明治四十三年(一九一〇年)五月二十三日英米獨佛ノ四國銀行家ノ間ニ米國銀行家ヲ湖廣鐵道借款ニ參加セシムル協定成立セリ茲ニ於テ曩ノ一般鐵道借款引受ニ關スル三國協定モ之ヲ擴充スルコトトナリ同年十一月十日四國銀行家ノ間ニ懸案中ノ湖廣鐵道ヲ除キ將來ノ對支鐵道投資ニ關シ各自ニ於テ遵守スヘキ規約定メラレタリ是所謂四國借款團ナリ
本規約ハ前文ニ於テ當事者ヲ右ノ如ク掲記セリ

英國 中英公司 (The British and Chinese Corporation Limited)

英佛 華中鐵路公司 (Chinese Central Railways Limited)

佛國 印度支那銀行 (Banque de l'Inde-Chine)

獨國 獨支鐵道會社 (Deutsch-Chinesische Eisenbahn Gesellschaft M. b. H)

米國 「モルガン」商會 (J. P. Morgan & Co.) 「ターナー・ロート」商會 (Kuhn, Loeb & Co.)

「ファースト・ナショナル・バンク」 (The First National Bank) 「ナショナル・シティ・バンク」 (The National City Bank)

第二條ハ本規約ノ對象トスル支那ノ借款ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ(4) 鐵道ヲ目的トスル借款

ニシテ (ロ) 支那政府、政府ノ各部、會社 (支那政府若クハ地方政府ノ保證アルモノニ限ル) トノ契約ニ係リ (ハ) 支那以外ニ於テ發行スルモノナルコトヲ條件トシ (ニ) 湖廣鐵道ニ關スル借款ヲ除外セリ

湖廣鐵道借款ハ其ノ後支那政府トノ交渉滋滯シ翌明治四十四年 (一九一一年) 五月二十日ニ至リ漸ク調印ノ運ヒトナレリ

然ルニ之ヨリ先明治四十三年 (一九一〇年) 十月二十七日米國銀行家カ單獨ニテ支那政府ト契約セル幣制改革及滿洲開發ニ關スル借款ハ必シモ右四國借款團ノ活動範圍ニ屬スルモノニアラザリシモ米國ヨリ借款團ニ屬スル他ノ銀行家ニ對シ右借款ニ參加ヲ招請セル結果翌明治四十四年四月十五日借款團ニ屬スル英米獨佛ノ四國銀行家ト支那政府トノ間ニ幣制借款カ正式ニ調印セララルニ至レリ

第三節 幣制改革及滿洲開發借款

幣制改革及滿洲開發借款ハ明治四十三年 (一九一〇年) 十月二十七日米國銀行團カ單獨ニ支那政府ト豫備契約ヲ締結セルモノナルカ其ノ起源ニ於テハ日露戰直後滿洲ニ對シテ試ミラレタル米國

ノ投資運動ト密接ナル關係アリ右運動ノ繼續ト觀ルヘキモノニシテ即チ「ノックス」ノ弗外交ノ一表現ニ外ナラサルモノナリ

本共同借款ノ成立ニ關シテモ米國政府ハ大ニ斡旋スル處アリ即チ豫メ明治四十三年十月二十七日米國政府ハ清國政府ト米國「モルガン」商會「クーン、ロエブ」商會「ファースト、ナショナル、バンク」「ナショナル、シチー、バンク」トノ間ニ米貨五千萬弗年利五分ノ幣制改革及滿洲開發 (to facilitate certain changes in the administration of Imperial and Manchurian Finance and to undertake certain Industrial Enterprises in Manchuria) ノ假借款契約ヲ成立セシメタル上英佛獨三國ノ資本團ニ對シ之ニ參加方ヲ勸誘シ翌明治四十四年四月十五日前記假契約ヲ基礎トシ英米佛獨四國共同シテ清國政府ニ對シ英貨一千萬磅以內 (年利五分期限四十五ケ年) ヲ貸與スルノ契約ヲ締結シタリ本借款ノ使途ハ契約ニ據レハ幣制ノ改革及統一並ニ滿洲ニ於ケル産業ノ増進及擴張 (to reform, and to render uniform to currency system in accordance with a program which has been prepared, and to undertake certain Industrial Enterprises in Manchuria) ニ資スルニアリ擔保ハ滿洲ニ於ケル煙酒稅及消費稅及生產稅ト支那全土ニ於ケル新鹽稅附加稅トニシテ支那政府カ元利ノ償還ヲ怠リタル場合ニハ直チニ是等ノ擔保財源ヲ海關ノ管理ニ移スモノトストア

支那政府ハ契約調印直後契約第八條第四項ニ基キ同年五月六日滿洲開發ノ爲ト稱シ詳細ナル目論見書ヲ添付シ四十萬磅ノ前借ヲ申込ミ五月十三日銀行團ノ承諾ヲ得其ノ交付ヲ受ケタリ然ルニ右契約ノ内容ニ關シテハ本邦側ニ於テハ當時何等承知スル所ナク真相探查中ナリシ處偶々同年五月二十三日佛國政府ヨリ同借款ノ擔保(滿洲諸稅ヲ含ム)並ニ使用方法細目等ニ關スル内情ヲ打明ケ同國政府ノ方針確定前日露兩國政府ノ意見承知シ度キ旨申出アリ次テ同月二十六日在英加藤大使ニ於テ英國外務大臣ヨリ滿洲ノ企業ニ關スル四國團體ノ獨占的優先權ノ規定(同借款契約第十六條)ノ寫ヲ入手シタルニ依リ茲ニ該借款ニ關スル重要事項ノ大體ヲ知悉スルヲ得ルニ至レリ

依テ日露兩國政府ハ篤ト打合セテ遂ケタル末帝國政府ノ意見通リ滿洲諸稅ノ擔保ニ關シテハ異議ヲ提出セサルコトトナシ滿洲企業方案ニ關シテハ日露ノ權利々益ヲ害セラレサルヲ條件トシテ大體之ヲ是認シ只同借款契約第十六條ノ規定ハ是非共之カ修正ヲ要求シ以テ四國ノ獨占ヲ破ルヘキコトニ方針決定シ六月二十六日附ヲ以テ兩國同時ニ右ノ趣旨ノ回答ヲ佛國政府ニ致シ一面英米獨三國政府ヘモ佛國政府ヘ回答ノ次第ヲ說示シ右第十六條ノ廢止又ハ修正ニ助力方交渉ヲ開始シタ

越エテ八月二十八日英國政府ヨリ左記公文ヲ以テ英國政府ニ於テハ米佛獨三國政府ト協議ヲ遂ケタル末日露兩國ノ懸案ヲ除ク爲四國政府側ヨリ第十六條ハ獨占的規定ニ非ル旨並ニ此ノ如キ獨占權ニ對スル要求ハ關係各國政府ニ於テ之ヲ支持スルコト無カルヘキ旨ノ一種ノ自制的宣言ヲ發スルコトト致シ度キ趣日露兩國政府ヘ照會アリタルモ兩國政府ハ依然第十六條ノ削除又ハ修正ヲ主張セサルヲ得タル旨十月三日ヲ以テ英國政府ヘ回答セリ

明治四十四年八月二十八日附英國外務大臣ヨリ在英加藤大使宛

照會文

英國外務大臣ハ滿洲ニ於ケル日露兩國ノ特殊利益カ借款契約第十六條ニ依リテ損害ヲ被ラサル様ニシ以テ同條ニ對スル兩國ノ故障ヲ除去スル方法ヲ案出スル爲米佛獨政府ト協議ヲ遂ケタルカ最初ニハ

關係諸國政府ノ解釋スル所ニ依レハ本契約第十六條ハ第八條ニ依リ度支部ヨリ銀行團ニ交付セラルヘキ明細書ニ記載セル滿洲ニ於ケル特定事業ニノミ適用セラルヘキモノニシテ日露兩國政府ノ懸念セラルルカ如キ獨占權ヲ設定シ又ハ設定セムコトヲ期スルモノニアラス

此ノ如キ獨占權ニ對スル要求ハ例令銀行團ニ於テ之ヲ爲スモ關係各國政府ニ於テ之ヲ支持スルコトナカルヘシ

ナル宣言ヲ契約ニ挿入又ハ附屬セシムルコトトシ且同宣言ヲ兩國政府ニ通知シ同意ヲ求ムル案アリタルモ其後ニ至リ契約ニ何等附加スルコトハ差支アルヘク寧ロ各團體ヲシテ前記ノ如キ宣言ニ同意ナル旨ヲ正式ニ其ノ政府ニ申出シメ而シテ後前陳ノ通ノ宣言ヲ日露兩國ニ通知スル方可然トノ意見トナレリ尤實際右ノ手段ニ先チ斯ル宣言カ日露兩國ニ依リ満足ト考ヘラルヘキヤ否ヤヲ確ムルコトニ決セリ就テハ貴大使ヨリ日本政府ノ意見ヲ確メラレタク該宣言ニハ契約書及契約調印ノ日ニ團體ニ交付セラレタル「スタートメント」寫ヲ添付スヘク尤右書類ハ已ニ公然日本國政府ニ通知セラレタリト了解ス尙本件ハ多少急ヲ要スルニ付電報ニテ經伺セラレタク露國政府ヘモ同意ニテ照會シツツアリ

前述ノ如ク四國銀行團ハ右幣制改革借款金額中ヨリ前貸トシテ四十萬磅ヲ支那政府ニ交付シタルモ爾來辛亥革命ノ結果清朝覆滅セル爲同借款契約ハ其ノ實行ヲ見ルニ至ラス一面日露兩國ノ抗議問題モ其ノ儘ト成リ現ニ明治四十五年三月十二日ノ支那改革借款ニ關スル四國團體倫敦會議ニ於テモ支那假政府ニ對シ一年以内即チ十月十五日迄幣制借款發行期限延期方ヲ求メ同時ニ前記ノ前

貸金四十萬磅ノ償還ヲモ亦延期スヘキコトヲ決議セリ

帝國政府ニ於テハ改革借款參加問題ニ關聯シ露國政府トノ間ニ幣制改革借款一件ニ付テモ意見ノ交換ヲ行フ所アリシカ四月二十六日我カ資本家代表者ニ對シ必要ナル訓令ヲ發スルニ當リ幣制借款ニ付テハ「同借款契約第十六條ノ規定削除セララルカ又ハ滿蒙ニ關スル我留保ニシテ成立スルニ於テハ我資本家團體ヲシテ該幣制借款契約ニ參加セシメ度本件ニ付テハ露國政府ニ於テモ同一ノ意見ヲ有シ居ル」旨電訓シ尙右ニ附帶シテ別ニ新タニ幣制改革ニ關スル借款ヲ起スコトト成ル場合ニハ我ニ於テモ必ス之ニ參加スヘキ意向ナルコトヲ含置クヘキ様訓令シ又露國政府ヨリモ略同様ノ訓令ヲ其ノ資本家代表者ニ與ヘタリ

然ルニ五月十六日ノ倫敦會議ノ際ニハ幣制借款問題ハ其ノ議ニ上ラスシテ終リタルカ其ノ後我方ニ於テ入手セル四國團體限リノ五月十四日十五日會議錄ニハ同借款契約ノ變更廢棄又ハ之ヲ改革借款中ニ包含セシムルコトト爲スヤ否ヤノ問題ハ日露兩國參加問題決スル迄其ノ攻究ヲ延期スヘキ旨ノ決議記載シアリ又六月二十日ノ巴里會議ニ於テ修正ノ上可決セラレタル六國銀行團發在北京代表者宛五月十五日附電報中ニハ改革大借款ノ内ヨリ幣制改革借款前貸金四十萬磅ヲモ償還スルコトト爲スヘキ旨記載アリ尙右巴里會議ノ閉會ニ際シ幣制借款ヲ六國團體ヘ移ス件ヲ審議ニ附

スヘキヤ否ヤ座長ヨリ申出アリタルモ露國代表者ヨリ本件ハ次ノ會議迄延期方提議シタル爲其ノ儘ニテ散會セリ

其ノ後十月ノ交支那側ヨリ幣制借款ニ關シ佛國側ニ對シ内談ノ模様アリタル際我方ニ於テハ在北京四國公使並ニ四國銀行團代表者ノ内話ニ據リ關係四國何レモ日露兩國ノ幣制改革借款參加ニ異議ナキコトヲ確メ得タルカ一面四國側ニ於テハ前記四十萬磅ノ償還方ハ更ニ十月十五日ヨリ向六ケ月間之ヲ延期スヘキコトニ決定シ借款發行期限モ其ノ結果一九一三年四月十五日迄延期シタル趣ナリ

之ヨリ先十月十日在本邦露國大使ヨリ本國政府ノ訓令ニ基キ幣制借款商議參加問題ニ關スル帝國政府ノ意見ニ付問合セアリ且露國政府ハ本件ニ付日露一致ノ行動ヲ執ルヲ望ム旨申出アリタルニ依リ帝國政府ニ於テハ同借款契約第十六條ハ之ヲ削除シ其ノ他同借款契約中借款ノ目的抵當物等總テ滿洲關係ノ事項ヲ一切削除シ之ヲ純然タル幣制借款ニ改造シ以テ他ノ四國資本家ト同等ノ當事者トシテ之ニ參加センコトヲ欲シ露國政府ノ内意ヲ確メタル處露國政府ニ於テモ全然帝國政府ノ意見ニ同意ヲ表シタリ

尙前記ノ如ク支那政府ハ契約調印後本契約ニ基キ四十萬磅ノ前貸金ノ交付ヲ受ケタルカ本借款ハ遂ニ發行セラレスシテ終リタル爲右前貸金ハ大正二年（一九一三年）四月二十六日成立ノ改革借款中ヨリ償還セラレタリ

第四節 袁援助借款及改革借款

明治四十四年（一九一一年）十二月十日（即チ官革兩軍ノ間ニ第三回休戦ノ議成立シタル當時）在本邦英國大使「マクドナルド」ハ本國政府ノ訓令ニ依リ内田大臣ニ會見ノ上英國政府ニ於テハ清國政府ニ對シ一時財政上ノ援助ヲ與フルニアラサレハ今ヤ折角開始サルヘキ官革間ノ協商モ成功ノ望ナキニ至ルヘシト思考スルニ付英佛米獨四國團體ヨリ清國政府ニ對シ少額ノ貸出ヲ行ハシテムトスルノ意アル旨ヲ内話シタルニ依リ同大臣ハ右ノ措置タル革命軍ノ反感ヲ招キ却テ官革協商ヲ困難ナラシムルト共ニ英國政府カ四國ノミノ力ヲ以テ時局ノ救済ヲ行ハントスルハ恰モ日露兩國ヲ除外シテ清國ノ大事ヲ料理セントスルモノノ如クニモ思ハレ兩國々民ニ極メテ不快ノ感ヲ與フルノ虞モ無キニアラサル趣ヲ指摘シ私見トシテ述フルト共ニ更ニ同月十一日山座代理大使ヲシテ日露兩國ニ於テ清國借款ニ加入ノ權利アル次第ヲ英國政府ニ申入レシメタル處英國外務大臣ハ本件ハ清國政府ヨリ過般四國團體ニ三百萬兩ノ借款ヲ申込ミ來リタルニ基クモノナルヲ陳ヘ英

國政府ニ於テハ日本國ノ本借款參加ニ對シ毫モ異議無キ旨言明セリ
 次テ同月十四日帝國政府ハ英國政府ニ對シ本件借款ニシテ愈々成立ノ運ト成ラハ帝國政府ニ於テ
 モ特ニ本借款ノ政治的性質ニ顧ミ從來ノ四國借款ニ關スル一般的問題ヲ離レテ之カ參加方ヲ考慮
 スルニ躊躇セサルヘキ旨ヲ申入レタリ又同月十五日在北京英佛獨米露日六國公使會議ノ席上ニ於
 テモ英佛獨米各國公使ハ何レモ此ノ際此ノ種借款ハ從來ノ四國借款問題ト分離シ國際的基礎ニ置
 クコトニ贊成セリ

然ルニ本件借款談ハ其ノ後成立ノ運ニ至ラサル内明治四十五年(一九一二年)二月十二日清帝退
 位共和政府組織ノ大政變ヲ見ルニ至リタル處二月下旬支那政府ハ在北京英佛獨米四國銀行團代表
 者ニ對シ更メテ支那ノ內政改革ニ要スル資金ノ借款談ヲ開キ同月二十八日銀行團ハ不取敢二百萬
 兩ヲ支那政府ニ前貸シ三月九日臨時大總統袁世凱トノ書面ノ交換ニ依リテ更ニ百一十一萬兩ノ前貸
 ヲ行ヒ右書面ニ於テ(一)前記四國ノ前貸合計三百一十一萬兩ハ鹽稅收入ヲ擔保トスルコト(二)四國
 銀行團ハ今後ノ月割經費供給ノ選擇權及支那改革大借款引受ノ優先權ヲ有スヘキコト等ヲ規定シ
 タリ

次テ三月十八日四國銀行團本部ハ倫敦ニ會議ヲ開キ支那改革大借款ハ鹽稅ヲ擔保トシ五ヶ年ニ跨

リ六千萬磅ヲ超ヘサルコト借款金額支途監督方法ヲ講スルコト日露兩國ノ參加ニ異議ナキコト等
 ヲ決議セリ

之ヨリ先三月初旬英國政府ハ前記ノ通り前年十二月十四日帝國政府ヨリ參加問題ニ付聲明ノ次第
 モアリ旁々在本邦英國大使及在北京英國公使ヲ通シテ本邦資本家團體ノ參加方内意問合セ來レル
 ニ依リ帝國政府ニ於テハ露國政府トノ間ニ篤ト意見ノ交換ヲ行フ所アリシカ間モ無ク獨國(三月
 八日)ヲ初メトシ英(同月十三日)米(同月十四日)佛(同月十七日)各國政府ヨリモ支那改革
 借款參加方ニ付正式ノ招請アリ又露國政府ヘモ同様ニ正式招請アリタルヲ以テ日露兩國政府ニ於
 テモ愈々自國資本家ヲシテ關係各國資本家團體ト均等ノ割合ヲ以テ本借款ニ參加セシムルコトニ
 決定シ帝國政府ニ於テハ本借款ニ關聯スル一切ノ事項ハ南滿洲ニ於テ帝國ノ有スル特殊權利及利
 益ト何等抵觸スルカ如キコトナカルヘキヲ當然期待スル旨留保ノ下ニ參加ニ同意スル趣三月十八
 日前記四國政府ニ回答シ(露國政府ニ於テモ北滿洲蒙古及西部支那ニ於テ露國ノ有スル特殊權利
 及利益ニ付同様ノ留保ヲ爲セリ)且橫濱正金銀行(The Yokohama Specie Bank Limited)ヲ本
 邦資本家團體代表者ニ指定シタリ因ニ露國政府ハ露亞銀行(The Russo-Asiatic Bank)ヲ指定セ
 リ

支那改革借款團參加ニ關スル在本邦英國大使宛帝國政府回答書

(明治四十五年三月十八日附)

以書翰啓上致候陳者本月十三日附貴翰ヲ以テ貴國政府ノ訓令ニ依リ支那改革借款參加方ニ付帝國政府ニ對シ正式御招請ノ趣致敬承候尙同時ニ閣下ヨリ本借款ニ關スル豫定ノ大綱ヲ示サレ且右金額並條件等ニ關スル細目ハ資本家團體ニ於テ各自ノ政府ト協議ノ上支那政府トノ間ニ商議セラレヘキ筈ナル旨御通報相成委細致聞悉候

帝國政府ニ於テハ本件ニ關スル事情ヲ考慮シ前記借款ニ參加スルコトニ同意シ橫濱正金銀行ヲ本邦資本家代表者ニ指定シ右細目條件ニ關シ商議ヲ遂ケシムルコトニ取計候間右様御了知相成度尤モ帝國政府ニ於テハ本借款ニ關聯スル一切ノ事項ハ南滿洲ニ於テ帝國ノ有スル特殊權利及利益ト何等抵觸スルカ如キコト之ナカルヘキヲ當然期待スル次第ニ有之候間爲念申添候

右御回答旁本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

然ルニ支那政府ハ三月十四日別ニ所謂白耳義團體ト一千萬磅ノ新借款契約ヲ締結シタルコト發見セラレタルニ依リ英佛獨米四國公使ハ嚴重ナル抗議ヲ外交部ニ提出シ前記三月九日ノ取極違反ヲ詰責スルニ至リ四國團體トノ商議ハ茲ニ一時中絶ノ姿ト成リタルカ種々交渉ヲ經タル後四月二十

七日ニ至リ右白耳義借款ハ之ヲ取消シ已ニ授受セル金額ハ今後四國銀行團側ヨリ借入ルヘキ金額中ヨリ償還スヘキ旨支那政府ヨリ四國側ニ聲明シ兎ニ角本件紛糾ノ一段落ヲ告タルヲ得四國銀行團トノ借款交渉ハ再ヒ開始ノ運ヒニ立至レリ

仍テ四國銀行團ハ五月二日今後前貸ノ條件トシテ擔保ハ前記三月九日ノ書面通りニテ且鹽稅徵收法ノ改正ヲ行フコトトシ外ニ外國人監査役ヲ置クコト外國武官立會ノ上軍隊ノ解散ヲ行フコト等ノ監督條件ヲ提出シタル處支那側ハ到底之ニ應スルノ意嚮ヲ示サス監督條件對案ノ提出ヲモ肯セス爲ニ交渉ハ行備ミニ陥リタルカ熊希齡唐紹儀ニ代リテ借款交渉ノ任ニ當ルヤ五月七日始メテ銀行團代表者ト會見ヲ遂ケ商議ノ末五月十七日ニ至リ會計監査局ノ設置各省軍隊ニ對スル支給及其ノ解散ノ監督等七ヶ條ヨリ成立スル前貸支途監督規程ナルモノヲ定メ又前同通り鹽稅ヲ擔保トシ且又前記三月九日附書面ノ精神ヲ嚴守スルコト並ニ四國團以外ヨリスル地方官憲ノ借款ハ之ヲ許可セサルコトヲ條件トシテ更ニ二百萬兩ノ前貸ヲ行ヒ右三百萬兩ハ是迄ノ前貸合計三百十萬兩ト一併ニ取扱フコトニ取極メタリ尙右三百萬兩前貸ノ際四國團ハ日露兩國トノ協定成立次第兩國銀行團ニ於テ已往前貸ニ遡リテ各六分ノ一宛參加スヘキコトヲモ正式ニ支那側トノ間ニ取極ヲ了シタリ次テ四國團ハ大體前記同様ノ監督條件ノ下ニ六月十二日及同月十八日ノ兩度各三百萬兩ノ前貸ヲ

行ヒタルカ之ニテ四國團ノ前貸總計千二百十萬兩ト成リ右金額ニ對シ期限一ケ年割引歩合百分ノ六手數料百分ノ一半即チ九十二半ノ割合ヲ以テ財政部證券百八十萬八千六百十四磅十七志三片ヲ受取ルヘキコトニ四國團ト支那政府トノ間ニ契約成立シタリ

之ヨリ先五月十五日及十六日ノ兩日日露兩國ヲ加ヘタル六國團體代表者ハ倫敦ニ第一回會議ヲ催シ更ニ六月八日及九日巴里ニ第二回會議ヲ開キ討議ノ結果(一)普通ノ銀行取引小口借款並ニ支那中央及地方政府ノ保證ヲ有スル會社借款ニシテ公衆ニ發行セサルモノヲ各國團體共同參加ノ範圍外ニ置クコト(二)露國ハ白耳義ニ於テ其ノ分擔額ノ三分ノ一迄ヲ發行シ得ルコト(三)各國團體ハ其ノ分擔額ノ全部又ハ半額ヲ六國團體ニ屬スル他ノ團體ニ委託シテ發行スルヲ得ルコト等ニ付決定ヲ見タリト雖帝國政府ニ於テ南滿洲及之ニ近接スル蒙古地方ニ對スル我カ特殊ノ關係ニ鑑ミ我カ代表者ヲシテ提案セシメタル滿蒙ニ關スル留保ニ就テハ容易ニ折合付カサリシカ幾多ノ曲折ヲ經テ六月十八日ヨリ二十日迄巴里ニ開催セラレタル第三回會議ニ於テ結局我カ提案通り「日本國銀行團ハ本借款ニ關スル事項ハ南滿洲及南滿洲ニ接近セル東部內蒙古ニ於テ日本國カ有スル特殊權利及利益ニ何等不利益ノ影響ヲ及ホスコトアルヘカラストノ了解ノ下ニ本借款ニ參加スルモノナルコト」ノ留保ヲ會議錄ニ記載シ之ニ對シ英佛米獨四國代表者ニ於テハ各國團體ハ政治上ノ

問題ヲ處理スルノ權限ナキヲ以テ此等ノ聲明ニ對シ其ノ意見ヲ表示スルノ地位ニアラサル旨ノ附記ヲ爲スコトニ決シ之ト同時ニ露國側ノ提出セル北滿洲蒙古及西部支那ニ關スル我ト同様ノ留保及脫退權留保ノ提案ニ修正ヲ加ヘテ各國團體共借款又ハ前貸ノ用途カ自國ノ利益ニ抵觸スル場合ニ於ケル脫退ノ權利ヲ留保スルコトトナリ茲ニ六國團體ノ意見全然一致シ六國團體契約ノ成立ヲ見ルニ至リ日露兩國銀行團ハ已往前貸ニ遡リテ他ノ四國團體ト均等ノ負擔ヲ爲スコトトナレリ

大正二年(一九一三年)三月十八日米國政府ハ支那借款ニ對スル新政綱ナルモノヲ發表シ六國借款團ニハ今後參加スルノ必要ヲ認メサル旨聲明シ同月十九日米國資本家團體モ亦脫退ニ關シ宣言スル處アリタリ

第五節 新借款團ノ成立

第一項 新資本團創設ニ關スル英國政府ノ提議

大正五年(一九一六年)四月英國政府ヨリ帝國政府ニ對シ現五國團ヲ改造シ若クハ新資本團ヲ創設シ且新資本團ニ米國團體ヲ加入セシメンカ爲先ツ米國政府ニ交渉方ニ關シ提議シ來タリタル處其ノ後右提議ノ次第世上ニ流布スルヤ往々之ヲ以テ英國ハ米國資本ノ力ヲ借りテ日本ノ對支活動

ヲ抑制セムトスルモノナリトノ論ヲモ見ルニ至リタルニ七月九日在本邦英國大使ハ石井外務大臣ニ對シ英國外務大臣ニ於テハ資本團改造ノ爲日本ノ利益カ阻碍セララルカ如キ結果ヲ來サシムヘキモノニアラサルハ十分之ヲ諒得シ居レル處ナル旨同大臣ヨリ通知ニ接シタル趣申越シ次テ又同月十六日在本邦英國大使館參事官ヨリ幣原次官ニ對シ英國外務大臣ニ於テハ日本國政府ノ同意又ハ日本國輿論ノ贊同ヲ得ルニアラサレハ本件ニ關シ米國政府ニ交渉ヲ試ムルノ意ナク又本件ヲ議スルニ當リ日本ヲ阻碍セムトスルカ如キ考ハ毛頭無之旨申越シタリ

同月三十一日在英大使ハ帝國政府ノ訓令ニヨリ英國外務大臣ニ對シ右資本團改造問題ニ關スル帝國政府ノ所見ヲ申入レタル後從來支那財政ノ不安固カ日本ノ商工業ニ及シタル最直捷且激甚ナル影響ニ顧ミ且ハ英國外務大臣ニ於テモ夙ニ諒認セラレ居ル支那ニ於ケル日本ノ特殊地位ヲ考量スルトキハ英國政府ニ於テ來ルヘキ新支那借款ノ擔保又ハ使途ニ付相當ノ監督ヲ行フノ任ヲ託セラレヘキ外國人トシテハ是非共日本人ヲ推薦セムトスル帝國政府ノ希望カ充分理由アルヲ看取セラレヘキコト疑ハサル處ナル旨ヲ附言シ本件希望ニ關シ其ノ支持ヲ求メタルニ英國外務大臣ハ英國ハ顧問問題ニ付何等ノ要望ヲ有セス右帝國政府ノ要望ハ同大臣ノ關スル限り至極道理アルモノト思考スル旨ヲ述ヘ次テ八月四日同大臣ハ在英大使ニ對シ右顧問問題ニ關スル所言ヲ確認シ且本

件カ愈々實際問題トナリタル場合ニハ英國政府ハ日本ノ要望ヲ支持スル考ナル旨ヲ述ヘタリ

第二項 新借款團組織ニ關スル米國政府ノ提議

世界戰亂ノ結果一面米國內資力ノ膨脹ニ伴フ國外放資熱ノ勃興ト共ニ他面我カ帝國對支活動ノ一段進展ニ依リ刺激セラレタル米國政府ハ從來ノ對支消極策ニ是如タルヲ得ヌ大正七年(一九一八年)七月對支關係銀行家ヲ華盛頓ニ招集シ對支新借款團組織問題ニ關シ諮詢スル處アリ

右ニ對シ七月八日米國銀行團ハ其ノ計畫ニ對シ最モ熱心ニ贊成セリ尤モ(一)對支投資ニ關シ日米兩國ノ協同ヲ必要トスルヤ勿論ナルカ更ニ英佛ヲモ此ノ協同ニ入レシムル事(二)借款團ノ加入條件トシテ其ノ現有スル一切ノ借款優先權ヲ支那若クハ本借款團ニ讓渡スヘク又既ニ各團體ト支那トノ間ニ於ケル借款ハ悉ク本借款ノ事業トシテ提供スル事ヲ提言セリ

右意見書ニ對シ翌九日米國政府ハ國務卿ノ名ヲ以テ回答書ヲ與ヘ銀行團ノ希望ニ副フヘキヲ以テセリ尤モ借款優先權ノ讓渡ニ就テハ米國團員ニ屬スルモノニ付テハ勿論異議ナキモ外國團員ニ屬スルモノノ讓渡ヲ求ムルハ米國政府ノ權限外ナリ然レトモ米國團員ニシテ希望スルニ於テハ米國政府ハ其ノ爲シ得ル範圍ニ於テ讓渡ノ實行ヲ轉旋スヘキ旨述ヘタリ

翌十日米國政府ハ國務卿ノ名ヲ以テ右資本家ノ意見及之ニ對スル米國政府ノ回答書ヲ附加シ新借

款團組織ヲ日本政府ニ對シ從速スル處アリ

右提案ハ具體的交渉ノ域ニ進マシテ大正八年(一九一九年)ヲ迎ヘタルカ世界大亂モ終熄シタルヲ以テ借款團問題再ヒ擡頭シ同年五月巴里ニ於テ各國銀行團代表ニ依リ會議開催セラレ(一)米國政府ノ前年七月ノ對支新借款團組織ニ關スル原則ヲ承認シ更ニ(二)將來ノ借款事業及一切ノ現存借款契約並ニ借款選擇權ニシテ公募セラルヘキモノハ凡テ共同事業トス但シ企業(鐵道ヲ含ム)ニ關スル契約及選擇權ニシテ其ノ事業既ニ具體的進捗ヲナセルモノハ此ノ限リニアラス(ロ)各國團體ハ其ノ所有シ又ハ管理スル一切ノ此ノ種契約及選擇權ヲ借款團ニ提供スヘシ(ハ)各國團體ハ此ノ種ノ契約又ハ選擇權ヲ有スル他當事者ヲシテ其ノ契約又ハ選擇權ヲ借款團ニ提供セシムル爲最善ノ努力ヲ爲スヘシ等ノ條件及其ノ他ノ條件ヲ定メタリ

第三項 帝國銀行團ノ滿蒙除外要求及米國政府ノ反對

帝國トシテハ其ノ滿蒙ニ對スル特殊の地位ハ徒ラニ各國銀行團ノ曠尾ニ附シテ其ノ巴里決議ニ對シ無條件協贊ヲ爲スヲ許ナス六月十八日附ヲ以テ日本銀行團代表者ハ米國銀行團代表者ニ對シ借款團ノ事業ヨリ滿蒙ヲ除外セムコトヲ左記書翰ノ如ク要求セリ

拜啓陳者對支新借款問題ニ關聯シ巴里ニ於ケル貴下トノ會議於本月十六日貴下ト對氏トノ面談ニ關シ愛ニ日本團體本部ヨリ

日本カ特殊利益ヲ有スル滿蒙地方ニ於ケル一切ノ權利及ヒ選擇權ハ協定案所定ノ共同事業ニ關スル取極ヨリ除外セラレザルヘカラストノ訓令ニ接シタル旨達貴團體候右ハ日本カ前記地方ト地理上並歴史上極メテ特殊ノ關係ヲ有スル事實ニ匪論スル次第ニシテ且上記ノ特殊關係ハ從來屢々英米佛露ノ各國ニ依リ承認セラレタル所ニ有之且右ニ關シテハ特ニ千九百十七年十一月二日貴國國務長官ヨリ日本大使ニ送致セラレタル書翰ニ付貴下ノ注意ヲ喚起致度候

加之支那改革借款契約調印ニ當リ現存銀行團規約ノ調印ノ際日本銀行團ハ左記ノ事項ヲ留保セルコト有之候

千九百十二年六月十八日巴里ニ開催セラレタル六國團會議ニ於テ正ニ發行セラルヘキ支那改革借款ニ關スル協定討論ノ

際武内氏ハ日本國ヲ代表シテ左ノ通宣明シ且右ハ當時會議録ニ記載セラレタリ

日本ノ銀行ハ本借款カ毫モ南滿洲及南滿洲ニ接近セル内蒙古ノ東部地方ニ於ケル日本特殊ノ權利及利益ヲ毀損スルカ如キコト無シトノ了解ノ下ニ本借款ニ參加ス

上述ノ事情ニ對シ幸ニ貴下ノ慎重ナル考慮ヲ遊フルヲ得ハ幸甚ニ存候 敬具

千九百十九年六月十八日

小田切萬壽之助

タイ、ダブルユー、ラモント殿

「ラモント」ハ六月二十三日附ヲ以テ帝國銀行團滿蒙除外ノ要求ニ對シ反對的態度ヲ表示シ他方米國政府ヨリモ八月初旬公然滿蒙ト稱スルカ如キ包括的除外ニ對シ同意スルコト能ハサル旨ヲ回答セリ

第四項 滿蒙除外及洗熱線問題ヲ繞ル日英交渉

大正八年（一九一九年）七月二十二日附公文ヲ以テ在英珍田大使ニ對シ英國政府ハ借款團ニ關聯セル一切ノ事業ニ關シ從前ノ通り十分支持スヘク關係國政府ニ於テ同意ナレハ各自國團體ニ對シ與フヘキ支持ニ關スル米國政府提案ヲ承認スヘキ旨銀行團ニ通牒シタル趣並ニ現存銀行團ハ之ニ專屬的支持ヲ保障シ能ハサルモ其ノ確乎優越ナル地位ヲ支那ニ占ムルニ願ミ米國提案新借款團組織ニ關シ代表的英國銀行團トシテ認メラレンコト政府ノ望ム所ナル趣ヲ通知シ來リ尙右公文中本決定ニ違セル理由ヲ説明シ「當國銀行團ハ政府カ當初希望シタル如キ十分代表的タル團體ニ於テ改造セラレス遺憾ナカラ現在並將來ノ總テノ投資家ヲシテ不平無カラシムル事態ニ到達スルヲ得ス然モ政府指定ノ條件ヲ滿ササルカカル團體ヲシテ政府ノ支持ヲ獨占セシムルハ不當トスルカ故ナリ」ト言ヘリ

八月十一日ニ至リ英國外務省ハ在英日本大使館ニ對シ左記ノ如キ覺書ヲ送附越シ切ニ帝國ノ滿蒙除外要求撤回ヲ勸告スル處アリタリ

對支借款供給ヲ目的トスル國際借款團ニ英國加入ノ件ニ關シ「カーゾン」卿ハ日本國大使ニ對シ客月二十二日附公文ヲ送リタルカ右ニ依リ珍田子爵ハ英國團ニ對スル政府ノ專屬的支持（關

係國政府ノ各自銀行團ニ與フヘキ支持ノ程度ヲ定メタル米國「フォーミュラ」ノ採用ニ依リ滿蒙ノ解決ヲ告ケタル）ニ關スル條件ヲ除キ英國政府ハ三月二十二日附「カーゾン」卿ヨリ日本代表理大使宛公文所載國際借款團組織ニ關スル米國政府ノ原案全部ヲ容レタルコトヲ詳悉セラレタルヘシ

此計畫ハ珍田子爵モ儘カニ承知セララルカ如ク現ニ着手セラレタル「コンセッション」ヲ除キ支那ニ於ケル現在及將來ノ凡テノ「選擇權」ヲ借款團ニ於テ「プール」セムトスルモノナリ日本國大使ハ又去ル五月十一日及十二日ノ巴里ニ於ケル銀行團會議々事録ヲ閱讀セラレタルヘク其際關係各國政府ノ承認ヲ條件トシ全會一致ヲ以テ各銀行團ノ所有ニ係ル現存契約並「選擇權」ニシテ及募セラレヘキモノハ總テ借款團ニ「プール」シ尙團體外ノ者ニシテ此ノ種契約並「選擇權」ヲ有シ若ハ「コントロール」スルモノニ對シテハ之ヲ借款團ニ提供セシムヘク最善ノ努力ヲ試ムヘキコトヲ議決セリ

英米佛各國政府ハ既ニ各自國銀行團ニ對シ政府支持ノ程度ニ關シテハ米國ノ提議ニ從フヘキコトヲ條件トシテ右決議ヲ承認スル旨通告セリ然ルニ「カーゾン」卿ノ知ル限りニ於テ日本國政府ハ未ダ右承認ヲ與ヘス之カ爲借款團組織ノ緊急事業ハ其ノ進捗ヲ阻止セララルニ至レリ

英國政府ノ耳ニスル所ニ據レハ在巴里日本財務代表ハ本國銀行團ノ指令ニ依リ「日本ハ滿蒙ニ於テ歴史的地地理的特殊關係アリ右ハ累次英米佛露ノ認メタル所ナルニ依リ同地方ニ於ケル日本ノ權利及「選擇權」ハ契約案ニ規定セラルル「ブローリング」ノ取極ヨリ除外セラルヘキモノナリ」トノ旨ヲ他國銀行團代表者ニ告ケタリトコトナルカ右ハ英國政府ノ甚タ遺憾トスル所ナリ

英米佛各國團ハ右日本國ノ要求ニ對シ滿蒙ヲ借款團ノ範圍ヨリ除外セムトスル如キハ到底認容スヘカラサルモ事重大ニシテ直接銀行ニ於テ之ヲ討議スルノ權能ナキヲ以テ須ラク之ヲ政府ノ決定ニ委スヘシトノ態度ニ出テタリト聽ケリ

斯カル事態ノ下ニアリテ英國政府ハ本件ニ關シ日本政府ノ注意ヲ喚起シ（合衆國政府ニ於テハ既ニ之ヲ爲シタリトコトナリ）日本銀行團ヲシテ其態度ヲ變セシムル權措置方ヲ請フノ妥當ナルヲ覺ユ已ニ英日佛各國政府ノ認容ヲ得タル米國提案ノ基本的目的ノ一ハ特權利權範圍内ニ於ケル特種要求ヲ排拒シ支那全體ヲ完全ニ開放シテ國際借款團ノ協同活動ニ委スルニアリ此目的ハ各當事者カ其勢力範圍内ニ於ケル如何ナル經濟上ノ優先權ヲモ犧牲ニ供スルニ非サレハ之ヲ達成スルコトヲ得ス滿蒙ハ支那ノ重要ナル地域ニシテ之ヲ借款團ノ範圍ヨリ除外セムトセル

カ如キハ借款團ノ基礎的主義ヲ全然否定スルニ等シク斯クテハ他國側ノ同様ナル要求ノ復活ヲ誘起シ借款團組織ニ依リ回避セムト企圖セル困難ヲ永ク存續セシムルニ至ルヘシ

日本銀行團ヲ除キ他國銀行團ハ已ニ契約中ニ含マルル除外規定ノ外權利及「オブション」ハ總テ「プール」スルコトヲ承認セリ事ノ公平ヲ期セムカ爲メ各團體ハ此點ニ於テ皆一的ニ律セラレサルヘカラス

英國政府ハ日本國政府カ必スヤ如上ノ見解ヲ分チ日本銀行團ヲシテ滿蒙ヲ借款團ノ範圍ヨリ除外セムトノ要求ヲ撤回セシムルニ至ルヘキヲ信シテ疑ハス

右「カーゾン」卿ノ勸告ニ對シ内田大臣ハ八月十六日附電報ヲ以テ在英珍田大使宛英國政府ニ對シ次ノ如ク辨明方訓令スル處アリタリ

五月十一日及十二日巴里ニ於ケル各國銀行團代表者會議ノ決議ニ付テハ篤ト考慮ノ結果帝國政府ニ於テハ右巴里會議決議ヲ確認セリ但シ右決議ノ確認ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル日本ノ特殊權利及利益ニ付何等不利ノ影響ヲ及ホスコトアルヘキモノナリトハ解釋スヘカラサルハ勿論ナリトス

就テハ小田切巽ヲシテ右ノ次第各銀行團ニ申入レシメラルルト共ニ貴官ヨリモ左記ノ通説明ヲ

附シ任國政府當局ニ對シ以上ノ次第通告シ置カレ度シ

(一) 新借款團ニ「ブール」セラルヘキ事業ノ範圍ハ歐米諸國ニ取リテハ主トシテ單純ナル私的利害ノ問題タルニ止マルニ反シ日本ニ取リテハ日支兩國ノ地理上接近スル結果トシテ往々國家ノ緊密ナル利害問題ヲ包含シ殊ニ滿蒙地方ニ在リテハ國防放國民ノ經濟的生存ニ至大ノ關係ヲ有ス加之滿蒙地方ニ於ケル日本ノ地位ハ日本カ自衛上從來人命及國帑ニ多大ノ犧牲ヲ供シタル自然ノ成果ニシテ列國カ支那ノ一地方ニ於テ有スル地位トハ淵源及性質ヲ異ニス

(二) 加之日本カ斯ク滿蒙ニ於テ特殊ノ地位ヲ有スルコトハ從來任國當局ニ於テ之ヲ諒認セルコト一再ニシテ止マラサル所ナリ(註)
之ヲ要スルニ新借款團ノ成立ニヨリ支那ノ福祉ヲ増進シ關係各國ノ協調ヲ益々緊密ナラシムルハ日本ノ素ヨリ希望スル所ナリト雖滿蒙問題ニ對スル我國民一般ノ感覺ハ前記ノ特殊ナル理由ニ基キ特ニ銳敏ナルモノアルヲ以テ日本カ滿蒙ニ於テ有スル特殊利益ニ不利ナル影響ヲ及ホスカ如キ事業迄モ舉ケテ國際財策團ノ共同活動ニ委セサルヘカラサルカ如キハ到底我國論ノ是認セサル所ニシテ事實上行ハレ得ヘキコトニ非ス之レ滿蒙ニ於ケル我特殊地位ヲ諒認セル任國當局ノ必スヤ諒トセラルヘキヲ確信ス

帝國政府ハ彼上ノ理由ニ依リ滿蒙ニ關スル留保ヲ主張セサルヲ得サルモ亦之カ爲新借款團ノ班ヲ脱シテ列國ノ協調ニ背クノ不利ヲ憂フルカ故ニ任國政府ノ折衝ニ當リテハ成ルヘク餘地ヲ遺スコトヲ努メラレ度應酬ノ次第ハ隨時電報セラレ任國政府ニ於テ到底右主張ヲ認容スルノ望ナキコト明瞭ナルニ至ラハ別ニ請訓セラレタシ

(註)

一、英國ノ部

- (1) 先年奉天鐵道問題ニ關聯シ南滿洲ト揚子江トノ比較ニ付日英間ニ論争ヲ重ネタル際英國政府ハ南滿洲ニ對シ容味セサル方針ヲ恪守スヘキコトヲ言明シ且英國ノ揚子江地方ニ於ケル地位ハ經濟的關係ニシテ右經濟的關係ヨリ云ヘハ南滿洲ト揚子江トハ正ニ相匹敵スヘキコトヲ主張スルト共ニ日本ノ南滿洲ニ對スル地位ハ經濟的以上ニ政治的利害關係アルコトヲ諒認セリ
- (2) 大正四年中英國外務大臣ハ本多參事官及當時滬英中ノ石井大使ニ對シ支那ニ於ケル日本ノ發展ハ當然ノ運命ニシテ殊ニ滿洲地方ニ於テ然ル旨言明セリ
- (3) 本年七月十八日英國外務大臣代理ハ貴官ニ對シ滿蒙除外ノ不都合ヲ鳴ラスト共ニ南滿洲ニ於テ日本カ特殊ノ地位ヲ占ムルコト勿論ノ義ナル旨言明セリ
- (4) 最近ノ日露協約ノ内容ニヨリ日露兩國ノ滿蒙ニ於ケル特殊地位ヲ諒認セリ

一、米國ノ部

- (1) 大正四年三月十三日ノ所謂「ブライアン」公文ニ於テ美國國務卿ハ滿蒙地方ト日本國トハ領地接壤ノ關係ヨリ特殊

ノ關係ヲ形成スルコトハ米國ノ淡白ニ承認スル所ナリト宣明セリ

- (2) 同年二月二十二日米國國務卿ハ米國側ニテ問題アリタル所屬第五號警察ノ件ニ付我大使ヨリ其ノ目的滿洲ニ在ル旨說明シタルニ對シ滿洲ナレハ日本ニ於テ特殊ノ利害關係ヲ有スルヲ以テ了解ニ苦マスト述ヘタリ
- (3) 大正六年一月米國國務卿ハ我大使ニ對シ米國政府ハ支那ニ於ケル各國ノ優先權ハ承認スルコト能ハサルモ滿洲ハ別ナリト宣明セリ

- (4) 石井「ランシング」協定

- (5) 去年六月米國代表者ハ我代表者ニ對シ滿蒙除外ノ容認スヘカラサルヲ述フルト共ニ滿蒙ニ於ケル特殊利益ハ經濟上ノ問題ニアラスシテ右滿蒙除外ニ關スル日本ノ提案ハ財業者ノ論議スヘキ範圍ヲ超ヘタル極メテ重要問題ナリト云ヘリ

一、佛國ノ部

累次ノ日露締密協約ノ内容ニヨリ日露兩國ノ滿蒙ニ於ケル特殊地位ヲ諒認セリ

前記八月十一日附英國政府覺書ニ關シ内田大臣ハ在英永井代理大使宛要旨左ノ如ク八月二十六日打電スル處アリ

貴官ハ英國政府當局ニ會見ヲ求メ英國政府カ本件覺書中隔意ナク其ノ所見ヲ披瀝セラレタル友情ニ對シ帝國政府ノ深厚ナル謝意ヲ傳ヘタル上帝國政府ハ本問題ノ各方面ニ互リ熟考ノ結果四國代表者ノ決意ヲ承認スルニ當リ一定ノ留保ヲ附加スルノ已ムヲ得サルニ至リタル旨ヲ述ヘ

八月十六日往電ノ通告ヲ爲スト共ニ帝國政府ノ趣旨ヲ委曲説明セラレ度シ

右訓令ニ基キ在英日本大使館ハ九月一日附英國外務省宛左記覺書ヲ提出シ滿蒙ニ關スル留保ヲ主張セリ

日本政府ハ千九百十九年五月十一日及十二日巴里ニ於テ對支借款團組織ノ爲開催セラレタル米英佛日各銀行團代表者會議ノ決議ヲ確認ス但シ右決議ノ確認ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル日本ノ特殊權利及利益ニ何等不利ノ影響ヲ及ホスコトアルヘキモノナリト解釋スヘカラサルハ勿論ナリトス

帝國政府ノ右覺書ニ對シ英國政府ハ依然反對的態度ヲ持シ我カ要求ヲ拒絕シ之ニ關シ十一月二十日附ヲ以テ借款團ノ活動範圍ヨリ南滿洲及東部內蒙古ヲ除外セントスル帝國要求ヲ以テ不當ナリトシ之ヲ承認スル能ハサル意味ノ左ノ如キ覺書ヲ回附シ來レリ

去ル九月一日日本大使閣下ハ「カーゾン」伯ニ對シ左ノ覺書ヲ送致セラレタリ

日本政府ハ千九百十九年五月十一日及十二日巴里ニ於テ對支借款團組織ノ爲開催セラレタル米英佛日各銀行團代表者會議ノ決議ヲ確認ス但本決議ノ確認ハ南滿洲及東部內蒙古ニ於ケル日本ノ特殊權利及利益ニ何等不利ノ影響ヲ及ホスコトアルヘキモノナリト解釋スヘカラサル

其後「カーゾン」卿トノ會見ニ際シ珍田子爵ハ本國政府ヨリ接受セル訓令ニ遵ヒ南滿洲及東部内蒙古ノ意義如何ヲ説明セラレタリ

英國政府ハ右日本ノ説明ニ對シ最モ慎重考慮ヲ加ヘタル結果借款團ノ活動範圍ヨリ南滿洲及東部内蒙古ヲ除外セムトスル主張ニシテ地理的要求ヲ意味スルモノトセハ之ヲ承諾スルハ正當ニアラストノ結論ニ到達セサルヲ得ス

八月十一日閣下ニ通告セル覺書ニ於テ日本大使ニ指摘セルカ如ク支那ニ於テ廣汎ナル地域ニ互リ通商上ノ利益ヲ獨占セムトスルカ如キ要求ヲ承認スルハ利益範圍ヲ撤廢シテ支那ノ全土ヲ國際的財業協同活動ノ爲メ開放セムトスル借款團組織ノ根本ノ觀念ニ直接抵觸スルモノナリ

「カーゾン」卿ハ日本政府ニ於テ借款團ノ範圍及目的ニ關シ誤解ヲ抱ケルモノト思料セサルヲ得ス借款團カ已ニ固定セル利益ヲ侵害セムトスルカ如キモノトハ思考シ又思考セルコトナシ

五月十一日ノ團體規約案第一條ハ實業的企畫(鐵道ヲ含ム)ニシテ具體的進捗セル借款契約乃至優先權ハ之ヲ提供スルヲ要セサルヘキコトヲ特ニ規定セリ新借款團ノ範圍ハ明確ニ支那ニ於ケル將來ノ企業ニ對スル投資ニ限局セラルルモノニシテ斷シテ已ニ確定セル實業的企畫ニマテ

及フモノニハアラス

南滿洲ノ關スル限リハ「カーゾン」卿ハ右地域内ニ於テ重要ナル鐵道及其他ノ實業的企業カ日本ノ手ニ依リ已ニ進捗シ乃至進捗ノ道程ニアリ從テ明ニ借款團ノ範圍外ニ屬スルモノアルヲ承認ス

乍去東部内蒙古ニ付テハ然ラス同地方ニ在リテハ日本ニ鐵道ニ關スル優先權許與セラレ居レリト雖未タ何等工事ニ着手セラレス東部内蒙古ニ關シ日本政府ノ提議セラレタル要求ハ廣汎ナル地域ニ互リ排他的ノ利益ヲ保留セムトスルモノニ外ナラス而シテ該地域ノ南境ハ事實北京ヲ包擁シ且直隸省ヲ侵食スルカ如キ狀勢ニアルモノニシテ斯ル要求ハ日本ニ於テ累次恪守セムコトヲ誓約セル支那ノ獨立及領土保全ノ主義ト調和スルコトヲ得ス

仍テ本問題ヲ此見地ヨリ觀察スルトキハ日本政府ニ於テ南滿洲及東部内蒙古ニ關スル其現今ノ態度ヲ變更スルニ異議ナカルヘク從テ日本銀行團ニ對シ何等特別ノ留保ナク他國財團ト同一ノ基礎ノ下ニ新借款團ニ加入スヘキコトヲ許可セラルルニ至ラムコトヲ期待ス

日本政府ニ於テモ今ヤ支那ノ臨マムトシツツアル不幸ナル事態ニ顧ミ此ノ時局ニ對シ急速措置スルノ緊要ナルヲ認メ居ルヲ疑ハス

右公文ニ對シ帝國政府ハ我方主張ヲ敷衍スルト同時ニ英國政府ノ再考ヲ求ムル爲大正九年（一九二〇年）三月十六日左記覺書ヲ更ニ英國政府ニ提出セリ

帝國政府ハ對支新借款團組織問題ニ關スル客年十一月二十日英國政府ノ公文ニ對シ慎重考慮ヲ加ヘタリ然ルニ英國政府ニ於テハ南滿洲及東部內蒙古ニ關スル帝國政府ノ提言ヲ以テ經濟上ノ利益ヲ獨占スルモノトナシ或ハ所謂勢力範圍ヲ確立セムトスルモノトナシ殊ニ甚シキニ至リテハ支那ノ獨立及領土保全ノ主義ト相容レサルモノナリト思惟セラレ居ルカ如シ帝國政府ニ於テハ其提言ノ本旨ニ對シ茲ニ重ネテ腹藏ナク帝國政府ノ所見ヲ披露シ英國政府ノ考慮ヲ促サムトス

抑モ南滿洲及東部內蒙古一帯ノ地方ハ我領土タル朝鮮ニ接壤セル自然ノ結果トシテ我國防並國民的生存ニ極メテ深甚特異ノ關係ヲ生セリ爲メニ同地方ニ於ケル事業ハ往々ニシテ國家ノ緊切ナル安危ノ問題ヲ包含ス是レ日本カ同地方ニ於テ特殊ノ利益ヲ有シ且ツ從來特殊ノ權利ヲ設定シタル所以ナリ

帝國政府ハ素ヨリ新借款團組織ノ目的及本旨ニ對シテハ何等誤解疑惑ヲ抱ケルコトナク之ニ依リ列國ト共ニ支那一般ノ幸福増進ノ爲メ協力スルコトハ其ノ最モ欣幸トスル所ナリト雖南滿洲

及東部內蒙古地方ニ於テ日本ノ國防並國民ノ經濟的生存ニ至大ノ關係アル事業迄モ舉テ今回ノ新借款團計畫ノ如ク單ニ經濟的打算ノミニヨリ國際財團ノ共同活動ニ委セサルヘカラサルカ如キハ國家ノ安全ヲ保障シ自衛ノ方途ヲ講スルニ方リ其完キヲ期待スル能ハサルノ虞アリテ到底我國論ノ是認セサル處ナレハ昨年九月一日ノ會見ニ於テ「カーゾン」卿ニ對シ珍田大使ヨリ委曲説明シタル通ナリ加之殊ニ露國近時ノ政情ハ其ノ東亞ニ及ホス影響ニ付深甚ナル憂慮ヲ抱カシムルモノアリ現ニ西伯利亞ニ於ケル事態ハ最近急轉直下ノ勢ヲ以テ進展シ形勢ノ推移如何ニ依リテハ帝國ノ安危極東ノ治安ノ爲極メテ危險ノ情勢ヲ誘起スヘク曳イテ東亞全般ニ互リ危險ナル勢力ノ跳梁擾亂ニ委スルノ虞ナシトセス斯ル危局切迫ノ兆アルニ鑑ミ帝國政府ハ一層切實ニ自國並極東ノ危殆防遏ノ手段ヲ講スルノ必要ヲ自覺セリ然リ而シテ滿蒙ハ實ニ此等勢力ノ極東ニ浸潤シ帝國及東亞ノ安寧ヲ脅ス門戸タリ斯ル情勢ノ下ニ帝國政府カ特ニ滿蒙地方ニ對シ他ノ列國ト異リ死活ニ關スル底ノ緊切ナル關係ヲ有シ之カ爲國家及國民ノ生存上缺クヘカラサル特殊且正當ナル留保ヲ爲ササルヲ得サルコトハ英國政府ノ諒トセラルル所ナリト確信ス之ヲ要スルニ滿蒙ニ關スル帝國提案ノ趣旨ハ曩ニ説明セル通り最モ重キヲ國防ト國民的生存トニ置キ延イテ極東全般ノ平和ヲ顧念セルニ出タル次第ニシテ更ニ最近ノ事態ニ依テ此ノ信念ヲ益

々深カラシム從テ如上ノ本旨ヲ傷ハサル限リハ滿蒙ニ於テモ各國資本家ト協力スルヲ辭セサル
 ヘキハ勿論ニシテ素ヨリ何等地理的區劃ヲ設ケテ經濟上ノ利益ヲ壟斷シ乃至所謂勢力範圍ヲ確
 保増進シ或ハ支那ノ獨立及領土保全主義ニ背反セムトスルカ如キ動機ニ出ツルモノニアラサル
 ハ多言ヲ俟タス此等ノ點ハ特ニ英國政府ニ於テ慎重周密ナル考慮ヲ加ヘラレムコトヲ切望ス然
 ルニ過日「カーゾン」卿ハ珍田大使ニ對シ新借款團ニ依リ遂行セラレムトスル企劃ニシテ日本ノ
 國防上ノ見地ヨリ其ノ安全ヲ脅スカ如キ虞アルニ於テハ之ヲ防ク爲スル場合ニ適應スヘキ一ノ
 「フォーミュラ」ヲ案出セムコトヲ求メラレタル趣ニテ右ハ幸ニ英國政府ニ於テモ正ニ帝國政府
 ト愛ヲ分タレ居ルモノト認メラレ誠ニ欣快ニ堪エサルニ付帝國政府ハ此際日本銀行團ニ對シ他
 ノ銀行團ト同一ノ基礎ニ於テ新借款團加入ヲ認可スルト共ニ前來所述ノ趣旨ニ願ミ左記ノ「フ
 ーミュラ」ニ依リ別ニ關係各國政府ト適當ナル文書交換ヲ行ヒ以テ本件ノ解決ヲ圖ラムトス

左記

日本政府ハ千九百十九年五月十一日及十二日巴里ニ於テ對支借款團組織ノ爲開催セラレタル
 日英米佛各銀行團代表者ノ決議ヲ確認ス但南滿洲及東部內蒙古ニ關スル借款ニシテ帝國ノ國
 防並國民ノ經濟的生存ノ安全ヲ確保スル上ニ於テ重大ナル障害ヲ來タスト認メラルモノニ

付テハ帝國政府ニ於テ其安全ヲ保障スルニ必要ナル措置ヲ執ルノ自由ヲ留保ス

一、南滿洲鐵道及同枝線ノ附帶事業タル嶺山ハ借款關係ニアラサルヲ以テ當然新借款團ノ共
 同範圍ニ屬セス

二、吉長鐵道新奉鐵道及四鄭鐵道ハ已ニ工事完成シ列車ノ運轉開始シ居レルヲ以テ新團體規
 約案第二條ニ所謂具體的進捗ヲ爲セルモノニシテ當然新借款團ノ共同範圍ニ屬セス

三、吉會鐵道鄭家屯洮南鐵道長春洮南鐵道開原吉林鐵道洮南熱河鐵道及洮熱線ノ一地點ヨリ
 海港ニ至ル鐵道ハ皆ニ南滿洲鐵道ノ枝線若ハ營養線タルニ止マラス實ニ南滿洲鐵道ト相俟
 テ帝國國防ニ最モ重要ナル關係ヲ有シ且極東治安保持ノ基準タルモノナルニ願ミ新借款團
 ノ共同範圍ヨリ除外セラルヘキコトヲ期待ス尙右ノ内ノ多クハ已ニ英米兩國政府ニ於テ除
 外方同意ヲ表セラレタル所ナリ且右ノ如ク之ヲ除外スルモ他日實際及債ヲ發行スルニ當リ
 テハ之ヲ歐米ノ市場ニ於テモ求ムルコトアルヘシ

前述ノ帝國ノ滿蒙除外要求ノ公文ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ英國外務省ヨリ在英日本大使館宛三月十
 九日左記覺書ヲ送附越セリ

英國外務大臣ハ計畫中ノ借款團下ニ於ケル南滿洲及東部內蒙古ノ地位ニ關シ三月十六日日本大

使閣下ヨリ提出セラレタル覺書及「フォーミュラ」ニ對シ慎重攻究ヲ加ヘタル結果左ニ其ノ所見ヲ開陳スルノ光榮ヲ有ス

客年十一月二十日珍田大使ニ手交セル覺書ニ於テ支那ニ於ケル廣汎ナル地理的區域ヲ借款團ノ範圍ヨリ除外セムトスル日本ノ要求ニ對スル英國政府ノ反對意見ヲ宜明シ置キタル處今回提案セラレタル「フォーミュラ」ノ辭句ニ於テ前顯日本當初ノ態度ニ殆ト何等ノ更新ヲモ發見シ難シトノ結論ニ到達セサルヲ得サルハ「カーゾン」卿ノ頗ル遺憾トスル所ナリ即チ右「フォーミュラ」ニ據レハ

南滿洲及東部内蒙古ニ關スル借款ニシテ日本ノ國防並國民ノ經濟的生存ノ安全ヲ確保スル上ニ於テ重大ナル障害ヲ來スト認メラルモノニ付テハ日本政府ニ於テ其ノ安全ヲ保障スルニ必要ナル措置ヲ執ルノ自由ヲ留保ス

ト謂フニ在テ其ノ字句明瞭ヲ缺キ且其ノ性質總括的ニシテ爲メニ日本政府ニ於テハ依然他三國銀行團カ支那ノ福利ノ爲メ同共和國ノ重要地域ノ開發ニ協同參加スルヲ排除セラレムトスルノ意圖アルヲ表明スルモノト思考セラルヘク從テ日本ノ留保ハ支那ノ獨立ノ原則並領土保全ノ實現ト相容レサルモノナリトノ印象ヲ與フルモノナリ

英國政府ハ經濟的生存ニ必要ナル食糧品及原料品ノ供給ヲ確保セムトスル日本國民ノ正當ナル要望並朝鮮邊疆ヲ戰略上ノ見地ヨリ防護維持セムトスル至當ナル其ノ要望ハ共ニ充分之ヲ承認スルモノナリト雖例ヘハ日本政府説明書第三項ノ留保中ニ舉示セラレタル南滿洲鐵道ノ西方ニ位スル三鐵道ヲ建設管理スルコトハ前記ノ必要ニ應スル爲獨リ日本ニノミ喫緊ノ事ナリトハ信シ難キ所ナリトス

去リ乍ラ出來得ル限リ日本政府ノ希望ニ副ハシムルト同時ニ孰レニセヨ特殊ノ利益範圍カ公然承認セラレタルモノナリトノ印象ヲ與フルカ如キ特殊地域ノ明記ヲ避ケムカ爲英國政府ハ日本政府ニ於テ借款團カ日本ノ經濟的生存及國防ノ安全ニ影響ヲ及ホスカ如キ何等施措ヲ試ミルコトアルヘシト懸念スルノ要ナク且前記日本ノ利益ニ危險ヲ及ホスカ如キ活動ニ對シ支援ヲ拒斥スルコトニ付テハ關係列強ノ誠意ニ充分信頼シ得ヘキ旨文書ヲ以テ保證ヲ與フルニ躊躇セサルヘシ帝國政府ハ四月十四日遂ニ英米兩國政府勸告ヲ容レ公文ヲ撤回スルコトニ同意シ一方拋棄ヲ要求セラレタル洗熱鐵道ニ對スル帝國ノ希望條件ヲ加ヘタル左記覺書ヲ提出セリ

日本國政府ハ英國政府カ對支新借款團組織ニ關スル日本ノ提言ニ對シ再其ノ所見ヲ腹藏ナク開陳セラレタル千九百二十年三月十九日附覺書ヲ受領シ慎重熟閱セル處英國政府ニ於テハ日本政

府ノ提議セル「フォルミユラ」ノ主義タル日本ノ國防並日本國民ノ經濟的生存ノ安全ヲ保障セムトスル日本ノ正當ナル希望ヲ十分承認セラレ出來得ル限リ日本政府ノ希望ニ副ハントセラレタルニ對シ満足ノ意ヲ表ハスハ日本政府ノ欣幸トスル所ナリ

英國政府カ前記「フォルミユラ」ノ辭句及性質ニ鑑ミ右ハ依然トシテ他國ノ支那ニ於ケル重要地域開發協同參加ヲ排除セムトスル日本ノ希望ヲ表示スルモノト解セラレ從テ斯ル Formula ノ文辭ハ日本ノ留保カ支那ノ獨立及領土保全ノ主義ト相容レサルカ如キ印象ヲ與フル虞アリ且地理的區域ノ表示ヲ爲スハ特殊ノ利益範圍ヲ公認スルモノナルカ如キ印象ヲ惹起スル虞アリトシ斯ル表示ヲ避ケムコトヲ提議セラレタルニ對シテハ日本國政府ハ友好ノ精神ニ基ク忠言トシテ之ヲ認ムルニ躊躇セサルモ右日本政府提議ノ理由ハ要スルニ日本既得ノ特殊權利並ニ接壤關係ニ基ク特殊地位ヲ明ニセンカ爲メ必要且ツ有益ナリト信シタルニ據ルモノニシテ英國政府ノ指摘セラレタルカ如キ該「フォルミユラ」ニ伴フ印象等ニ至テハ日本政府ノ念頭ニ浮ハサリシトコロナリ

乍去英國政府ノ憂慮セララルルハ日本ノ提議ノ本旨ニ非スシテ其ノ形式ニ在ルコトヲ了知シタルニ付日本政府ハ重ネテ篤ト考慮ヲ費シタル結果日本政府提議ノ國防並國民ノ經濟的生存ノ安全保障ノ根本義ハ英國政府ニ於テモ十分承認セラレ從テ日本政府ニ於テ新借款團カ日本ノ經濟的生存及七國防ニ影響スヘキ何等活動ニ出ツヘキヲ恐ルルヲ要セタル旨並ニ關係列國ニ於テ右ノ如キ利益ニ反スル企業ニ同意スルモノニ非サル旨ノ保障ヲ書面ニテ日本ニ與ヘラルル趣英國政府ノ聲明ニ信賴シ欣然同政府ノ忠言ヲ容レ他ノ各關係國政府ニ於テモ右英國政府ノ了解ニ同意スヘキコトヲ條件トシテ茲ニ Formula ヲ特設セムトスル提議ヲ撤回スヘシ

次ニ日本政府カ當然新借款團ノ共同範圍ヨリ除外セララルヘキコトヲ期待セル鐵道其他ノ企業ノ列記ニ付英國政府ハ南滿洲鐵道以西ニ在ル三鐵道ニ付日本單獨ニテ建設管理スルノ必要アリヤ疑ナキ能ハストノ見解ヲ持セララルル處元來洸南ヨリ熱河ニ至ル線及同線ノ一地點ヨリ海港ニ至ル線ノ兩鐵道ハ同地方ノ經濟的發達ヲ遂ケシムルヲ目的トスル外ニ庫倫方面ヨリスル外敵ニ對シ日支協同シテ之ヲ防禦セムトスル軍路上ノ見地ニ基キ計畫セラレタルモノナリ然ルニ往々之ヲ以テ北京方面ヲ威壓セムトスルモノナルカ如キ誤解アルハ日本政府ノ甚タ意外且遺憾トスル處ニ付此ノ點ハ英國政府ニ於テ篤ト日本ノ立場ヲ諒解セラレムコトヲ期待ス乍去日本政府ハ列國トノ共通利害ヲ顧念シ右兩鐵道ヲ新借款團ノ共同事業トナスコトニ對シ異存ナキモ兩鐵道ニ對スル日本ノ特殊ノ關係ニ顧ミ左ノ二點ニ付英國政府ノ贊同ヲ得ムコトヲ希望ス